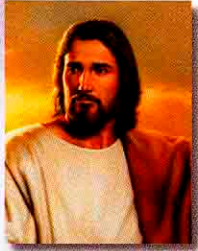


末日聖徒イエス・キリスト教会・2002年12月号

リアホナ



リアホナ



表紙

表紙—「静かな水辺で」の一部。サイモン デューイ画。ユタ州アメリカンフォーク アルタス ファイン・アート社の厚意により掲載。裏表紙—「見よ 神の小羊」ウォルター レーン画。



「フレンド」表紙

「わたしの息子 わたしの救い主」の一部。サイモン デューイ画 ユタ州アメリカンフォーク。アルタス ファイン・アート社の厚意により掲載。



6ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ— 神の御子についての証^{あかし}
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 6 「雲のように囲む証人」 スティーブン・K・イーバ
- 16 キリストに希望を見いだす 地域幹部七十人 ヨハン・A・ワンドラ
- 26 末日聖徒の声
母の愛に包まれて ボニー・ダニエルソン
クリスマスの真の精神 フリア・マリア・コルテス・デ・ベルソ
エクアドルのホワイトクリスマス カール・グロッセン
父からもらった贈り物 ルース・M・アンダーソン
光をもたらしてくれた姉妹 ムリエル・ロビンソン
クリスマスの小さな奇跡 匿名
- 33 家庭訪問メッセージ— 神殿の祝福を享受する
- 34 義になかった女性たち 十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード
- 44 リアホナ・クラシック— わたしが受けた証^{あかし}は真実です
ルーシー・マック・スミス
- 48 『リアホナ』2002年12月号の活用法

青少年

- 10 キリストについての証^{あかし}— キリストについて証をする末日聖徒の芸術家たち
- 20 歌— 神の宮 サリー・デフォード
- 22 質疑応答— 教会ではどうして16歳になるまでデートはしないようにと教えているのですか
- 25 アイデアリスト— お金では買うことのできない贈り物
- 32 ささやかな贈り物 ジョシュア・ドムー
- 46 什分の一^{じゅうぶん}を納める ジェニファー・M・セベリーノ
- 47 御存じでしたか？

フレンド

- 2 救い主^{すくぬし}の愛のおくり物^{あいもの}—
大管長会から世界中^{せかいじゅう}の子どもたちへのクリスマスメッセージ
- 4 「わたしは世の光である」 キンバリー・ウェブとクリスティーン・ラップレイエ
- 6 預言者^{よげんしゃ}のために ローリ・モーテンセン
- 9 新約聖書^{しんやくせいしょ}ものがたり— キリストのさいりん
- 12 分かち合い^{わかちあひ}の時間— へいわのみみ ビッキー・F・マツモリ
- 14 小さなお友だち^{ちいさなおとも}へ— アデマール・ダミアニ長老^{ちやうらう}
- 16 切り絵「わたしは世の光である」
キンバリー・ウェブとクリスティーン・ラップレイエ

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります)

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：デニス・B・ノイエシユバンダー
顧問：J・ケント・ジョリ、W・ロルフ・カー、ステイブン・A・ウエスト

教科課程管理部責任者

実務運営ディレクター：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・クレイ
グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーグ

国際機関誌スタッフ

編集主幹：マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐：ジェニファー・L・グリーンウッド
編集副主幹：ロジャー・テリー
編集補助：スーザン・バレット

出版補佐：コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ

機関誌グラフィックスマネージャー：M・M・カワサキ
アートディレクター：スコット・パン・カンベン
デザイナー主任：シェリー・クック

デザイナー：トーマス・S・チャイルド

制作主幹：ジェーン・アン・ピーターズ

制作：レジナルド・J・クリステンセン、デニース・カービー、ケリー・ブラッド、ローランド・F・スピークス、カリ・A・トッド、クラウディア・E・ワナー

デジタルプリプレス：ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ

ディレクター：ケイ・W・ブリッグス
配送部長：クリス・クリステンセン
マーケティング部長：ジョイス・ハンセン

●定期購読は、「『リアホナ』予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ…〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター ☎03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 明文社

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines December 2002, Japanese. 22992 300

For Readers in the United States and Canada:
December 2002 no. 12. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

読者からの便り



宣教師の記事を読んで

カリフォルニア州ベンチュラ伝道部での伝道の召しは、2001年9月26日に届きました。プエルトリコのわたしの家に『リアホナ』(スペイン語版)10月号が届くと、そこには伝道の特集記事が組まれていました。良い宣教師になるためのたくさんアイデアを得ることができ、この号がとても気に入っています。

カリフォルニア州ベンチュラ伝道部、
ホセ・A・ロマン・セラノ長老

『リアホナ』を友達に読んでもらう

毎月『リアホナ』(英語版)を楽しく読んでいます。どこへ行くときも『リアホナ』を携帯して出かけます。友達は『リアホナ』の中味を見るために借りていき、ほんとうにすばらしかったと言ってくれます。まだ教会員ではない友達や親戚に『リアホナ』を読んでもらうことは、わたしの喜びです。わたしは教会員の皆さんに、読み終わった『リアホナ』をほかの人に貸すようお勧めします。

フィリピン・ダグバンステーク、
カラシアオ第2ワード
フローラ・T・ガダインガン

末日聖徒の模範に励まされて

わたしは『リアホナ』(スペイン語版)を読むのが好きです。所属するワードの長老定員会会長として、預言者からのメッセージは定員会で教える備えをするのに役立つからです。また、生ける預言者の言葉は自分を向上させるうえで助けになります。そして世界中のほかの地域に住む末日聖徒の模範に触れることにより、力強く進むよう励まされています。

ハイチ・レ・カイ地方部
ニカラグア・マナグアステーク、
アルタグラシアワード
ジャフナー・フランシスコ・オロツコ・
キャンボス

編集部からのお願い—『リアホナ』
についてのご意見、ご提案をお寄せください。お手紙、記事、アイデアなどを下記までお送りください。

Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, USA. Eメールの場合は cur-liahona-imag@ldschurch.org。

皆さんからのご意見、ご提案を歓迎する一方で、『リアホナ』とは無関係の手紙やEメールもたくさん寄せられています。一例として、外国に住む会員との連絡の依頼、レッスンのための特別な資料の請求などが挙げられます。これらの要望に喜んでおこたえしたいところですが、『リアホナ』の制作に支障を来す恐れがあります。したがって、皆様からのご意見を『リアホナ』に関する内容だけにとどめてくださるようお願いいたします。資料探しやそのほかの事柄に関しては、地元の指導者からもっと適切な助けを受けることができます。



神の御子

についての証^{あかし}

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー



今から約2,000年前に、人類の贖い主がユダヤのベツレヘムでお生まれになりました（教義と聖約20：1参照）。そ

して、この御方はまだ幼いときに、エルサレムの神殿に連れて行かれました。そこで、マリヤとヨセフは、世の救い主になるよう定められていたその小さな幼子^{おきなご}についてシメオンとアンナが語ったすばらしい預言を耳にしました。

この御方はガリラヤのナザレで幼年時代を過ごし、12歳のときに再び神殿に連れて行かれました。そこでマリヤとヨセフは、この御方が教師たちと語り合っていたのを見ました。教師たちはこの御方の話に耳を傾け、この御方に数々の質問をしていました（ジョセフ・スミス訳ルカ2：46参照）。

偉大なエホバ

後に主は、教導の業を始めるに当たって神殿の頂に立ったとき、サタンから試しをお受けになりました。さらにその後、主は神殿から両替人たちを追い払って言われました。「『わたしの家は、祈^{いのり}の家となえらるべきである』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている。」（マタイ21：13）

イエスは実に旧約の偉大なエホバであり、天におられ

「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』となえられる。」



る御父の王宮を出て、身を落として最もつましい環境の下に生まれる幼子としてこの世に降って来られたのです。主の降誕は何世紀も前にイザヤにより預言されて

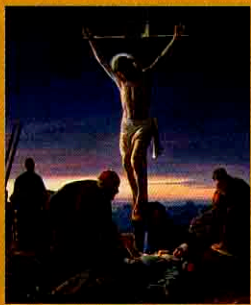
いました。イザヤの預言の言葉は次のとおりです。「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり、その名は、『靈妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君』となえられる。」（イザヤ9：6）

わたしたちが厳粛に証を述べるこのイエス・キリストは、黙示者ヨハネが述べているように、「忠実な証人、死人の中から最初に生れた者、地上の諸王の支配者」です。イエス・キリストは、「わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さ」いました。この御方に「世々限りなく栄光と権力が」ありますように（黙示1：5-6）。

世の救い主

イエス・キリストは、過去も現在も全能者の御子です。地上を歩んだ人々の中でただ一人、完全な御方です。イエス・キリストは病人を癒し、足の不自由な人を歩けるようにし、目の見えない人を見えるようにし、耳の聞こえない人を聞こえるようにされました。また、死者を蘇^{よみがえ}生させられました。しかし、イエス・キリストは贖罪という行為のために御自分の命を差し出されたのです。その贖罪の重要性はわたしたちの理解を超えるものです。

かつてオリブ山にあったオリーブの木の小さな森に勝る聖なる場所は地上にありません。イエスが死すべき生



イエス・キリストは、ゲツセマネで苦しまれた後、捕らえられ、裁かれ、罰を宣告され、十字架上で言語に絶する苦痛を受けて亡くなり、その後、ヨセフの墓に葬られ、勝利の復活を得られました。

涯でのあの最後の夜に使徒たちを残して、たった御一人で深い苦悩の中に降って行き、全人類の罪のために贖いの犠牲となられたのは、そのゲツセマネの園でのことでした。

イエスはゆっくり歩いて行って、ひざまずき、身を伏せると、次のように叫ばれました。「アバ、父よ、あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころのままになさってください。」(マルコ14:36)

ルカはこの苦しみが非常に大きく、「その汗が血のしたたりのように地に落ちた」と記録しています(ルカ22:44)。そのときの精神的苦痛の肉体的現れがモルモン書と教義と聖約にも記されています。ゲツセマネでの苦しみと、ゲツセマネからわずか数百メートルのカルバリの十字架上で苦しむは、ベニヤミン王が言うように、肉体と霊の両方の「試練……苦痛や飢え、渇き、疲労……人にとっては死ぬ以外に耐えようのないもの」でした(モーサヤ3:7)。

キリストの思慮深い弟子たちにとって、たった御一方の自発的かつ憐れみ深い犠牲が無限で永遠の正義の要求を満たし、あらゆる人の過ちを贖うことを可能にしたというのは、この上なく驚くべきことです。しかし、わたしは証します。わたしたち一人一人のためにキリストはまことにこのことを行ってくださったのです。わたしは厳粛に証します。イエス・キリストの贖罪はわたしたちの救いと幸福のために定められた神の永遠の計画における慈悲の基であり、その中心を成す事実なのです。

わたしは世の救い主であるイエス・キリストに驚嘆と畏敬の念、また崇敬の念を表し、使徒としての証を述べます。

イエス・キリストは、ゲツセマネで苦しまれた後、捕らえられ、裁かれ、罰を宣告され、十字架上で言語に絶する苦痛を受けて亡くなり、その後、ヨセフの墓に葬られ、勝利の復活を得られました。2,000年前につましい環境のもとに生まれ、パレスチナのほこりの道を歩まれた御方が、全能の主、王の王、万人に救いをもたらす御

方となられたのです。主の生涯のすばらしさ、主の死に伴う威光、人類への主の賜物の普遍性を完全に理解できる人はいません。わたしたちは主がお亡くなりになったときに百卒長が語った言葉を引き合いに出してはっきりと宣言します。「まことに、この人は神の子であった。」(マルコ15:39)

わたしたちの生ける主

旧世界における証の書である聖書にはこのことが証として述べられています。また、もう一つの声があります。それは新世界における証の書の証です。その証の書の中で、御父は復活された御子を紹介し、次のように宣言しておられます。「わたしの愛する子を見なさい。わたしの心にかなう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。」(3ニーファイ11:7)

これらすべてに付け加えて、近代の預言者たちは次のように宣言しています。「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』(教義と聖約76:22)

人類の歴史上、復活の事実以上に明確な証言がなされている出来事はありません。両大陸の主の弟子たちがそのことを証しています。様々な時代に数限りない男女が、全人類の救い主、贖い主である主が生きておられるという心の中にある証のために人々から苦しめられてきましたし、殺されたことさえありました。この御方による贖罪は全世界に対する恵みの行為でした。勇敢で謙遜な人々は何と長い間、また何と立派にイエスの御名と主の贖いの証を守り続けてきたことでしょう。

そして、主は、わたしたちを祝福し、わたしたちの心を温かくし、信仰を活気づけ、主が現実に生きておられるという確実な知識を与えるために、末の時代に再び来られました。そして、わたしたちはすべての人々の中で次のように歌うことができるのです。

「もろびと、こぞりて 迎えまつれ

ひさ
久しく待ちにし

主は来ませり 主は来ませり 主は、主は来ませり」
（「もろびと、こぞりて」『賛美歌』116番）

わたしたちは主をたたえます。主を礼拝します。わたしたちの贖い主、旧約の偉大なエホバ、新約のメシヤである主を愛しています。モルモン書と教義と聖約の証を貫く目的は、生ける主について宣言することです。そして、わたしたちはへりくだり、信仰をもってその御方の前にひざまずきます。

神の御子

ですからわたしたちはこのクリスマスの時期に、主を賛美して歌い、信仰と感謝と愛の言葉を語るのです。生活に及ぼされる主の影響によって、わたしたちは、人々に対してもっと思いやり深く、もっと敬意を払い、もっと愛を示し、もっと心配りをするよう促されます。悩みや苦しみを抱えている人々、助けの必要な人々がどこに住んでいようと、わたしたちがそのような人々に手を差し伸べるのは、主が実在し、主の教えがあるからです。

敬虔に愛をもって主イエス・キリストを思い起こすことは、主の降誕を記念するこの時期にふさわしいことです。わたしたちが自分自身で行えないことを、主はわたしたちのために行ってくださいました。主はわたしたちの死すべき存在を意義深いものにしてくださいました。主は永遠の命という賜物たまものを授けてくださいました。主は、過去も現在も神の御子です。神の御子は「肉体となり、わたしたちのうちに宿った。わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、めぐみとまこととに満ちていた」とあります（ヨハネ1：14）。

神の御子、世の贖い主、人類の救い主、命と平和の君、聖者なる御方を授けてくださった神に感謝しています。

□

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。次に挙げるのはその一例です。

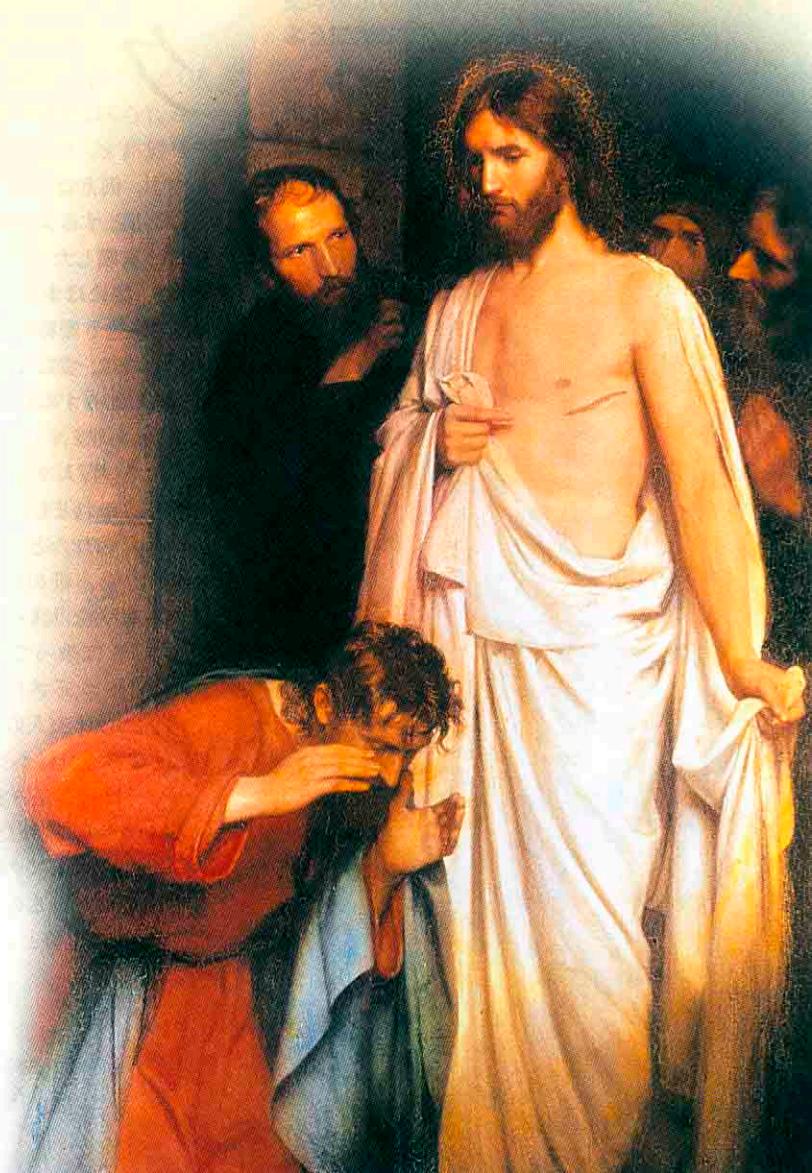
1. 救い主の生涯における幾つかの出来事の絵を見せる。家族の人々に、その出来事について、またイエス・キリストに対する気持ちについて述べてもらう。ヒンク

レー大管長のメッセージの最後の3段落を読み、神の御子についてあなたの証を述べる。

2. 家族の人々と、クリスマスの賛美歌を何曲か一緒に歌う。ヒンクレー大管長のメッセージの中から救い主に対する大管長の気持ちを述べた言葉を読む。

3. 次のようなイエス・キリストの名または称号を1枚ずつ紙に書く——エホバ、命と平和の君、神に愛されている御子、救い主、救いをもたらす御方、聖者、世の贖い主。それぞれの御名を一つずつ示し、イエス・キリストについてどのようなことを学べるか話し合う。

人類史上の出来事の中で、復活の事実以上に明確な証言がなされているものはありません。



「雲のように」



マリヤと
エリサベツ

わたしたちは、聖文や^{あまた}数多
の特別な証人による救い主
^{あかし}の証に取り囲まれています。

スティーブン・K・イーバ

クリスマスは思い起こし、感謝する時です。わたしたちは自分たちが受けている多くの祝福を、当たり前のように思いがちです。例えば、美しい青空を見上げて、はっとするような白い雲の奇跡に最後に驚嘆したのは、いつだったでしょうか。雲にはすじ雲、霧雲、綿雲など、様々な大きさや種類があります。

聖文では、雲は霊的な存在を伝えたり、表したりするために用いられることがよくあります。主は雲の中に現れ、イスラエルの人々を荒れ野から約束の地へと導かれました。復活したイエスは天へ昇られたとき、雲に迎えられました。世の終わりには、救い主は力と大いなる栄光をもって、雲に乗って降りて来られます(出エジプト13:21;使徒1:9;マタイ24:30参照)。

使徒パウロはヘブル人のように書き送りました。「こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とを

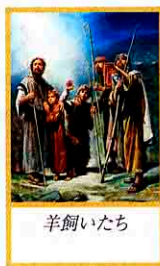
かなぐり捨てて、……信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見[よう]ではないか。」(ヘブル12:1-2)

時の中間に使徒パウロが記した、「雲のように囲む証人」という比喩は、多数の証人の群れ(訳注——英語の“cloud”には「雲」のほかに「群れ」という意味がある)に発展していきました。わたしたちは、福音の回復が始まって以来、完全な聖文や数多の特別な証人によるイエス・キリストの神性にかかわる証に取り囲まれています。

主の降誕以前にいた、雲のように囲む証人

クリスマスの時節になると、わたしたちの思いはとりわけ救い主の降誕に向けられます。主が肉体を得て来られることを実際に見た人々の証を読んだり、思いを巡らせたりすることが多くなります。それらの人々の証は以下の聖文に記録されています。マリヤ(ルカ1:26-56;2:7,19参照)とヨセフ(マタイ1:18-25;2:13-23参照)、エリサベツ(ルカ1:41-45参照)とザカリヤ(ルカ1:67-79参照)、羊飼いたち(ルカ2:8-20参照)、シメオン(ルカ2:21-35参照)、アンナ(ルカ2:36-38参照)、博士たち(マタイ2:1-12参照)、古代アメリカの民(3ネーファイ1:15-21参照)。

主の降誕をそのはるか以前から知っ



羊飼いたち

「困む証人」



ていた人々が残した聖文の記録を読み返し、熟考してみるのもよいでしょう。

「主はアダムに語って言われました。……神の独り子の名は、人の子、すなわちイエス・キリストであり、時の中間に来る義にかなった裁き主である。さて、わたしはあなたに戒めを与える。あなたの子供たちに次のことを率直に教えなさい。」(モーセ6:55, 57-58, 強調付加)

「さて、エノクは主とともに語り、……人の子がまことに肉体を取って来られる日を見た。そして、彼は心から喜んだ。」(モーセ7:20, 47, 強調付加)

アブラハムはカナンの地で次のように記しました。「このように、わたしアブラハムは、……顔と顔を合わせて主と語った。……主はわたしに言われた。『……わたしは主なるあなたの神である。』」(アブラハム3:11, 19)「アブラハムは、神の御子の来臨を見て、喜びに満たされ、うれしく思った。」(ヒラマン8:17)

「モーセは神の前に立ち、顔と顔を合わせて神と語った。」(モーセ1:31, 強調付加)「まことに〔モーセ〕は、神の御子が将来来られることを証しなかったか。」(ヒラマン8:14)

救い主はヤレドの兄弟に次のように語られました。「あなたはこれらのことを知っているのだから、墮落から贖われ、……そこで、わたしはあなたにわたし自身を現す。……わたしは今、霊の状

態であなたに現れているように、将来肉にあってわたしの民に現れる。」(エテル3:13, 16)

イザヤ——「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。」(イザヤ9:6)「わたしの目〔は〕万軍の主なる王を見た……。」(イザヤ6:5)

父リーハイは示現の中で「天の真ん中から降りて来られる一人の御方〔イエス・キリスト〕を見ました(1ニーファイ1:9)。

ニーファイ——「眺めると、腕に幼子を抱いたおとめが見えた。すると天使がわたしに言った。『神の小羊、まことに永遠の父なる神の御子を見なさい。』」(1ニーファイ11:20-21)ニーファイはさらに証しています。「わたしの弟のヤコブもまた、わたしが贖い主にまみえたと同じように、すでに贖い主にまみえている。」(2ニーファイ11:3)

ヤコブ——「エルサレムで、将来、神が肉体にあって人々に御自身を現される……創造主御自身が肉にあって人のなすがままに……なられることが必要なのである。……神は、……すべての人を救うために、この世に来られる。」(2ニーファイ9:5, 21)

アビナダイ——「神御自身が人の子らの中に降って来て、人の形を取られる。」(モーサヤ13:34)



ヤレドの兄弟

アルマは預言しました。「神の御子は、わたしたちの先祖の地であるエルサレムで、マリヤからお生まれになる。マリヤは……おとめであって、尊い、選ばれた器である。」(アルマ7:10)

主の復活以降に現れた、雲のように困む証人

聖文の記録や教会歴史記録に見られる、雲のように困む証人から、以下の証を心に留めてみてください。それぞれ、主が今日も生きておられることを証しています。

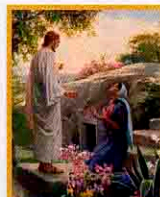
エルサレムの園で「イエスは彼女に『マリヤよ』と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかって……『ラボニ』と言った。」(ヨハネ20:16, 強調付加)

11人の使徒が集まっていたときに、「戸はみな閉ざされていたが、イエスはいってこられ、中に立〔たれた。〕……トマスはイエスに答えて言った、『わが主よ、わが神よ。』」(ヨハネ20:26, 28)

黙示者ヨハネは孤島に流されていたとき、こう記しました。「わたしは彼を見たとき、その足もとに倒れ〔た。〕すると、彼は右手をわたしの上において言った、『恐れるな。わたしは……生きている者である。わたしは死んだことはあるが、……世々限りなく生きている者である。』」(黙示1:17-18)



アビナダイ



マリヤ



そして使徒パウロの証です。「〔キリストは〕最後に、……わたしにも、現れ〔られ〕たのである。」(1コリント15:8)

使徒の頭ペテロは確信をもって証しています。「わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。」(2ペテロ1:16)

古代アメリカの町、バウンティフルの民2,500人は「一人ずつ進み出て、全員がこのようにし、自分の目で見、自分の手で触れ、……確かに知って証した。」

(3ニーファイ11:15)

モルモンは証しました。「わたしは15歳で、……主の訪れを受け、イエスの慈しみを味わって知った。」(モルモン1:15)

モロナイは証しました。「わたし〔は〕イエスにまみえ……イエス〔は〕顔と顔を合わせてわたしと話をされた……。」(エテル12:39)

14歳のジョセフ・スミス・ジュニアの証は次のとおりです。「その光がわたしの上にとどまったとき、わたしは……二人の御方……を見た。すると、そのうちの御一方が……語りかけ、……別の御方を指して、『これはわたしの愛する子である。彼に聞きなさい』と言われた。」(ジョセフ・スミス―歴史1:17, 強調は原文のまま)

オハイオ州ハイラムで、預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグ

ドン(1793-1876年)は天からの示現に包まれ、証しました。「わたしたちはまことに神の右に小羊を見た……。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であ〔る〕』と。」(教義と聖約76:23)

オハイオ州カートランドで、預言者ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリ(1806-1850年)は神殿が奉獻された後に、次のように宣言しました。「わたしたちは、主が……教壇の手すりの上に立っておられるのを見た。……このように言われた。『わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。』」(教義と聖約110:2-4)

ロレンゾ・スノー大管長(1814-1901年)は孫娘に次のように語りました。「主はちょうどここに、床からおよそ3フィート〔1メートル〕の所に立っておられた。あたかも純金の台の上に立っておられるかのようだった。」(リロイ・C・スノー“An Experience of My Father's”, *Improvement Era*, 1933年9月号, 677で引用)

「死者が……ともに群れを成しているのが見えた」とジョセフ・F・スミス大管長(1838-1918年)は説明しています。「この大衆が……語り合いながら待つて

いと、神の御子が現れて、忠実であった囚われ人に自由を宣言された。」(教義と聖約138:11, 18)



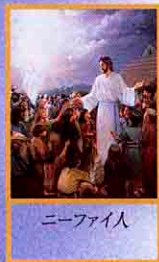
ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリ

スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は総大会で、ジョン・テラー大管長(1808-1887年)の言葉を引用しながら、証を述べました。「『わたしはイエス・キリストが生きておられることを知っています。わたしは主にまみえたからです』と以前の大管長ジョン・テラーは述べました。この証をイエス・キリストの御名によって兄弟の皆さんに申し上げます。」(『社会の基本単位である家族を強める』『聖徒の道』1978年10月号, 74参照)

今日こんにちの使徒の頭による証

「わたしが感謝の気持ちを感じているすべてのことの中で、とりわけ感謝していることがあります」とゴードン・B・ヒンクレイ大管長は語っています。「それはイエス・キリスト、全能なる神の御子、平和の君、聖なる御方に対して生きた証を得たことです。……やがて、キリストの御心みこころを行い、キリストの御言葉みことばを教える使徒に任じられました。世の人々に対してキリストを証する者となりました。わたしは……その信仰の証を繰り返して申し上げます。

イエスはわたしの友です。……
イエスはわたしの模範です。……
イエスはわたしの教師です。……
イエスはわたしを癒いよしてくださる御



ニーファイ人



ジョセフ・スミス



方です。……

イエスはわたしの指導者です。……

イエスはわたしの救い主であり、わたしの贖い主です。イエスは痛みと筆舌に尽くし難い苦しみを経験した後、自らの命をお与えになることにより、死後の永遠の闇の深みからわたしと皆さん一人一人と、神のすべての息子と娘

を引き上げてくださいました。イエスはさらに、もっとよいものを用意してくださいました。それはわたしたちが永遠の命に通じる道を進むための光と理解の世界、成長と美の世界です。わたしの感謝はとどまるどころを知りません。……

わたし自身の証を付け加えたいと思います。すなわち、イエスは『道であり、真理であり、命で[す。]だれでも[イエス]によらないでは、父のみもとに行くことはできません。』(ヨハネ14:6) 感

謝と、心からの愛をもって、これらのことを……証します。』(「わたしの証」『リアホナ』2000年7月号, 83, 85参照, 強調は原文のまま)

キリストの証

主はすべての人が御自身に対する証を得ることができ、その証は御霊の賜物であると説明しておられます。

「ある人には、イエス・キリストが神の子であり、世の罪のために十字架につけられたことを知ることが、聖霊によって許される。

ほかの人には、……彼らの言葉を信じるのが許される。」(教義と聖約46:13-14)

雲のように囲む証人の言葉を信じる

と、聖霊の教えを受けられるようになります。現代の預言者の言葉や聖文を読み、深く考えるとき、御霊はキリストの神性を証されます。末日の使徒や預言者は、教会員は救い主の証人になるべきであると明言しています。キリストとその僕たちについて証するとき、わたしたちは主イエス・キリストとその回復された福音を証する、栄えある、雲のように囲む証人の一員になるのです。□

スティーブン・K・イーバはソルトレーク・オリンパスステーク、オリンパス第7ワードの会員です。



ゴードン・B・
ヒンクレイ大管長



キリストに あかし ついての証

キリストについて証をする末日聖徒の芸術家たち

人は皆、それぞれ自分なりの救い主の御姿を心に描いています。しかし、わたしたち一人一人がその救い主の絵を描いたとしたら、それぞれ皆、まったく異なった絵が出来上がることでしょう。わたしたちは、救い主の実際の御姿については分かっていませんが、救い主の降誕を祝うとき、わたしたちをお思いになる救い主の愛についてさらに深く知るようになり、また救い主をいっそう身近に感じられるようになるのです。

末日聖徒の芸術家たちは、絵筆を使って、救い主に対する証と愛を表現してきました。今月号で紹介する作品の中には、すでに有名なものも幾つかあります。また、初めて目に触れるものもあるかもしれません。皆さんは、絵筆を使って救い主の美しい絵を描くことはできないかもしれませんが、救い主の面影を自分の顔に表すことはできるのです(アルマ5:14参照)。

「手の不自由な男を癒されるキリスト」
ロバート・T・バレット画

「そしてイエスはその人に、『手を伸ばしなさい』と言われた。そこで手を伸ばすと、ほかの手のように良くなった。」(マタイ12:13)





ユタ州アメリカンフォーク、アルタス ファイン アート社の厚紙により掲載

「静かな水辺で」
サイモン・デュイ画

「見よ、わたしは神の子イエス・キリストである。わたしは世の命であり光である。」(教義と聖約11:28)

ロバート・T・バレット

「わたしは、芸術というものはその芸術家が信じていることの反映であると常々感じています。わたしの証は、救い主の生涯や回復の歴史の出来事について絵を描く機会が与えられる度に、強められています。わたしは、救い主が生きておられること、そしてそ

の御業が神聖なものであることを知っています。

では、自分のそのような思いをどう具体的に表現するでしょうか。そのためには、心の思いをキャンバスに表現するための方法を見つける必要があります。」

サイモン・デュイ

「御霊がわたしに証をしてくれたので、わたしは真理についてはばかりのことなく証をすることができます。わたしは、イエスが生きておられること、わたしの贖い主であられることを知っています。また、日々の助けに対する感謝と悔い改めの思いに満たされつつ、救い

主の御父がわたしの父でもあられること、また、御父を呼び求めるわたしの声を聞いてくださることを、わたしは思い起こします。神の御子を描くに当たって、その基となる示現だとか、示現と同じような霊的な現れだとかを受けたことがあるのかと尋ねられたことがあります。わたしの目は見ず、わたしの耳も聞かず、ただ自分の心の中で知るのみです。そして、それで十分なのです。」

デレク・ヘグステッド

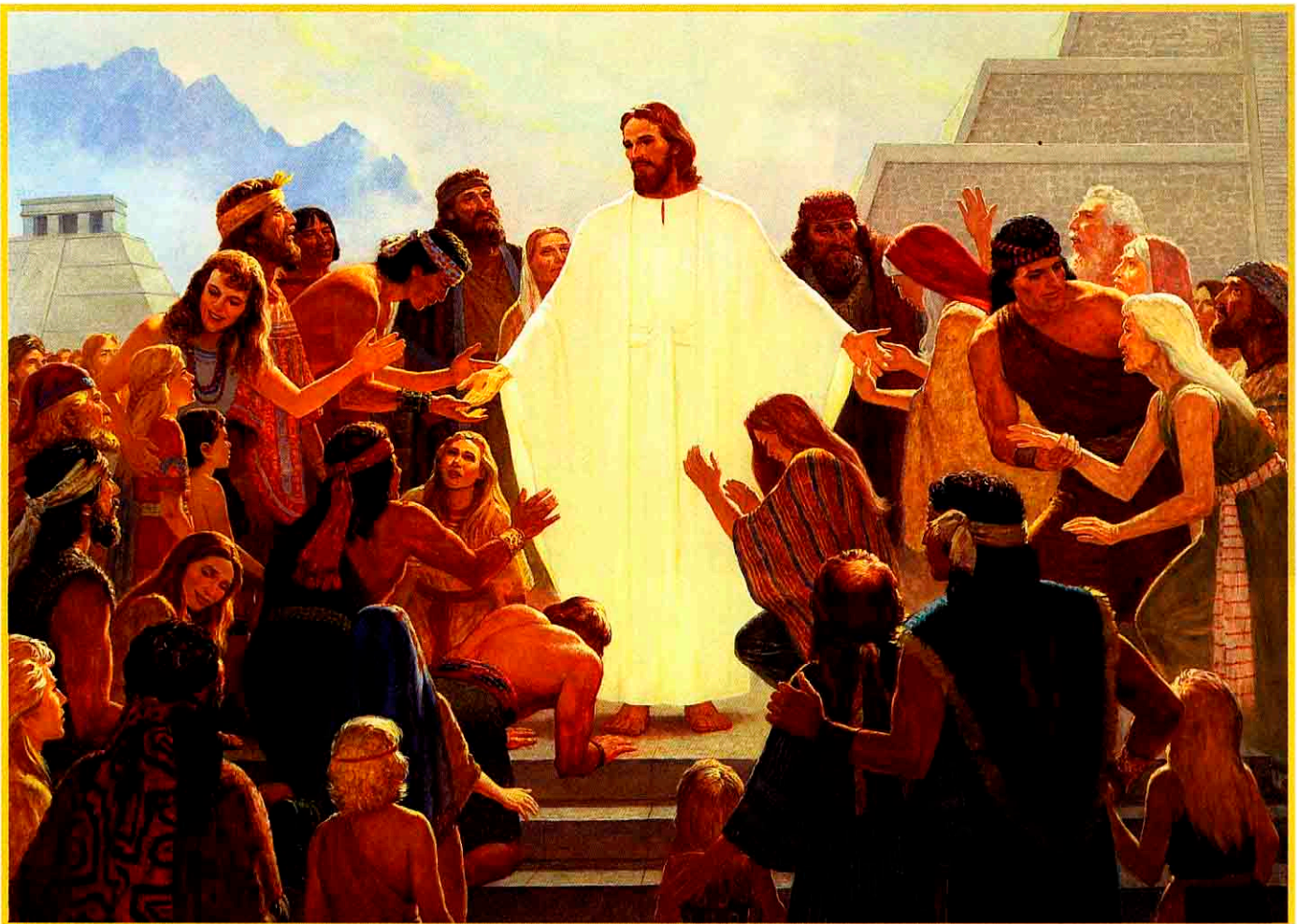
「わたしにとって、絵筆を通してキリストについて証をしているとき以上に、平安を感じる時はほかにありま

せん。自分の思いを適切な言葉で表現するという能力は、わたしの長所の中にはありません。しかし、恵み深い天の御父は、わたしの救い主を証する能力を祝福として授けてくださいました。自分の証や、芸術が自分の人生に及ぼした影響について考えるとき、イエスがキリストであられることを自分は知っているということ、またキリストは生きておられるということ、そうしたことをキリストを信じるあらゆる兄弟姉妹に対してきちんと伝えてきたと言える人生でありたいと願っています。」



「旅路の果てに」デレク・ヘグステッド画

「わたしの王国でわたしのもとに来て、わたしとともに安息を得るであろう。」(3ニーファイ28:3)



「あなたがたは知らない」
ゲリー・L・カッパ画

「立ってわたしのもとに来て、……わたしがイスラエルの神であ[る]ことを知らない。」
(3ニーファイ11:14)



「幼子のキリストを
あがめるシメオン」
グレッグ・オルセン画

「シメオンは……神をほめたたえて言った、『……わたしの目が今
あなたの救を見た……。』」(ルカ2:28-30)

げたいと望んできました。救い主を愛するわたしの思いが作品の中に表現されていてほしいと心から望んでいます。また、わたしの作品を見る人々が、何らかの形で、自分の証を強めてくださることを願ってやみません。」

グレッグ・オルセン

「ちょうど山の上に置かれた光が、疲れ切った旅人にとってかがり火の役割を果たすように、イエス・キリストは全世界の人々にとって輝かしい模範として際立っており、平和と幸福へのより良い道をわたしたちに示してくださっています。イエス・キリストの光は、人生の道を照らし、まっすぐで狭い道に沿ってわたしたちを導いてくれるのです。」

「キリストの光をしっかりと見詰めながら前進する者たちは、自分自身の心の中にある光にも火を点ずることになります。キリストは現実に存在する御方です。まさに、キリストは生きておられるのです。」

ジュディス・メアー

「わたしは、イエス・キリストがわたしの救い主であり主であられることを知



「救い主の衣のすそに触れる女」
ジュディス・メアー画

「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」(マルコ5:34)

ゲアリー・L・カップ

「わたしには、イエス・キリストへの証がなかったという時期については覚えがありません。しかし、わたしがまじめにキリストの生涯について研究を始めたのは、特にモルモン書を通して研究を始めたのは、伝道地へ赴任してからのことでした。そのころ、わたしは、

ほんとうに心の内に燃えるものを感じ始めていました。それは、イエスが世の救い主であり、神の御子であられるという確かな知識からもたらされたものでした。

わたしは自分の全生涯をかけて、可能な限り自分の時間や才能を、芸術を通じて自分の証を伝えることにささ

っています。イエス・キリストがわたしたちの天の御父の御子であられることを知っています。イエス・キリストこそわたしの罪のために御自分の命をささげ、自ら犠牲になられた御方であると、わたしは考えています。そのおかげで、わたしは死後、復活し、神や家族とともに一緒に生活できるようになるのです。わたしの証について、わたしが今最も強く思うことは、自分の生活の中で毎日イエス・キリストの存在を感じているということです。わたしは、イエス・キリストが存在されることも、わたしをこの上なく愛してくださっていることも、決し



「わたしを記念して」
ウォルター・レーン画

「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい。」(ルカ22:19)

て否定することができません。わたしは心の底からイエス・キリストを愛しています。」

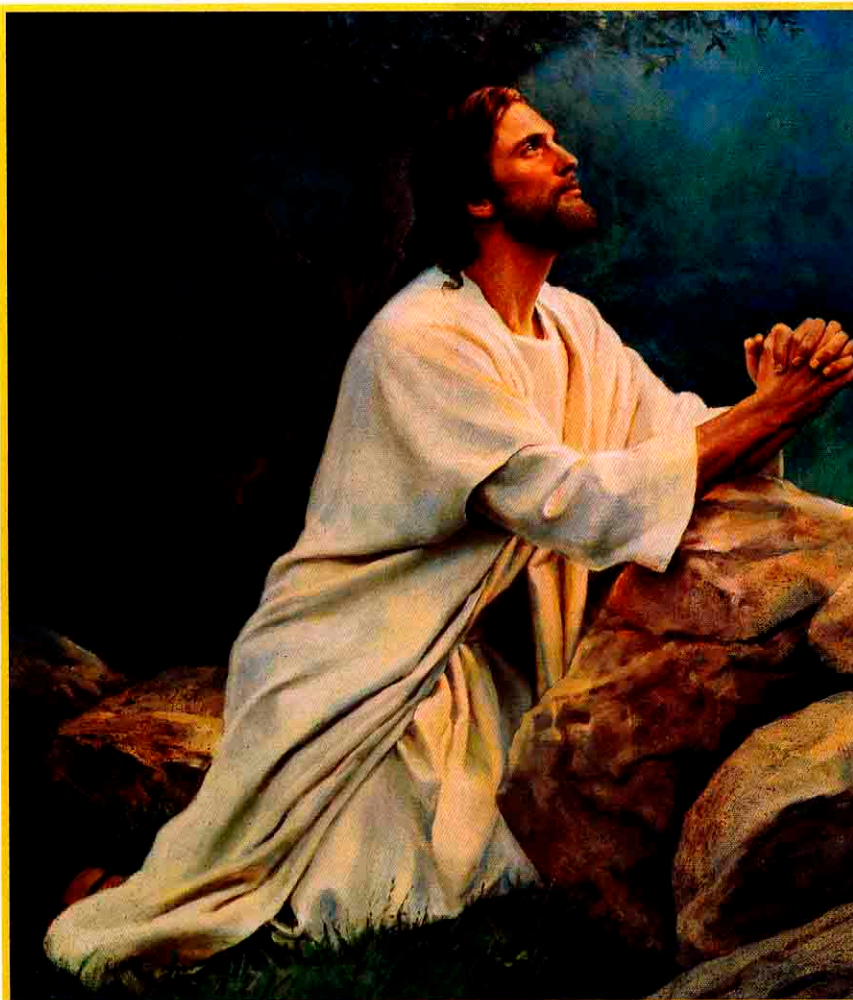
ウォルター・レーン

「もちろん、わたしは救い主が実際どのような御姿でいらっしゃるのか知りません。ですから、わたしは救い主を描く度に、同じように描こうと努めることはしません。どの絵も、キリストの生涯における異なった出来事を描いているわけですし、また、救い主の特質の異なった面を表現しようと努めた結果なのです。

わたしは、自分の努力がきわめて不十分であることは承知しています。それでも、たとえわずかでも、わたしたちの救い主の偉大さの一部でもとらえようと努め、そして恐らくは、主の特質のほんの一部でしかなくともそれを表現し、また、だれかの心を打つかもしれない思いを絵に描くというのは、実に大きな栄誉なのです。」

デル・パーソン

「キリストはわたしのヒーローです。わたしは、キリストやキリストの生涯について描かれた本を読むのが大好きで



「ゲツセマネの祈り」デル・パーソン画

「主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるようになり、主はすべての人の苦を引き受けた。」(教義と聖約 18:11)

す。そのキリストを絵で表現しようとすることは、ほんとうに謙虚にしてくれる経験です。

わたしの絵は、自分の受けた祝福師の祝福に書かれている導きに大きな影響を受けてきました。いわば、祝福師の祝福はわたしの仕事の方向づけをしてくれたのです。この仕事を始めて間もないころ、妻と幼い娘が自動車事故に遭ったことがあります。そのとき、わたしは、まるで聖霊が慰めと神の愛をあふれんばかりにわたしに注いでくださっているような思いがしました。この愛こそ、わたしが救い主を描くときに表現しようと努めているものなのです。」

ミネルバ・K・タイカート (1888-1976年)

「わたしには福音への証があります。実際、わたしの人生ではそれがいちばん大切なものなのです。」(1974年2月6日、ロバート・コンラッドとフレデリック・タイカートによるインタビューから)

「わたしたちがたたきさえすれば、主は必ず扉を開けてくださいます。時には、開いた扉が自分の探し求めていたものではない場合があるかもしれません。しかし、わたしたちの前に広く開けられているその扉こそ、正しい扉であるということがよくあるものです。ただ、後になってみないと分からないのかも

しれません。」(娘のローリー・タイカート・イーストウッドにあてた手紙から)

ゲリー・E・スミス

「母は、わたしがまだ幼いころに、主イエス・キリストを信じる信仰を、わたしの心の中に育ててくれました。わたしは25歳のとき、福音について聞いて教会に加入したわけですが、それはまるで探し求めていたパズルのピースを見つけたようなものでした。今でも、わたしは幼少のころに植え付けられたあの信仰を心の中に保ち続けています。しかし、現在では、さらに知恵と成熟と経験が加わり、あの信仰もより深いものとなり、わたしたちの救い主の生涯や使命についていっそう深く理解できるようになりました。」□

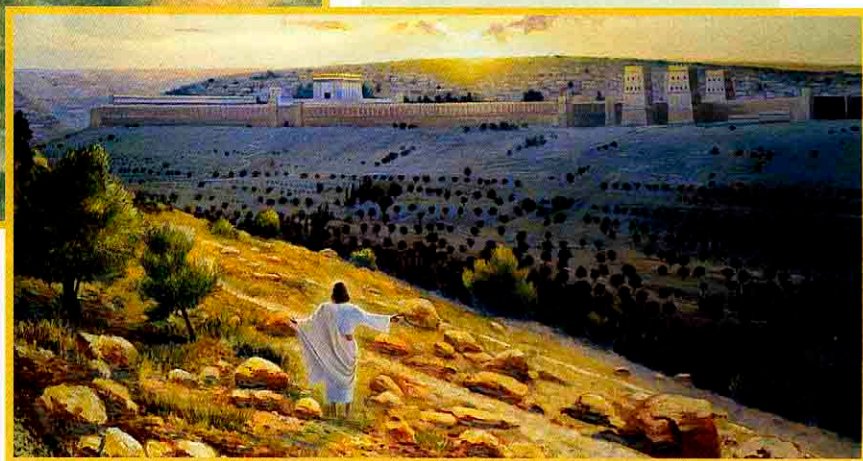


「エルサレムのために嘆かれるキリスト」
ゲリー・E・スミス画

「ああ、エルサレム、エルサレム、……【主の名によってきたるものに、祝福あれ】とおまえたちが言う時の来るまでは、再びわたしに会うことはないであろう。」(ルカ13:34-35)

「迷い出た羊を助ける」
ミネルバ・K・タイカート画

「わたしはよい羊飼^{ひつじかい}である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。」(ヨハネ10:11)





キリスト

イエス・キリストの福音により、わたしたちはどのような状況にあっても、平安と希望を見いだすことができます。



地域幹部七十人 ヨハン・A・ワンドラ

オーストリアのウィーン大学の学生だったころ、二人の宣教師がわたしの家を訪れ、「神様からあなたへのメッセージがあります」と言いました。わたしは彼らを招き入れました。宗教に関心がなかったのに、なぜそうしたのか分かりません。何千人もの難民がオーストリアへ流入した1956年のハンガリー革命に深い衝撃を受け、わたしは人生の目的を知るべく探求していました。しかし、どの教会にも答えを見いだせるとは思っていませんでした。

この二人の宣教師のメッセージは回復に関するものでした。預言者ジョセフ・スミスについて聞いた最初の瞬

する力を与えてくれるということもわたしは知っています。

・別離の悲痛

妻とわたしは、愛する息子ゲオルグを失うことにより、この真理をよりよく理解できるようになりました。彼は27歳で亡くなりました。当時、わたしは旧ユーゴスラビアを含む、オーストリアで新設されたウィーン南伝道部の部長を務めていました。クロアチアのザグレブで開かれたゾーン大会の後、ワンドラ姉妹とわたしは家へ電話するよう伝言を受けました。間もなく愛する義理の娘のレジーナが、電話口で悲痛な声で泣き叫びました。「パパ、ゲオルグが死んだの。ゲオルグが死んだのよ。」医学的な検査をしましたが、死因は分かりません。息子はそれまで重い病気にかかったことはありませんでした。医学的な説明もつかないまま、息子の心臓は止まってしまったのです。

ゲオルグは非常に特別な息子でした。明るく活発で、わたしたちや自分自身の家族への愛情にあふれ、心が清

に希望を見いだす

間から、わたしはジョセフ・スミスを好きになったように思います。特に、ジョセフ・スミスが殉教したときの状況には胸を打たれました。後に、モルモン書を読み、祈ることにより、聖霊の力を通して、イエスがキリストであられること、ジョセフ・スミスが回復の預言者であること、そして末日聖徒イエス・キリスト教会は主が地上に回復された教会であり、その教会は主の再臨にこの世を備えるべく、生ける預言者によって導かれているという、喜びと平安に満ちた確信を得ることができました。

それ以来、40年以上を教会員として過ごしてきて、イエス・キリストの福音がこの世で平安と幸福を得る唯一まことの道であると確信するに至る、多くの個人的な経験をしました。また、だれもこの世の生活において困難、試練、苦難から逃れることはできませんが、イエス・キリストの福音はそれに打ち勝ち、「信仰によって勝利を得」（教義と聖約76：53）、希望と楽観的な気持ちで前進

らからで、狡猾なところがありませんでした。彼は1989年に東ドイツへ送られた最初の宣教師の一人になりました。それは伝道が非常に困難なときでした。息子は同僚とかかわったバプテスマについてよく話してくれましたが、バプテスマの数については何も言いませんでした。その経験はあまりに神聖なものだったので、数字で表すことはできないと感じていたのです。伝道地から最初に来たゲオルグの手紙の終わりに、こう書いてありました。「ぼくがいないことを、あまり寂しがらないで。ぼくがいなくても、人生は進んでいきます。」亡くなった日、息子はヒンクレイ大管長のメッセージ「死に対する勝利」を読んで、「後に残された人々の悲しみや胸の痛みはどれほどのもののでしょうか。悲しみに打ちひしがれた妻、母親のいない子ども、父を亡くした家族、これらはすべて、別離の悲しみを表して余りあります」という箇所に下線を引いていました（『聖徒の道』1997年4月号、3）。

わたしたち家族はこの苦痛に耐えました。ゲオルグがいないのは寂しくて仕方ありません。しかし同時に、心の内に燃えるような熱い気持ちもあります。わたしたちはイエス・キリストの贖罪、そして死と復活を信じるゆえに、またゲツセマネとゴルゴタ、そして空になった墓のメッセージを信じるゆえに、人生において悲しみの瞬間にあっても、何が起こったのか、なぜそれが起こったのか理解できないときでさえも、神は愛と慈悲、そして憐れみの神であられることを信じるができるのです。神は「人の子らに対して愛にあふれた優しさと寛容に富んでおられる」ために（1ニーフアイ19：9）、すべてのことに耐えられた御子イエス・キリストの犠牲を受け入れられました。

ゲオルグが亡くなって数週間後、ワンドラ姉妹とわたしはセルビアとモンテネグロへ旅し、ミレシエバ修道院の白い天使のフレスコ壁画を見に行きました。このフレスコ画は、現存する最も偉大な美術作品の一つで、かつて語られた最も偉大なメッセージの一つ「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」を題材とするものです（ルカ24：5-6）。このメッセージは、専制政治と破壊が何世紀も続いた歴史の中で、平和を愛し、心温かくすばらしいセルビアの人々に慰めを与えるメッセージでした。そしてこのメッセージは、わたしたちすべてに、唯一の真実で永続する慰めを与えてくれます。

最後の晩餐の夜、主が創造されたすべての世界における最大の受難の夜、階上の部屋でキリストは平安について、すなわち、御自分が与える平安について語られました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。……あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな……。」（ヨハネ14：27）このような状況で、主はどうして平安について語ることがおできになったのでしょうか。それは、「恐れをとり除く」「完全な愛」のゆえにほかならないとわたしは感じています（1ヨハネ4：18）。執り成しの祈りの中で、キリストは弟子たちのために、また「彼らの言葉を聞いてわたしを信じている」すべての人のために祈られました。その中にわたしたちが含まれているということを中心に留めるのは大切なことです。それは、「彼らが完全に一つとなるためであり」、「あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにおるため」なのです（ヨハネ17：20, 23, 26）。

階上の部屋を出たイエスと弟子たちは、ケデロン谷を横切り、オリブ山のふもとにあるオリーブの園へ来ました。この園は、「油搾り」という意味のゲツセマネという名で呼ばれていました。オリーブには苦みがありますが、搾って出る油は甘くなります。自分の罪を捨てて主のもとへ行くとき、わたしたちの生活から苦みが除かれ甘くなるように、キリストは「苦い杯」を飲み干されたのです。主はこのように言われました。「わたしは、父がわたしに下さったあの苦い杯から飲み、世の罪を自分に負うことによって父に栄光をささげた。」（3ニーフアイ11：11）

主はゲツセマネで祈っておられたとき、全世界のすべての苦悩や悲痛を身に受けられました。主は「悲しみの人で、病を知って〔おられ〕た。……まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをに〔われ〕た」のです（イザヤ53：3-4）。無垢の魂に、この世の罪と悲しみの荷を負われたのです。「イエスに、あらゆる毛穴から血が吹き出るほどの苦痛を与えたのは、肉体の苦しみでもなければ、心の苦しみでもなく、それは神だけが経験することのできる、身と霊の両方にかかわる霊的な苦悩であった。」（ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』594）主は御父に「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」と祈られました（ルカ22：42）。たとえゲツセマネの苦痛のように苦しいものであっても、御父の御心を行うことは、御子の最高の望みでした。

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流〔す〕ほどのものであった。……

しかしながら、父に栄光があるように。わたしは杯を飲み、人の子らのためにわたしの備えを終えたのである。」（教義と聖約19：16-19）

わたしたちは、主がゲツセマネで苦しまれたように、たとえ苦しいときでも従順になることをキリストから学びます。主にとってゴルゴタの十字架上で人々に仕えることは、確かに難しいことであったように、わたしたちはたとえ困難な状況にあっても人に仕えることを学びま



わたしたちはイエス・キリストの贖罪^{しよくざい}、そして死と復活を信じるゆえに、人生において悲しみの瞬間にあっても、神は愛と慈悲^{あわ}、そして憐れみの神であられることを信じることができるのです。

す。そして、たとえ神から見捨てられたかのように感じたとしても、神の愛を信頼することを学びます。信仰を通して乗り越えるとき、人生におけるこれらの困難で悲痛な瞬間は、天の神のもとへわたしたちを導くヤコブのはしごのようなのです（創世28：12-13参照）。

栄光に満ちた瞬間

復活したキリストがマグダラのマリヤに現れられたのは、何と栄光に満ちた瞬間だったことでしょうか。「イエスは女に言われた、『女よ、なぜ泣いているのか。だれを捜しているのか。』マリヤは、その人が園の番人だと思って言った、『もしあなたが、あのかたを移したのなら、どこへ置いたのか、どうぞ、おっしゃって下さい。わたしがそのかたを引き取ります。』

イエスは彼女に『マリヤよ』と言われた。マリヤはふり返って、イエスにむかってヘブル語で『ラボニ』と言った。それは、先生という意味である。（ヨハネ20：15-16）

マグダラのマリヤは、自分の愛する主が死者の中から

よみがえられたのを見て、何という大きな喜びを感じたことでしょうか。しかし、イエスは優しく彼女に言われました。「わたしにさわってはいけません。わたしは、まだ父のみもとに上っていないのだから。ただ、わたしの兄弟たちの所に行き、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』と、彼らに伝えなさい。」（ヨハネ20：17）主はマグダラのマリヤを離れ、勝利を得て天の御父のもとへ行かれたのです。わたしは繰り返しこのすばらしい光景を想像しています。

わたしの希望はすべてキリストの内にある

キリストは贖^{あがな}いの犠牲を通して、死の縄目を断ち切ってくださいました。主が自らの肉体を起こし、墓から出て来られたように、わたしたちも皆、自分の復活の日に肉体と霊が再び合わさる喜びを味わうのです。「神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にするのです。」（「家族——世界への宣言」『リアホナ』1998年10月号、24）何という「大いなる喜びのおとずれ」でしょうか（教義と聖約128：19）。人生は永遠です。家族は永遠に一緒にいられるのです。愛に満ちた夫婦関係、親子関係は、墓を超えて続くのです。

これは愛する息子ゲオルグとわたしたちの関係においても真実であることを証明しています。息子の死を経験したにもかかわらず、わたしたちのキリストへの信仰と主の言葉に対する確信が強まったことは、ワンドラ姉妹とわたしにとって奇跡と言うことができます。「『山々が去り、丘が動いても、わたしの慈しみはあなたから去ることなく、わたしの平和の聖約は動くことがない』と、あなたを憐れむ主は言われる。」（3ニーファイ22：10）

わたしの希望はすべてキリストの内にあります。主はわたしたちの救い主であり贖^{あがな}い主です。主はまことに、羊のために御自分の命を捨てる良い羊飼いです。「わたしたちは御子という比類ない贈り物を授けてくださった神に感謝しています。」（「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号、2-3）□

ヨハン・A・ワンドラ長老は、ヨーロッパ中央地域の地域幹部七十人を務めています。

神の宮

まじめに、熱意を込めて ♩ = 64-80

mf

1. せ い な る し ん でん ひ
 2. せ い な る し ん でん しゅ
 3. せ い な る し ん でん わ

ゆっくり

か り み ち て み た ま は キ リ ス ト あ か し う す る
 の い だ ち な み わ ん せ を と ま と な わ に む す ー ば け る
 た し た ち は せ ん ぞ と ね り む す ー ば け る

か み の ち か ら と あ い を う け て こ こ ろ が ん き よ ま り ひ
 せ い や く か わ し しゅ の み た ま く が え い ん え く の の あ よ う な
 せ ん ぞ に か か ん しゃ あ ふ れ て る て こ え ん ぐ の の よ う な

と つ に な る ま な び の い ー え し ん こ う の い え
 く そ く す る え ー び の い ー え し ん こ う の い え
 よ そ と こ ろ (最後だけハーモニーで)



いのりの いえかみの いえ ころをきよめて
かみ さえまの いえ きよめて

しゅくふくの ちをみいだすかみのみや
しゅくふくの ちをみいだすかみのみや

やかみのみや

詞・曲：サリー・デフォード（1959 - ）
 © 2001 by Sally DeFord. 許可を得て使用。
 教会あるいは家庭における一時的または非営利目的
 の使用にかぎり、複製を許可する。
 写真—スティーブ・トレギー

教義と聖約88：119
 教義と聖約97：15-16



質疑応答

教会ではどうして16歳になるまでデートはしないようにと
教えているのですか。

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

主の預言者たちは、若い男女の交際がふさわしく高め合えるものであるように、はっきりと勧告してきました。デートが社会的に受け入れられている所に住む若人に対して、16歳になるまでデートをしないように預言者は教えています。

少なくとも16歳になるまでデートができないなんて厳しすぎると感じるか

もしれません。デートに関心があって、友人から16歳になる前にデートをするようにプレッシャーを受けていたら、なおさらです。しかし、天の御父が預言者を通してこのような指針を与えておられるのは、わたしたちがふさわしく生活して、御父のもとへ帰れるように助けるためなのです。この勧告に従うことによって得られる祝福は大いな

るものです。

教会の指導者たちは、次のように教えています。16歳以前のデートは「不道徳な行いにつながり、出会う若人の数が少なくなり、自分の永遠の伴侶^{はんりよ}を選ぶうえで助けとなる経験を奪う恐れがあります。」(『若人の強さのために——神への務めを果たす』24)

13歳から15歳までの青少年は、感情的・社会的・情緒的そして肉体的に成長し始める時期にいます。その後も何年もかかって成長を遂げるのです。16歳までデートをしないという勧告が与えられている一つの大切な理由は、あまりにも早くデートを始めると、生活が混乱し、霊的な成長を妨げてしまう可能性があるからです。例えば、10代前半には普通、恋愛や異性に強いあこがれを抱くようになるものです。このような感情が強くなるのは、情緒的・精神的に未成熟な段階にあり、感情をまだよくコントロールできない時期にあるからだと言えるでしょう。研究によると、あまりにも若いうちにデートを始めた場合、不適切な肉体的関係に陥る危険性が大幅に高くなることが明らかになっています。

早くデートを始めると、特定の人と対一の関係を作ってしまうがちになります。そうすると、交友関係を広げ、



フォート・スティーブション・リゾート



デートの標準

「**主**は、偉大な目的のために、わたしたちを魅力的な者としてくださいました。しかし、よくコントロールされないかぎり、この魅力は危険をはらんだものとなるのです。正しく扱われれば、すばらしいものとなります。しかし、手に負えなくなると、命取りになります。

早い時期のデートについて教会の指導者が勧告しているのもこの理由によるのです。このルールは皆さんをいじめるために作られているのでは決してありません。皆さんを助けるために作られたのです。ルールに従えばルールによって守られるのです。

早い時期の親密な交際が悲劇に至ることは、よくあります。少年と少女が二人だけで長時間デートをすればするほど、トラブルに巻き込まれやすくなるということは、調査によっても明らかです。

わたしの友である皆さん、望ましいのは、結婚する備えができるまでは様々な人と広範囲にデートすることです。そしてすばらしい時間を過ごしてください。でも、親密な関係になるのは避けてください。相手の体に触れないようにしてください。簡単ではないかもしれませんが、必ずできます。」ゴードン・B・ヒンクレー大管長（『若人への預言者の勧告と祈り』『リアホナ』2001年4月号、38-39）□

いろいろな人と交際すべき大切な時期に、その機会を失うことになります。多くの若い男性、若い女性と知り合いになると、社交的技術が身に付き、将来のデートがもっと楽しいものになるはずです。

たとえ16歳になっても、グループでデートをするのがいちばんです。二人きりのデートは避けてください。また、デートは最終的に結婚につながるものですから、将来の結婚相手として考えられるような人たちとデートをしましょう。

16歳をかなり過ぎてても、デートに興味がない人や、デートをする機会のない人もいます。友好的で、ごく普通の若い人の中にも、かなり遅くまで、時には結婚適齢期になるまで、あまりデートをしない人も大勢います。

教会の指導者の示した指針に信仰をもって従えば、皆さんはストレスの少ない、より楽しくて、より幸福な青年期を過ごすことができるでしょう（アルマ41：10参照）。皆さんは、従順であることによって祝福を受けることができるのです。また、神殿結婚に対しても、よく備えられることでしょう。

読者からの提案

16歳までデートをしないようにという教会の教えには十分な理由があります。神様はわたしたちのことを心に留めておられますし、預言者たちも同じです。16歳になる前にデートを始めれば人気者になれるかもしれませんが、それはあくまでもこの世でのことにすぎません。ふさわしい年齢になるまでデートをするのを待つ人は、成熟して

いること、向上心を持っていること、そして、主に対して忠実であることを示せるのです。

ペルー・リマ・ラモリナステーク、
ラスビニヤス支部
ナディア・アントウアネット・
リアテグ・リビラ、13歳

もし若いときにデートをしても、^{みたま}御霊を招くよい雰囲気を作ることはできないだろうと思います。デートは賢明に行うべきだというヒンクレー大管長に賛成です。なぜなら、それが永遠の伴侶を選ぶための最良の準備になるからです。



フィリピン・ガバンステーク、
サントクリストワード
アメリカ・C・シルビノ、
16歳

この標準はわたしたちが結婚に備える助けとして与えられたものです。年が若いときに特定の人とだけデートをすれば、悲劇を招きかねません。16歳までには、多少なりとも責任感や自制心が育っているはずですよ。



コンゴ民主共和国・
キンシャサ伝道部
ダニエル・バンザ長老、
21歳

異性に肉体的な魅力を感じるのは自然です。でも、時にはそんな気持ちが、容認されない行動へ発展してしまうことがあります。それを愛の表現だと呼ぶ人もいますが、それは間違っています。教会が16歳になるまでデートをしないように勧めるのは、このような気

持ちを自制するにはまだ幼すぎて危険に陥る可能性があるからです。

トンガ・ヌクアロファ北ステーク、
ヌクアロファ第8ワード
ルベオロ・トゥポウ、18歳

若いときは自分の行動がどのような結果を生むか、まだ十分に理解することができません。若い人は好奇心やプレッシャーで行動することが多いかもしれません。教会は賢明な助言と勧告を与えることによって、わたしたちが様々な恐ろしい過ちを犯すことがないように助けているのです。



ロシア・サラトフ地方部、
サラトフスキーツェントラル
ニー支部
ナターリヤ・フォドロブナ・
フロワ、21歳

結婚を真剣に考えられる人とだけ、親しくつきあうべきだと思います。そして、結婚を考える以前に、まず自分自身を知り、自分が永遠に望んでいるものが何かを知らなければなりません。交際相手を見つける前に、自分が成長することが大切だと思います。



ドイツ・ハンブルクステーク、
ラウエンブルク支部
ミルジャム・リービヒ、
23歳

世の人々はデートに関してとても間違った見方をしています。ルシフェルが正しいデートの在り方を完全に忘れてしまったからです。わたしは16歳までデートを始めるのを待ちました。主の方法に従って行動しているという自覚があったので、満足感を味わいまし

た。そして、どんな犠牲にも値する内なる平安を感じることができました。



ブラジル・ポルトアレグレ・
モインホス・デ・
ベントステーク、
フマイタワード
エリサ・コレア、19歳

デートは、わたしたちを結婚に備えてくれるものです。教会は、一般的に16歳になるとデートの意味が理解できるようになると教えています。その年齢になれば、高い標準を持ち、自分の標準を尊重してくれる人をデートの相手として選ぶ可能性が高くなると思います。



ナイジェリア・
ポートハーコート伝道部
エマニユアル・N・A・
ソロモン長老、22歳

主は、わたしたちが10代の時期に福音を学び、良い友人を作って、伝道や結婚に備えることを望んでおられます。主はわたしたちを愛しておられるので、伝道や結婚という重要なことを経験する前に、備えをしてほしいと望んでおられるのです。



ブラジル・マセイオステーク、
ベネディクトベンテスワード
マウリシオ・イムプロイセ、
18歳

サタンがわたしたちを捕らえようと待ち伏せしていることを忘れてはいけません。わたしたちの目標は、天のお父様への深い感謝の思いを胸に、清い心で神殿に行くことです。神様はわたしたちを愛し、わたしたちが完全な幸

福を手にするように望んでおられます。自分の年齢に関係なく、悪の力に打ち勝つことができるように、知恵を使い、常に祈ることが大切です。



メキシコ・シウダーオブregon・
ヤキステーク、
プエブロヤキ支部
R・トリニダド・グレロ・
ソリス、20歳

「質疑応答」は青少年を対象にしており、様々な国の青少年からの提案を掲載したいと願っています。2003年1月15日までに、あなたの意見をお送りください。あて先は次のとおりです。

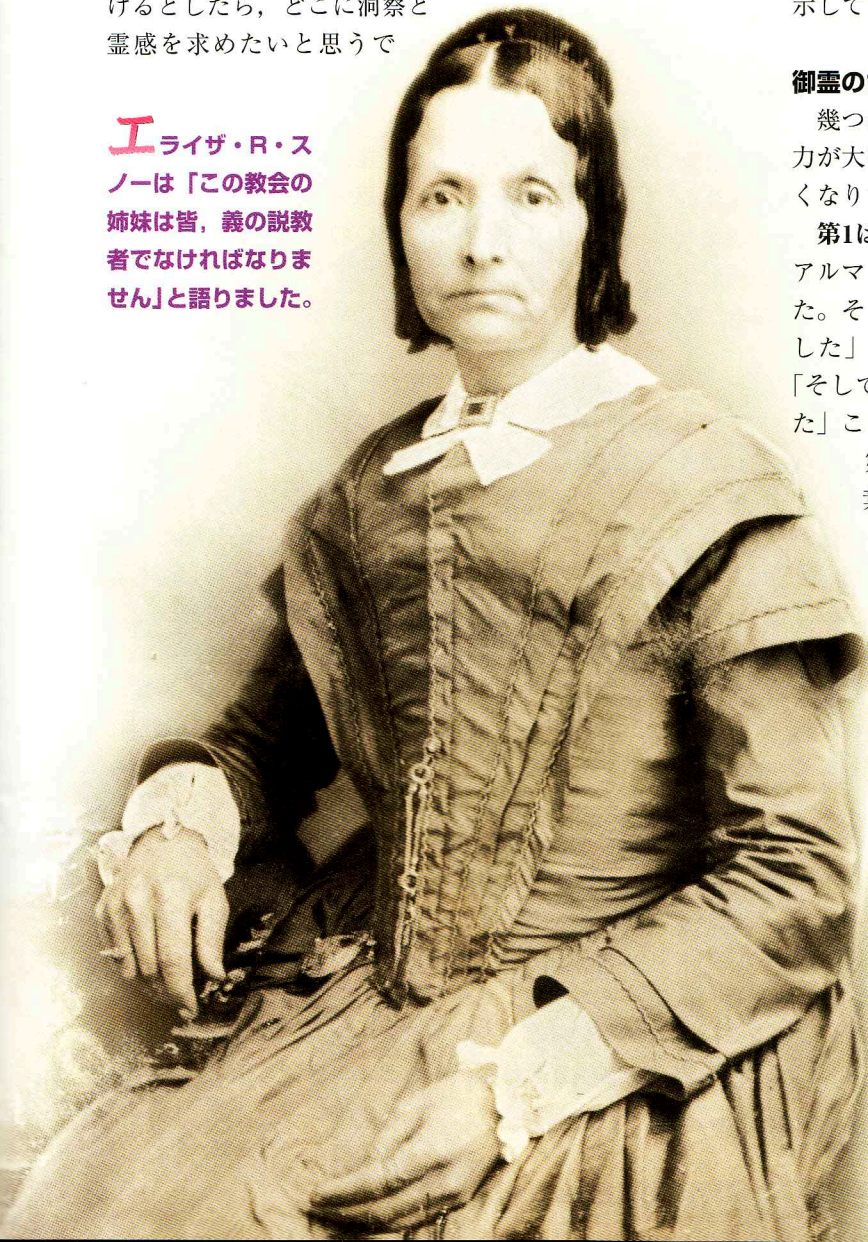
QUESTIONS AND ANSWERS 01/
03, Liahona, Floor 24, 50 East North
Temple Street, Salt Lake City, UT
84150-3223, USA, またはEメールで
cur-liahona-imag@ldschurch.orgまで
お送りください。パソコン、手書き、
いずれでもけっこうですが、手書きの
場合はかい書で読みやすくお書きくだ
さい。言語は問いません。住所、氏名、
年齢、所属ステーク／地方部、ワー
ド／支部を明記のうえ、写真を同封し
てください。ただし、返却は致しかね
ますので、あらかじめご了承ください。
代表的な意見を選んで掲載させていた
できます。

質問——今まできょうだいへのクリスマスプレゼントは店で買ったものをあげていました。今年は何かもっと個人的で意味深いプレゼントを贈りたいと思っているのですが、どんなものが考えられるでしょうか。□

学位を取るまで大学を続けるべきかどうか。伝道に出るべきかどうか。どのような職業を選ぶべきだろうか。母親になること以外に心からしたいと思うことがないのに、なぜ仕事に就くためにこんなに努力する必要があるのだろうか。

人生の中で必ず出くわす試練に、どのように立ち向かえばよいのでしょうか。もし子どもに先立たれるという経験をしたら（わたしの二人の子どももそのような経験をしました）、平安と慰めをどこに求めたらよいか知りたいと願わないでしょうか。子どもが福音の道を離れそうになったりしたらどうでしょうか。財政的に苦しい状況に追い込まれたら、どうするべきか、どれほど知りたいと願うでしょうか。ワードやステーキを導く召しを受けるとしたら、どこに洞察と靈感を求めたいと思うで

エライザ・R・スノーは「この教会の姉妹は皆、義の説教者でなければなりません」と語りました。



しょうか。若い兄弟の皆さんもいずれ同じような問題に直面することでしょう。

人生から切り離せない障害や機会に対して、安全に、また自信をもって立ち向かう方法はだれにとっても一つしかありません。まず、預言者と使徒たちに耳を傾けることです。わたしたちが教える原則を研究してください。次に、これらの原則を主の前に持って行き、それらを自分の生活の中で応用する方法について主に尋ねるのです。皆さんの思いに力を及ぼし、行動をコントロールし、歩みを導いてくださるようお願いしてください。「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。」（アルマ37：37）聖霊の力と現れによって、主は御心を示してくださるでしょう。

御霊のささやきに耳を傾ける

幾つかの事柄を行うと、御霊のささやきを理解する能力が大いに高められ、結果として神の声を聞く能力が高くなります。

第1は、断食と祈りです。モーサヤの息子たちが息子アルマと再び出会ったとき、彼らは再会を喜び合いました。そして、「[自分たちが]しばしば祈り、また断食もした」ことによって預言の霊と啓示の霊を与えられ、「そして、教えるときには、神の力と権能をもって教えた」ことを認め合いました（アルマ17：3）。

第2は、聖文に没頭することです。キリストの言葉は「あなたがたがなすべきことをすべて告げる」のです（2ニーファイ32：3）。聖文は個人的な啓示を授かるための水路です。ヤングアダルトの皆さん、皆さんは、わたしの世代が皆さんの年齢だったころよりもはるかに聖文に精通しています。皆さんは聖文を読んで研究するように教えられてきました。わたしはその研究をいっそう熱心に行うよう強く勧めます。そうすれば、聖霊を通して神の声を聞く能力が増し、高められることを約束します。

第3は、主の宮に入るために備えることです。ふさわしい状態で神殿に参入すると、「力を帯びて」神殿を出て行くことができます（教義と聖約109：22）。また主の知識において「成長」するにつれて、「聖霊の全きを受け[る]」という約束を受けて神殿を後にすることができます

わたしたちの受け継ぎを祝う



絵/ポール・マン

クリスマスのほんの2日前、ジョセフ・スミスは自分の誕生日を祝った。
預言者にとってクリスマスは、友人や家族と過ごす祭日であった。

世界中の末日聖徒が救い主の生誕を祝う12月に、ある重要な1日がしばしば忘れられている。1805年12月23日、クリスマスのほんの2日前に、預言者ジョセフ・スミスが誕生した。

ジョセフ・スミスが毎年誕生日をどのように過ごしたかという記録はほとんど残っていないが、1843年12月に預言者はこう記している。「23日、土曜日。自宅にて、わたしを訪ねて来た兄弟たちの相談に乗った。そして家事をして、クリスマスの夕食会の準備をした。」(History of the Church, 第6巻, 133) その誕生日に預言者が考えていたことは、明らかに教会のことであり、家族とクリスマスのことであった。

クリスマスの季節にわたしたちは救い主の生誕を祝うが、預言者ジョセフ・スミスの誕生日も、わたしたちが福音の回復を通して分かち合う受け継ぎを思い起こさせてくれる。この1年間、末日聖徒としてわたしたちが共有する受け継ぎを祝う行事が幾つか行われた。□

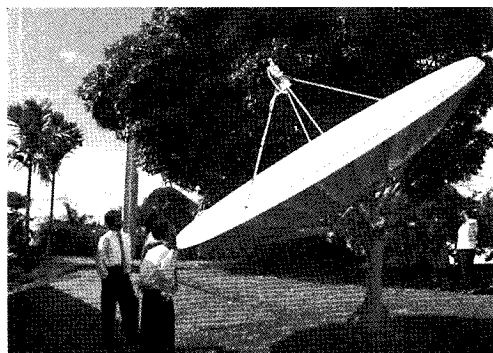
世界中で行われたノーブー神殿の奉獻式

イリノイ州ノーブー神殿は、6月27日から30日の週末に奉獻された。世界中の200万人以上の聖徒が、およそ3,000か所

で衛星放送を通じて奉獻式に参加した。この放送に対する反響は圧倒的なものであった。

奉獻式の準備や参加に伴って、世界の様々な地域から奇跡や祝福の報告が寄せられた。ロシアでは発送が遅れたため、衛星放送機器は奉獻式の前日まで税関にあった。ヨーロッパ東地域広報ディレクターで、弁護士業を営むエレナ・ネチポローバは、税関の職員に会い、次の日出直して来るように言われた。姉妹は次のように言った。「待てません。わたしたちは今夜それが必要なのです。」その職員は少しも譲歩しようとせず、ネチポローバ姉妹には法律的に頼れるものが何もなかった。そこで姉妹はこの職員にノーブーについて話し、数千人のロシア人が彼らにとって宗教上大切なこの放送を見るために準備していることを伝えた。この職員は心を動かされ、書類に署名した。衛星放送機器の設置は奉獻式に間に合った。

トンガでも同じような奇跡があった。衛星放送機器は組み合わさっていない状態で届き、部品が幾つか欠落していた。機器の設置担当者は、時間内に部品を補充するのは不可能だと言った。そこで聖徒たちは忙しく働くことになった。スクラップ金属を使い、地元の溶接工が電話で指示を受け、欠けていた部品を作り上げた。中には正確な形状と角度が必要とされる重要な部品が含まれていた。聖徒たちの努力は報われ、放送は明瞭かつ鮮明に受信された。七十人で太平洋諸島地域会長会



ノーブー神殿の奉献式の模様を教会員へ伝える。新設された衛星放送アンテナを見るフィジーの子どもたち。フィジーで受信された最初の教会放送であった。写真/フィジー・ローカル・ニュース委員会の厚意により掲載

第一副会長のロバート・K・デレンバック長老は次のように語った。「このような奇跡を成し遂げるには、トンガの人々の信仰が必要です。」

ほかの地域からは奉献式を通して、霊的な養いを受けたという報告が寄せられた。世界中の教会員は、清掃され、神殿の一時的な延長として使用されるように整えられた礼拝堂に満員バスで到着した。座席を確保するために数時間早く到着した教会員もいた。奉献式に出席するために4時間かけてやって来たフィジー、ラウトカのハリ・ラムは「福音と、福音が象徴するすべてのものが真実であるという証が強められました」と語った。「預言者の姿を見て、その声を聞いたとき、心の中に何かを感じました。言葉では表現できないと思います。」スウェーデンのカリン・ハカンソン、9歳はこのように語った。

フィリピンからの報告は多くの末日聖徒の思いを集約している。「ノーブー神殿の奉献式は、フィリピンから数千マイルも離れ、文化的にも歴史的にもフィリピンの人々から遠く隔てた人々の中で行われました。それにもかかわらず、フィリピンの聖徒たちに与えた影響は非常に大きなものでした。恐らくそれはノーブーにおける初期の聖徒たちの物語が……今なお、あらゆる地域に住むすべての末日聖徒の犠牲の物語とまったく同じだからです。」□

ニューヨーク州および オハイオ州において、 訪問者センターが 奉獻される

7月1日、ノーブー神殿の奉献式に続いて、ヒンクレー大管長はニューヨーク州パルマイラにおいて、新しく完成したクモラの丘訪問者センターを奉献した。奉献の祈りの中で大管長は、このセンターを訪れる人々の心と思いに主の御霊が働きかけ、人々がパルマイラで起きた出来事に対し、より深い理解が得られるように願い求めた。預言者ジョセフ・スミスは近く森で最初の示現を受け、クモラの丘で天使モロナイより金版を受け取った。

「これらの出来事の結果として誕生したこの教会が真実であり、その後起きた出来事が真実であることを知っています。」ヒンクレー大管長はこのように語った。

それに先立つ1週間前の6月24日、オハイオ州カートランドにおいて、教会は二つの歴史的な建造物とともに訪問者センターを開館した。カートランド史跡訪問者センターは、1830年代に教会員がこの地域に到着したときに見た、穀物製粉所に似せて設計されている。

カートランドの時代は「教会を明確に特徴づける時期でした」とデビッド・ブラウン訪問者センター所長は語った。教会指導者は由緒あるカートランドの地で、復旧および再建されたほかの場所を2003年夏までに奉献することを望んでいる。□

教会の指導者、 開拓者をたたえる

1847年に最初の団がユタ州へ到着した初期の開拓者の業績と犠牲を記念して、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べた。「ノーブーからグレート・ソルトレーク盆地へ向かったモルモンの開拓者の旅に比類する出来

事は、この偉大な国の歴史上、ほかにありません。」ヒンクレー大管長は、7月21日の日曜日にソルトレーク・シティのキャンファレンスセンターで話をした。開拓者ファイヤサイドの模様は、教会衛星システムを使って中継放送された。

さらにテンプルスクウェアでは、モルモンバナクル合唱団とオーケストラが霊的な音楽を披露し、預言者ジョセフ・スミスが書いた、ノーブー神殿に関する言葉の抜粋から成る朗読が行われた。

ノーブー神殿について、ヒンクレー大管長はこのように語った。「ノーブーを築き、その町を去った聖徒たちが行ったことの偉大さを、神殿の再建を通じ、わたしは改めてすばらしい方法で感じています。」

聖徒たちはソルトレーク盆地へ行き、また別の地域社会を築いた。ヒンクレー大管長は続けてこう語った。「この寂しい荒れ野に、最初の開拓者たちは、今日わたしたちが心地よく暮らしている町を築きました。今日、この町は大きな都市に発展しました。[オリンピックに]何らかの形で参加したすべての人々をわたしは誇りに思いました。……いつまでも忘れずにいたいものです。」

ソルトレーク盆地への到着を記念して、7月24日に開かれた開拓者記念祭で



写真/ケリー・ラーセン

ソルトレーク盆地への到着記念日をたたえるファイヤサイドで、末日聖徒の開拓者たちへ感謝の意を表するゴードン・B・ヒンクレー大管長。

は年次パレードも行われた。ヒンクレー大管長は、ソルトレーク・シティ市街で行われた「1847年時代」パレードの代表を務めた。大管長会第一副管長のトーマス・S・モンソン副管長が、7月23日にユタ州バウンティフルで行われた「手車隊記念」パレードの代表を務めた。□

教会、飢饉救済基金に100万ドルを寄付

干ばつに襲われたアフリカ諸国に蔓延する飢饉状態を緩和する努力の一環として、教会はおよそ3,000トンのとうもろこしを購入するために国連食物プログラムに現金で100万米ドルを寄付した。

「苦しんでいる人々がいるなら、飢えている人々がいるなら、わたしたちはそのような人々にいつでもまたどこへでも、できるかぎり助けの手を差し伸べたいと願っています」と教会福祉部実務運営ディレクターのハロルド・ブラウンは語っている。南アフリカにおける干ばつは農作物の不作を生じ、1,300万人に上る人々を餓死の危険にさらしている。

「この意義深い寄付は、何百万という

人々が日々悪化する一方の飢饉状態に直面し、生き残れるのがやっという大変危機的な時期に行われました」と国連世界食料プログラム(United Nations World Food Programme)の管理ディレクター、ジェームズ・モリス氏は語った。モリス氏は、このような、当プログラムへの

現金による寄付は最も効果的な援助の方法であると述べている。この現金を用いて購入された穀物は、直ちに、飢饉に苦しむ諸地域に配給される。

世界食料プログラムは世界的飢饉と闘う国連の中心機関である。2001年に、同プログラムは世界中に散在するほとんどの避難民を含め82か国に住む7,700万以上の人々に食料を提供した。

この寄付に先立って、教会はマラウイ援助のため、すでに6,750箱分の緊急食料と大きな運輸コンテナ4個分の衣料をソルトレーク・シティから送って



干ばつに襲われたアフリカで食糧配給を受けるため列を作る人々。教会は最近、犠牲者救済のために100万米ドルの寄付をした。

写真/世界食料プログラムのマイク・ハギンスの厚意により掲載

神殿、ニューヨーク市に建てられる

教会はニューヨーク市の繁華街に神殿を建設する計画を発表した。マンハッタンのリンカーンセンター近くに位置するこの新しい神殿は、香港で成功裏に確立された様式に従い、既



マンハッタンにある教会所有の建物はニューヨークで2番目の神殿となる。神殿は建物の上層フロアーに位置することになる。

写真/教会広報部の厚意により掲載

存の6階建て教会ビル上方2階分のフロアを使用する。香港の神殿と同様、ニューヨークの建物も市内のほかの建物に隣接し周囲の都会的な景観に溶け込んでいる。

「心から喜んでます」と語ったのは『ソルトレーク・トリビューン』紙(Salt Lake Tribune)のインタビューに答えたマンハッタン在住のサラ・アスブランドである。「地下鉄に飛び乗ったら、神殿に参入できるなんて信じられないような祝福です。」

香港と同様、マンハッタン¹の建物も、引き続き、礼拝堂、教室、カルチャーホールを備えた形で運営される。広報部事務局および家族歴史センターも残る。設計および改装工事はすでに始まっている。

マンハッタン²の神殿は、ニューヨーク州では2番目の神殿となる。第1番目の神殿は、ニューヨーク州パルマイラ神殿である。教会はまた、ニューヨーク州ハリソンに神殿を建てるための土地を所有し認可を受けている。□

グルジア共和国に 最初の支部 組織される

グルジア共和国最初の支部が6月9日に首都トビリシで組織された。会員はおよそ50人である。福音を宣べ伝えるためにこの国が奉獻されてちょうど3年後に支部が組織された。

ロシアと黒海に隣接するアジアの一国グルジアは、十二使徒定員会会員のジェフリー・R・ホランド長老によって1999年3月に奉獻された。それから程なくして、人道奉仕宣教師が赴任し、英語を教えることに加え、孤児や病院に救援物資を送る手配をすることなど、地域社会に対する奉仕を開始した。

この国が奉獻されたとき、地元の会員は数年前にオランダ滞在中教会の会員となったバジャ・ナトロシビリ³だけであった。ナトロシビリは宣教師が福音を教える際に同席し、数か月たたないうちに最初の家族が、さらに若い成人

が一人、バプテスマを受けた。

教会はグルジアで着実に発展を続けた。6月、43人の会員と数人の求道者が参加する中、七十人でありヨーロッパ東地域会長会第二副会長のロバート・F・オートン長老とアルメニア・エレバン伝道部のメルビン・ベックストランド部長が出席し、新しい支部を公式に組織した。□

美術博物館の展示品、 オンラインのバーチャル ギャラリーに

インターネットを通じて、世界中の人々が教会歴史美術博物館の展示品を目にすることができるようになった。新たに美術博物館のウェブサイトができたのである。

アドレス<http://www.lds.org/museum>のサイトに設けられたこのオンラインのバーチャルギャラリーでは、ソルトレーク・シティーの同美術博物館において特設あるいは常設の展示品が採り上げられている。このウェブサイトでは、間もなく公開される展示品や国際美術コンテストについての情報提供も行っている。

「このバーチャルギャラリーを始めたおもな理由は、世界中の教会員とのつながりを持つためです。ほとんどの方はソルトレークの美術博物館に一度も訪れることがないでしょうから」と、教会歴史美術博物館の管理マネージャーであるスティーブン・オルセンは語る。教会歴史美術博物館では、世界中の末日聖徒による美術作品や芸術作品を収集し展示している。

現在ウェブ上に展示されているもの一つに、「歴史に名高いノーブーの初期の風景」がある。バーチャルギャラリーを訪れると、クリックするごとにノーブー神殿とその周囲の街並を描いた19世紀の絵画、版画、写真および素描を次々と見ることができる。「これらの展示品には、昔のノーブー神殿が描かれており、後に建築家たちがこの神殿を再建する際に

写真/教会歴史美術博物館の厚意により掲載



「教会の中心である家族」と名付けられたこの彫像の作者は、ナイジェリアのローレンス・エージェーター姉妹である。国際美術コンテストの入賞作品の一つである。この作品をはじめ、ほかの入賞作品が現在ウェブ上で公開されている。

役立ちました」と、館長のリチャード・G・オーマンは述べている。

同じく現在ウェブ上に公開されているものの中に、「ノーブーにおける肖像画家、サトクリフ・モーズレー」がある。モーズレー兄弟は、1842年にイギリスから合衆国に移住した織物職人である。彼は、実際に目の前にしている人をモデルとしていたが、預言者ジョセフとハイラム・スミスの数少ない肖像画を描いた画家である。

このウェブサイトにはほかにも、過去に美術博物館が催した国際美術コンテストの入賞作品も展示されている。世界各国の芸術家たちが、様々な福音のテーマを独自の方法で創造性豊かにいきいきと表現している。入賞作品には、モルモン書の中の出来事を描いた粘土彫像(彩色が施されている)や、最後の晩餐をモチーフにした陶製の絵、両親と子どもを描いた油絵、神殿のクリスタル彫刻などがある。2003年3月には、2002年11月で出品の受付を終了している第6回国際美術コンテストの入賞作品を採り上げる予定になっている。

このウェブサイトは英語を主としているが、大部分をフランス語、ドイツ語、日本語、ポルトガル語、ロシア語およびスペイン語で見ることができる。□

新刊教会書籍

最 近刊行された新刊教会書籍および改訂版をご紹介します(訳注——日本語版は、一部未刊)。

『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』(訳注——日本語版は未刊)

2003年度メルキゼデク神権者および扶助協会用の新たなレッスン・学習手引きが発行されました。『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』(カタログ番号35969 300)は、教会の第3代大管長の教えに的を絞っています。ワード・支部を通して配布される予定です(日本語版は近日刊行予定)。

『若人の強さのために』および関連資料

青少年用小冊子『若人のために』(カタログ番号36550 300)が改訂され、現在世界中で入手可能になっています。この小冊子には、デート、性的な清さ、メディアと娯楽、安息日を守ること、身体の健康など、日常生活上の諸問題に対する青少年への指針が収められています。

同じく改訂版として、『アロン神権——神への務めを果たす』(カタログ番号36412 300, 36413 300, 36414 300)および『若い女性——成長するわたし』(カタログ番号36035 300)も発行されました。

両親と指導者向けの資料集も発行されています。『青少年に関する両親と指導者のためのガイド』(カタログ番号36415 300)には、両親と指導者の役割が説明され、青少年プログラムの詳細が掲載されています。

これらの資料は52か国語に翻訳されており、教会配送センターもしくは

www.ldscatalog.comに注文することができます。

『永遠の結婚——生徒用手引き』(訳注——日本語版は未刊)

大学生年齢のヤングアダルトが結婚生活で経験する様々な問題に焦点を当てたテキストが、教会教育システムより新たに刊行されました。

『永遠の結婚——生徒用手引き』(カタログ番号35311)には、決意とコミュニケーション、教育と永遠の観点、伴侶の選択、性的な清さ、慎み深さなど、様々なテーマに関する多くの教えが集められています。また「家族——世界への宣言」を特に採り上げた課も含まれています。さらに虐待、負債、離婚、性的関係、ポルノグラフィ、同性愛、女性の神聖な役割と責任などのテーマも採り上げています。

この手引きは、20年以上前に書かれた結婚への備えのテキストに取って代わるものです。このテキストは、現在19か国語に翻訳されており、教会配送センターもしくはwww.ldscatalog.comを通して取り寄せることができます。

『個人の先祖ファイル』ソフトウェア

個人の家族歴史を記録するためのソフトウェア「ファミリーサーチ™個人の先祖ファイル」が改訂され、教会のホームページから無料でダウンロードすることができます。最新版PAF5.2は、旧版の不具合を解決した修正版です。

最新版は中国語、英語、ドイツ語、日本語、韓国語、スウェーデン語で入手可能です。ダウンロードをするためにはまず、www.familysearch.orgを開き、Order/Download Productsをクリックします。次にSoftware downloads——Freeをクリック、そしてPersonal Ancestral File 5.2をクリックします。利用者の情報を入力すると、各言語でのダウンロードが可能になります。

PAF 5.2のCD版(カタログ番号77034)は、教会の配送センターで入手できます。

七十人会長会の変更



新たに七十人会長会に召された、
ディーター・F・ウクトドルフ長老。

大 管長会は、七十人会長会の会員として、ディーター・F・ウクトドルフ長老を召した。ウクトドルフ長老はベン・B・バンクス長老の後任となる。

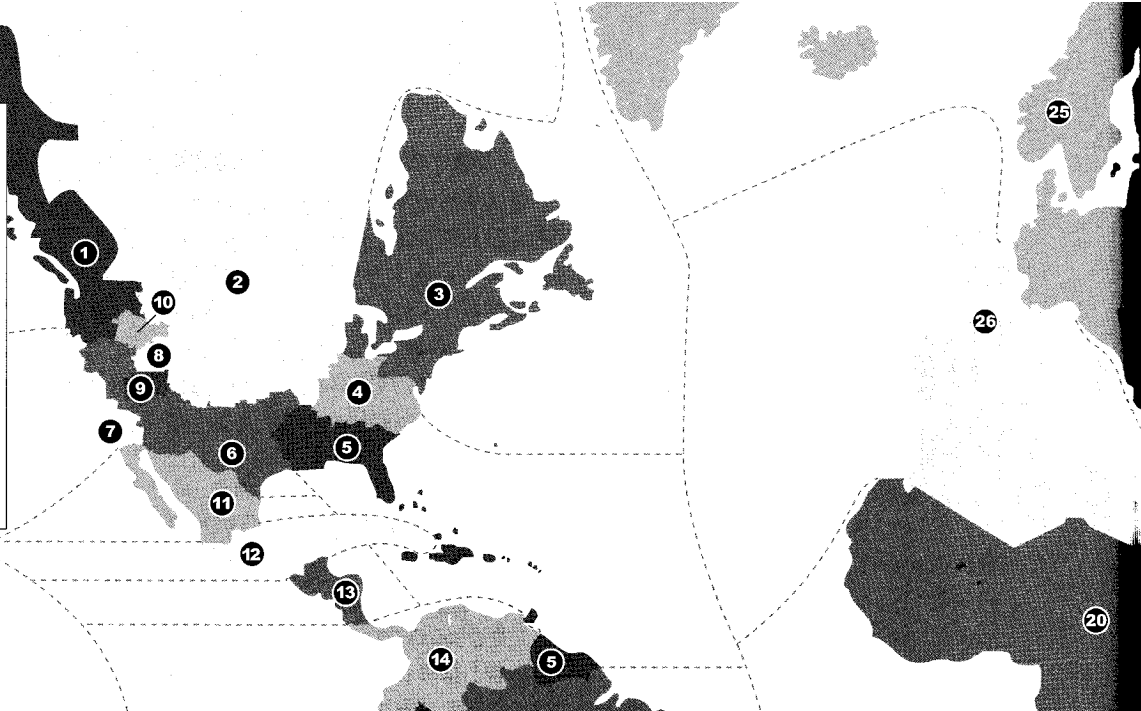
ウクトドルフ長老は、8月15日からこの召しにおける奉仕を開始した。七十人会長会の会員はほかに、アール・C・ティンギー長老、D・トッド・クリストファーソン長老、デビッド・E・ソレンセン長老、デニス・B・ノイエンシュバンダー長老、チャールズ・ディディエ長老、セシル・O・サミ

ュエルソン・ジュニア長老がいる。
ウクトドルフ長老は、1994年に七十人第二定員会に召された。1996年に七十人第一定員会会員として支持され、幾つかの地域の地域会長として働いてきた。最近北アメリカ西地域で奉仕していた。また、教会コーリレーション部の管理ディレクター補佐としても働いてきた。
ウクトドルフ長老はチェコスロバキアで生まれ、ほとんどの時間をドイツで過ごしてきた。長老と夫人のハリット・リーヒ・ウクトドルフ姉妹との間には二人の子どもがいる。□

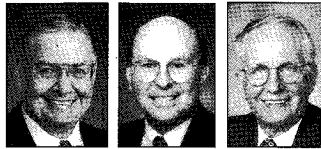
新しく召された 地域会長会

大管長会は、地域会長会
の任地の変更を発表した。
この変更は2002年8月15
日からすでに実施されている。

*印は、地域幹部七十人



1. 北アメリカ北西地域



第一副会長 ウィリアム・R・ブラッドフォード
会長 クエンティン・L・クック
第二副会長 スティーブン・A・ウェスト

5. 北アメリカ南東地域



第一副会長 キース・クロケット
会長 ジーン・R・クック
第二副会長 H・オールドリッ
ジ・ギレスピー

11. メキシコ北地域



第一副会長 ロバート・J・ホエットン
会長 ゲーリー・J・コールマン
第二副会長 アドリアニ・オチョア*

2. 北アメリカ中央地域



第一副会長 ブルース・C・ヘーフェン
会長 ドナルド・L・ステアーリー
第二副会長 リン・A・ミケルセン

6. 北アメリカ南西地域



第一副会長 H・ブルース・ストゥーキ
会長 F・バートン・ハワード
第二副会長 スティーブン・B・オープンソン

12. メキシコ南地域



第一副会長 アルマンド・ガオナ*
会長 リチャード・H・ウィンケル
第二副会長 ベンハミン・デ・ホヨス*

3. 北アメリカ北東地域



第一副会長 グレン・L・ペイス
会長 スペンサー・J・コンディー
第二副会長 H・プライアン・リチャーズ

7. 北アメリカ西地域



第一副会長 デュエイン・B・ジェラード
会長 リン・G・ロビンズ
第二副会長 パウル・R・クリステンセン

9. ユタ南地域



第一副会長 W・ロルフ・カー
会長 ジョン・H・グローバーク
第二副会長 ネット・B・ローシェイ

13. 中央アメリカ地域



第一副会長 フリオ・E・アルバラド*
会長 エンリケ・R・ファラベイヤ*
第二副会長 E・イスラエル・ペレス*

4. 北アメリカ東地域



第一副会長 J・ケント・ジョリー
会長 デール・E・ミラー
第二副会長 ゴードン・T・ワッツ

8. ユタ北地域



第一副会長 モンティ・J・ブラフ
会長 クリー・L・コッフオード
第二副会長 メリル・C・オークス

10. アイダホ地域



第一副会長 D・レックス・ゲラット*
会長 C・スコット・グロー*
第二副会長 ロナルド・L・ラブランド*

14. 南アメリカ北地域



第一副会長 ウォルター・F・ゴンザレス
会長 クラウディオ・R・M・コスタ
第二副会長 ロベルト・ガルシア*

24. オーストラリア/ニュージーランド地域



第一副会長 ジョン・M・マドセン
会長 ケネス・ジョンソン
第二副会長 リンゼー・T・ティル*

26. ヨーロッパ西地域



第一副会長 ウェイン・S・ピーターソン
会長 ハロルド・G・ヒラム
第二副会長 W・クレイグ・スウィック

27. ヨーロッパ東地域



第一副会長 キース・K・ヒルビッグ
会長 ダグラス・L・カリスター
第二副会長 ロバート・F・オートン

25. ヨーロッパ中央地域



第一副会長 ロナルド・A・ラスバンド
会長 D・リー・トブラー
第二副会長 マーリン・K・ジェンセン

28. アジア北地域



第一副会長 菊地良彦
会長 ドナルド・L・ホールストロム
第二副会長 ゲーリー・S・松田*

29. アジア地域



第一副会長 E・レイ・ベイトマン
会長 ジョン・B・ディクソン
第二副会長 D・アレン・アンダーセン*

15. 南アメリカ西地域



第一副会長 カロス・H・アマアソー
会長 デビッド・R・ストーン
第二副会長 ウィリー・F・ズナガ*

16. ブラジル北地域



第一副会長 ロバート・R・ストゥアー
会長 アデマール・ダミアニ
第二副会長 ペドロ・J・ベンア*

18. チリ地域



第一副会長 フランシスコ・J・ピーナース
会長 ジェフリー・R・ホランド
第二副会長 カール・B・プラット

20. アフリカ西地域



第一副会長 H・ロス・ワークマン
会長 シェルドン・F・チャイルド
第二副会長 R・コンラッド・シュルツ

22. フィリピン地域



第一副会長 アンヘル・アブレア
会長 ダリン・H・オークス
第二副会長 リチャード・J・メインズ

17. ブラジル南地域



第一副会長 ダーウィン・B・クリステンソン
会長 ニール・L・アンダーセン
第二副会長 パウロ・R・グラール*

19. 南アメリカ南地域



第一副会長 L・ホイットニー・クレイトン
会長 ジェイ・E・ジェンセン
第二副会長 カルロス・E・アグエロ*

21. アフリカ南東地域



第一副会長 スティーブ・E・スノー
会長 ロバート・C・オークス
第二副会長 デビッド・J・バーネット*

23. 太平洋諸島地域



第一副会長 ロバート・K・デレンバック
会長 ロナルド・T・ハリパーソン
第二副会長 デニス・E・シモンズ

新しい伝道部長、 教会指導者から 教えを受ける

「わたしたちのメッセージの偉大なテーマは、神が人類に御自身を現されたことと、神が語られ、愛する独り子を紹介されたことです。これ以上にすばらしい宣言はありません。」6月25日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は新しい伝道部長に向けてこのように語った。

ヒンクレー大管長は6月、プロボの宣教師訓練センターで4日間にわたって開かれた新任の伝道部長セミナーにおいて、最初の話者として説教台に立った。セミナーでは、新しく召された100組以上の伝道部長夫妻が、大管長会のトーマス・S・モンソン第一副管長やジェームズ・E・ファウスト第二副管長、その他の十二使徒定員会会員の説教に耳を傾けた。

「皆さんは、多くの男女が築いてきた伝統に続く人々です。これらの男女は教会の召しにこたえるために、どんなものであっても、今まで行っていたことを置いて伝道地に赴きました」とヒンクレー大管長は語った。「皆さんが進んで奉仕していただき、責任を果たせるように主に祝福を祈り求めてくださっていることを感謝します。」

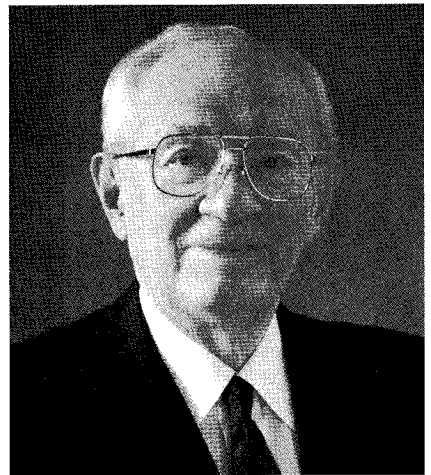
ヒンクレー大管長はまた次のように語った。「わたしたちの伝えるメッセージは、永遠の父なる神とその御子が実在しておられること、そして、この時代に再び語られたことであり、これ以上に偉大なメッセージはありません。皆さんもわたしもそれが真実であると知っています。そして今、それを人々に伝えるために遣わされています。」

トーマス・S・モンソン副管長は、伝道部長の責任は宣教師が成功するように助けることであると語った。「彼らを愛し、高め、鼓舞してください。[そうすれば]皆さんの家庭は永遠の思い出に満たされるでしょう。」モンソン副管長はさらに、伝道を成功させる3つの要素として、宣教師、メッセージ、会員を挙げた。

ジェームズ・E・ファウスト副管長は、自分の孫たちに伝道から持ち帰ってほしい10の事柄について話した。第1「主イエス・キリストが世の救い主であり贖い主であられるという堅固な証」、第2「預言者ジョセフ・スミスに対する証」第3「福音に対する愛」第4「聖文の知識」第5「伝道部長夫妻に対する愛」第6「伝道地とその地の人々に対する愛」第7「同僚に対する感謝」第8「祈りの力の大切さに対する理解」第9「奉仕する熱意」第10「人生のチャレンジを耐え抜く信仰」。

十二使徒定員会会長代理であるボイド・K・パッカー長老は、伝道部長夫妻に伝道中に学んだ教訓について話し、「わたしたちの伝道ではなく、主の伝道であることを学ぶのはすばらしい経験です」と語った。

十二使徒定員会会員である、ニール・A・マックスウェル長老、ラッセル・M・ネルソン長老、ダリン・H・オークス長老、ジョセフ・B・ワースリン長老、ジェフリー・R・ホランド長老は、伝道についてその他の観点から話した。□



新任の伝道部長夫妻に、最善の努力を尽くすように勧めるヒンクレー大管長。

分かち合いの時間

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年12月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』2002年12月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本誌「フレンド」12、13ページ「へいわのきみ」を参照する。

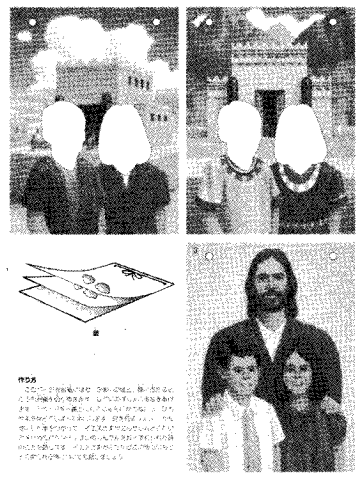
1. 大管長会からのクリスマスメッセージを紹介する(本誌「フレンド」2-3ページ参照)。イエス・キリストの再臨の時に約束されていることの一つは、地上に平和がもたらされることであると教

える。その一方で、わたしたちはキリストの模範に従うならば、今この瞬間に一人一人が平和を得ることができると説明する。子どもたち全員で、イザヤ2:2-4を大きな声で読む。主の家とは何かについて話し合う。以下の質問をする。「つるぎとやりは何のために使うでしょう。」「すきやかまは、どんなものでしょう。」「どうすれば主の道を歩むことができるか教える。戒めを守ることに関する歌か賛美歌を歌う。子どもたちが守ることのできる戒めについて具体的に話し合う。その戒めを黒板に列記す

る。可能であれば、子どもたちは油粘土かパンの生地で作戦時に使用するものを作る。次に、その武器を「変形させて」、農具か平和な時に使う道具に作り変える。それから、動物、は虫類、または昆虫を描くか、作る。作品を集めて、展示する。現在これらの生き物がどのように共生しているか話し合う。そして、救い主の再臨後に、これらの動物がどのように共生するかを話し合い、現在の様子と比較する。子どもたちは今、どのように一人一人と仲良くできるか話し合う。どうすれば家庭に平和があるか。

初等協会ではどうか。学校ではどうか。平和を作り出すことにおいて、たった一人の子どもが行いでも、周りを変える力があることを証する。

2. 初等協会が始まる前に、お手玉を多数、容器を一つ用意する。容器を教室の前に置く。テープか紙を用いて、容器から1ヤード(または1メートル)の所に印を付ける。さらにそこから部屋の後方まで等間隔に10か所印を付ける。神殿参入にふさわしくなるためにする事柄と、救い主の再臨に備えるために役に立つ事柄は同じであることを、子どもたちが理解できるよう助ける。十人のおとめのたとえを話す(マタイ25:1-13参照)。備えをするために——言い換えれば、ランプに油をためるために——できることを話し合う。「わたしの福音の標準」(『リアホナ』1999年4月号、フレンド、8-9ページ参照)を見せる。これらの標準に添って生活すれば、自分のランプに油を足していることになるのを、子どもたちが理解できるよう助ける。部屋の前方にある容器は、初等協会のランプであると言う。お手玉の一つ一つが油の一滴一滴である。子どもたちは福音の標準の一つ暗唱してから、ランプに油を注ぐ。標準をより正しく暗唱できれば、それだけいっそうランプ(容器)に近づいて、油(お手玉)を投げ入れることができる。一つのクラスから子ども一人が標準の暗唱を試みる。あらかじめ、その標準を文節ごとに区切っておく(例:「わたしは | バブテスマの | 聖約を | おぼえ、 | 聖霊の | ささやきに | 耳を | 傾けます」)。「わたしは」の後に正しく言うことのできた文節の数だけ、容器に近い印の所に立つことができる(ただし最後の印を越えて容器に近寄ることはできない)。その子どもは、お手玉を投げ入れる。もし容器に入れば、そのクラスの次の子どもが、どうすれば最初の子どもの今暗唱した標準に添った生活をすることができるか、例を挙げて説明する。そして説明をした子どもが、同じ地点からもう一つ別のお手玉を投げ入れる。もし最初に投げたお手玉が容器に入らなかったなら、その時点で次のクラスと交代する。次のクラスも



同じことを繰り返す。子どもたちがよく理解できるまで、同じ標準を用いる。その標準に従うように励ます歌か賛美歌を歌う。強調したいほかの標準を使って同じように繰り返す。標準を暗記する以上にそれを実行に移すように、子どもたちにチャレンジする。個人的な経験か、「フレンド」に掲載された物語を話して、具体的に何らかの標準に従って生活すると祝福が得られることを教える。

3. 歌の時間に、クリスマスプレゼントを選ぶ時間を設ける。あらかじめ、クリスマスの歌、神殿についての歌、そのほかの歌や賛美歌の中から、どの歌が好きか子どもたちに聞いておく。キリスト降誕場面に登場する切り抜きの人形の裏に、この活動で用いる歌や賛美歌の題名を書いておく。以下の各指示を別々のカードに書く。「男の子が歌う。」「女の子が歌う。」「大人が歌う。」「立って歌う。」「伴奏なしで歌う。」「ハミングしたり歌ったりする。」「大きな声や小さな声で歌う。」「指揮をする。」「すべての節を歌う。」「動作をつけて歌う。」各カードをそれぞれ、プレゼントのように箱、袋、または容器に入れる。切り抜き人形を黑板にはり、プレゼントをテーブルの上に置く。博士たちがイエスに贈り物を持って来た物語を話す(マタイ2:1-11参照)。わたしたちがイエスにささげることのできる贈り物として、歌の贈り物があることを子どもたちが理解できるよう助ける。「わたしは心の歌を喜ぶからである。」(教義と聖約25:12)一人の子どもが切り抜き人形の一つ選

び、裏に書かれた歌か賛美歌の題名を読む。別の子どものプレゼントを開ける。初等協会全員で、そこに書いてある指示に従って歌や賛美歌を歌う。女の子、男の子、大人は、歌う番が来たら前に出るとよいだろう。「ハミングしたり歌ったりする」の指示に対しては、二人の子どもを選ぶ。一人がハミングして、もう一人が歌う。一人は前向き、もう一人は後ろ向きに立つ。歌っている間中、二人は時々「前向き」「後ろ向き」を交代する。初等協会全体で、前を向いている子どもの歌い方に合わせて歌う(ハミングしている子どもがこちらを向けば全体でハミングし、歌っている子どもがこちらを向けば全員で歌う)。「大きな声や小さな声で歌う」の指示に対しては、一人の子どもが両手を使って歌う音量を指示する。両手を互いに近づければ近づけるほど小さな声で歌い、離せば離すほど大きな声で歌う。「指揮をする」の指示に対しては、そのカードを選んだ子どもに正しい拍子の取り方を教え、最初の数小節の指揮をするのを助ける。「動作をつけて歌う」の指示に対しては、歌の歌詞を区切って幾つかに分け、グループに分かれてそれぞれの部分の歌詞にふさわしい動作を考える。各グループは初等協会全員に動作を教え、全員で歌全体を通して歌う。最後に、敬虔な雰囲気(はげしい)の歌か賛美歌を歌って活動を終わる。その歌を歌う間、一人の子どもが部屋の前から後方にかけて歩く。その子どもが通りかかった列の子どもたちは、腕を組む。□

スポーツがつないだ 教会との架け橋

～ホールストロム会長、橋本聖子参議院議員を訪問～

9月24日にアジア北地域会長のドナルド・L・ホールストロム長老は、広報宣教師の清水長老姉妹とともに橋本聖子参議院議員を訪問した。ソルトレークでの冬季オリンピック以降、様々な関係団体やメディアとの懇談が催されてきたが、橋本議員への訪問もその一環として行われたものである。

橋本議員は1984年のサラエボ大会でオリンピック初出場以来、スピードスケート、自転車競技で連続7回ものオリンピック出場を果たした。1992年のアルベールビル大会ではスピードスケートで銅メダルに輝き、冬季五輪史上で日本人女子初のメダリストとなった。

ホールストロム長老は、ソルトレーク・シティー冬期オリンピックの際、教会と帰還宣教師が日本のメディアをサポートし

たことについて橋本議員に紹介し、教会の書籍と資料を贈った。また、宣教師がそれぞれの国に帰還後、様々な形で親善大使的な役割を果たして活躍していることについて触れると、橋本議員は、自身と教会との接点についてのエピソードを紹介した。「現役時代に、7年ほどカナダのカルガリーでトレーニングを行ってきましたが、そこでお世話になった日本人の家族が教会員の方で、週末には度々ご家族の夕食に招かれることがありました。5人の娘さんがいらっしゃるとても素晴らしいご家族でした。ですから、教会のことについては随分と前から知っていますよ。」偶然にもその家族が広報宣教師の清水長老夫妻とも友人であったことから、家族のすばらしさを体感したという橋本議員との懇談はさらに和やかなものとなった。

ホールストロム会長と橋本聖子参議院議員。橋本議員のオフィスにて。



4人の子どもの母親でもあり、議会に出席しながら事務所に子どもを置いて授乳を続けた経験を持つ橋本議員は、ホールストロム長老と、国家的に大きな問題である少子化や女性の役割についての意見を交換した。ホールストロム長老は「教会は子どもたちが家庭での教育と一般の教育の両方を受けて、将来成人したときに強い家庭を築きながら、社会でも活躍することを望んでいます」と教会の家族観に

ついて話すとともに、社会を良くする運動のために多くの教会員が今後もボランティア活動に従事していくことを約束した。

ホールストロム長老は「友人の中に教会員を知っている人が増えることはとても大切なことです。正直な交友関係を築き、それを広げることで、多くの友人がわたしたちの信仰を理解し、擁護する人となってくれるからです」と橋本議員との懇談の最後に語った。□

洗んでゆく車に人が!

～人命救助で表彰された東京北伝道部の宣教師～

東京北^{あひお}ステーク上尾ワードで伝道するダニエル・R・ミラー長老とブライアン・D・ネイラー長老(東京北伝道部)は、10月27日に埼玉県上尾消防本部から人命救助に対する功勞で表彰を受けた。消防関係者の勤続功勞を表彰する式典に日程を合わせて二人の宣教師も表彰されたが、民間人による人命救助での表彰は彼らだけであった。表彰式には、総務副大臣、埼玉県知事代理、上尾市長、上尾警察署長、上尾消防署長も

出席し、各人からその功勞がたたえられた。表彰後に取材を受ける宣教師を囲んで関係者との会話は弾み、二人がユタ州から来日していることに話題が及ぶと、歓談の中で^{わかまつかねしげ}若松謙維総務副大臣は、オリンピックのことや



若松副大臣と歓談する長老たち。

事故現場の線路下道路。



教会のことについて尋ねるとともに「なかなかできないすばらしい勇敢な行動」と二人の行為への感動を表した。11月7日には上尾警察署においても同じように人命救助の功勞が高く評価されて表彰が行われた。

9月12日に上尾市近辺を襲った局地的な豪雨の中、伝道を終えて帰る二人は上尾駅と北上

尾駅の間にある線路下をくぐる道に差しかかっていた。下り坂のように人命救助の功勞が高く評価されて表彰が行われた。道路には水があふれ、川のようにになっていた(消防本部の発表によれば最深部は3.7mだ



表彰式の後、総務副大臣と上尾市市長とともに記念写真に収まるミラー長老（左）とネイラー長老（右）。

った)。ミラー長老が橋の上から見下ろすと水の中に光るようなものが見えた。最初はそれが何であるか分からなかったが、よく見るとそれは沈みかけた車の後部窓であった。しかも、車内からその窓に顔を押しつけるようにして一人の男性が助けを

求めていたのである。車内には水が入り込み、窓との間に残されたわずか20cmほどの空間にかろうじて顔を出している状態だった。二人の宣教師は即座に水没しかけた車へと向かい、道路わきの歩道からその車に飛び乗った。窓をけり続けたが簡

単には割れなかった。ついに車内に水が満ちようとする間際、心の内に祈りながらミラー長老がひとけりすると、窓は粉々にひび割れて窓枠から外れ、流されていった。こうしてようやく車内に残された男性を引き上げることができたのであった。男性を救助すると同時に車は深みへと沈んでいった。

近隣の通報によって救助隊が到着したのは救出から約5分後のことだった。飛び散ったガラスで少しのけがを負った宣教師は治療を受けた後に、救助隊から表彰の話を聞かされたが、「9時30分までには帰宅しなければなりませんから」と伝えると

帰ってしまったという。救助された男性は、「死ぬかと思いましたが」と語り、宣教師への感謝を表した。二人の宣教師は、救出が遅れば車とともに水没したり、排水溝に巻き込まれたりする危険もあったが、その男性を救助するために自らを省みず命がけで救出に向かったのであった。

水没間際の車に歩道から飛び乗ったことで、「なぜ泳いで救出に向かわなかったのですか」と取材陣や関係者に尋ねられたミラー長老とネイラー長老は、「宣教師のルールで、泳ぐことは禁じられていましたから」と笑顔で答えていた。□

全国選抜の12人が家族について熱弁を振るう

～ブリガム・ヤング大学ハワイ校 第4回全国高校生英語スピーチコンテスト 本選大会を開催～

本選大会に出場した全国の予選優勝者たち。前列左より、本選の1位から5位の上位入賞者が並び。

11月2日(土)午後1時より、東京・吉祥寺の教会堂において、第4回全国高校生英語スピーチコンテスト全国大会が開催された。本年度の大会からは、主催者でもあるブリガム・ヤング大学ハワイ校のスタッフも審査員として加わり、高校生のスピーチの審査に当たった。礼拝堂を埋めた160人ほどの聴衆が見守る中、全国各地から選抜された12人の高校生が「家族」をテーマに、練習を積んできた英語のスピーチを発表した。優勝したのは日本と海外での養子との家族関係の違いについて語った千葉地区代表/赤荻姫亜さん(聖徳大学付属高等学校3年生)。

赤荻さんはスピーチの中で、オーストラリアに短期滞在した経験を紹介した。一緒に生活したオーストラリア人家族は実子のほかに韓国人の養子を迎えていた。「オーストラリアを訪れる前のわたしにとっては、養子と



いうのは単なるテレビの世界のことであり、フィクションでした。実際の生活では、養子に出会ったことは一度もありませんでした。」しかし、養子も実子も区別なく(いっしょ)ホームステイをしていた赤荻さんをも実の娘のように扱ってくれたオーストラリア人夫妻のもとで、養子の少年は「両親の期待にこたえるために大変な努力をし、自信に満ちあふれ……ているように思え」という。

「何の報いがなくとも、彼ら

は温かい手を、悲惨な状況下の助けを必要としている子どもたちに差し出すことができるのです。彼らの喜びは子どもたちが自立するまで支えることなのです。そのような経験が生活を豊かにしてくれると信じているのです。ほんとうの愛は、人種や血縁関係を超えてあるものなのです」と赤荻さんは力強くそのスピーチを結んだ。

「受験と重なるので不安でしたが、毎日毎日練習して大会に臨みました」と感激の涙を流し

ながら喜びを語った赤荻さんには、優勝杯とともにブリガム・ヤング大学ハワイ校の夏期講習への招待が贈られた。

5位までの入賞者は以下のとおりであった。2位/京滋地区代表の辰巳千恵さん(同志社女子高等学校1年生)、3位/東海地区代表/浅野亜希子さん(静岡県立富士東高等学校3年生)、4位/沖縄地区代表/藤城美央さん(沖縄県立那覇国際高等学校3年生)、5位/福岡地区代表/山田陽子さん(福岡県立香住丘高

ブリガム・ヤング大学ハワイ校案内

11月2日と4日に、東京・吉祥寺の教会堂において、来日したブリガム・ヤング大学ハワイ校(BYU-H)のスタッフによる音楽学部へのオーディションが開催された。また、4日には関東地区セミナー・グランプリの終了後に入学説明会も行われた。『USニュース アンド ワールド レポート』誌(US News & World Report)が西合衆国の教養学科の大学上位15校の一つにBYU-Hを挙げるとともに、合衆国内において最も授業料の低い大学の一つとしてランク付けしたことによって、アメリカ本土からのBYU-Hへの入学希望者も増加の傾向にある。

実際に、BYU-Hの学生の教育にかかる費用の約80パーセントが教会によって援助されているため、学生は学費の残りの20パーセントのみを負担することになる。さらには、BYU-Hのクラス開始1年以内に伝道を終えた宣教師のためには帰還宣教師奨学金も用意されている。新入生の約3分の1が何らかの能力に応じた奨励金を受けている状況である。

BYU-Hへ入学するためには、TOEFL(トフル)と呼ばれるテストを受ける必要がある。入学が許可されるには、少なくともTOEFLで475点に達しなければならない。日本人留学生の中には英語力に不安を感じる学生も多いが、TOEFLで500点以上を取得した生徒も含め、ほとんどの留学生は、BYU-Hでの4か月から12か月の英語研修プログラムを受講することによって語学力も向上するのであまり心配はない。入学に際し、TOEFLの代わりに教会教育システムでミシガンテスト(75点以上が必要)と呼ばれる試験を受けることもできる。

BYU-Hの建つライエは人口約8,000人の小さな町で、オアフ島の北側にあり、ホノルルからは約1時間の場所だ。住民の約9割は教会員で、治安も良く、美しい砂浜のある場所としても有名である。都心から離れた田舎町ということもあり、日本人留学生からは、勉強に励むにも霊的にも最適の環境だ

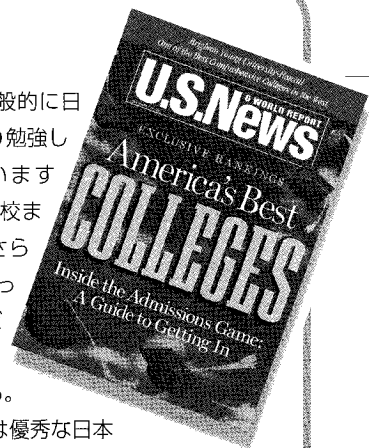
とスカウティングの関係などについての講演が行われた。

ブロック部長はボーイスカウトアメリカ連盟(BSA)の管理職員として39年間働き、育成団体として41万人のスカウト

と評判である。「一般的に日本の大学生はあまり勉強しないと言われていますが、BYU-Hでは高校までに培った学力をさらに伸ばす環境が整っています」と、子どもを留学させた感想を述べる親もいる。

近年、BYU-Hでは優秀な日本人学生の入学に力を入れている。セミナーやインスティテュートに出席したことがある教会員や、宣教師として奉仕をした教会員は、優先的に入学が考慮されている。毎年秋の新学期には合衆国内と国外60か国から2,300人近くの学生が登録し、合衆国内で最も国際的な学校環境を形成している。実際、様々な人種、民族、国、宗教を超えた友愛の精神によって、異文化を理解しながら信仰をはぐくむ機会がBYU-Hにはある。「次代を担う日本人の若人にとって、個々の才能を伸ばしながら質の高い教育を受けるのに最適な環境が用意されています」と、BYU-Hのスタッフは自信をもって入学を奨励している。

ハワイ出身のアジア北地域会長会会長、ドナルド・L・ホールストロム長老は次のように語る。「BYU-Hで学んだ日本人の学生が宣教師となり、帰還後も、質の高い教育とともに、充実した教会員生活や教会活動を通じて、将来の日本の教会を導くバランスの取れた強いリーダーシップを身に付けてほしいものです。」



優勝した千葉地区代表の赤荻姫亜さん。

等学校2年生)。

ブリガム・ヤング大学ハワイ校の国際部部長であり、審査委員長を務めたマイク・サドロー兄弟は、出場者を評して次のように話した。「出場した生徒の皆さんは、全国大会へ出場することですでに賞を受けています。その賞の名前はそれぞれ違いますが、全員が優勝に匹敵するほど力を発揮していたと思います。」

日本のボーイスカウト指導者がブロック伝道部長を歓迎

9月28日(土)東京ステークセンターにボーイスカウト日本連盟の関係者や地域幹部七十人の中野正之長老をはじめとする教会指導者が集い、東京南伝道部のK・ハート・ブロック部長の歓迎会が開催された。約50人のスカウト関係の指導者が集う中、ブロック部長によって、アメリカ連盟のスカウティングや、青少年の教育との関係、アロン神権達成プログラム



オアフ島北部に位置しハワイ神殿にも近い、風光明媚なBYU-Hのキャンパス。

数を登録している教会のディレクターとして9年間にわたってBSAとの関係を調整してきた。それは教会の41万人のスカウトと19万人のスカウトリーダーを管理する務めでもあった。

また、アロン神権達成プログラムの作成に七十人第一委員会の中野若い男性会長)とともに携わり、その後日本へ伝道部長として赴任することとなった。



業であると確信しています。練を受けるようにスカウティングが活用されることを願っています。」□

……これからも日本の青少年が活気をもって活動し、将来主の言葉を広める宣教師となる訓

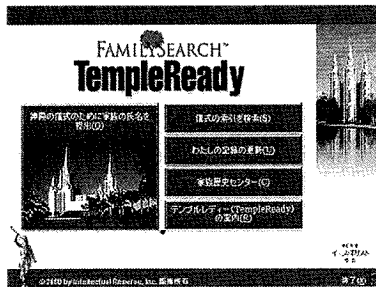
ブロック部長の話に耳を傾けたボーイスカウト日本連盟の指導者からは「BSAにおいての教会の力を改めて確認することができました」「青少年教育として素晴らしいものを教会は持っている」「1913年から教会が青少年教育のために心血を注いできたボーイスカウト活動は偉大なものです。わたしが教会の人々から受けた大きな支援に感謝しています」などの声が聞かれた。

歓迎会に参加した中野正之長老は、次のように感想を述べている。「教会の基本プログラムを推進するときわたしたちは青少年のために働く機会を与られます。一つの家族として青少年を強めるためには日々の訓練が大切です。安息日を守り、信仰を体験しはぐくむ活動として洗練されたスカウティングは、全世界で行われている『アロン神権——神への務めを果たす』プログラムを成功に導く大きな

家族歴史センターと神殿儀式のための新しい提出方法

～電子データで提出する「家族の記録」～

家族・教会歴史部
杉本圭司



るようになりました。すなわち、記録提出者は、『個人の先祖ファイル (PAF)』で作成した記録のデータを『テンプレディー』で処理して、「神殿提出用ディスク」を作成し、それを日本国内の神殿（現在は東京神殿か福岡神殿）に直接持参できるようになったのです。神殿では、「神殿提出用ディスク」のデータから神殿のコンピューターで名前のカードやリストを印刷します。

また、家族歴史センターを利用できない会員は、『個人の先祖ファイル』のデータを東京神殿ネームズ・プロセッシング課に送る（電子メールでの提出も可能。東京神殿ネームズ・プロセッシング

課のメールアドレスは tnp-jp@ldschurch.org）と、『テンプレディー』で処理が行われ、作成された「神殿提出用ディスク」が記録提出者に返送されます。そして、記録提出者がそのディスクを自身で神殿に持参することになります。

もちろん、従来の『家族の記録』での提出も引き続き受け付けます。

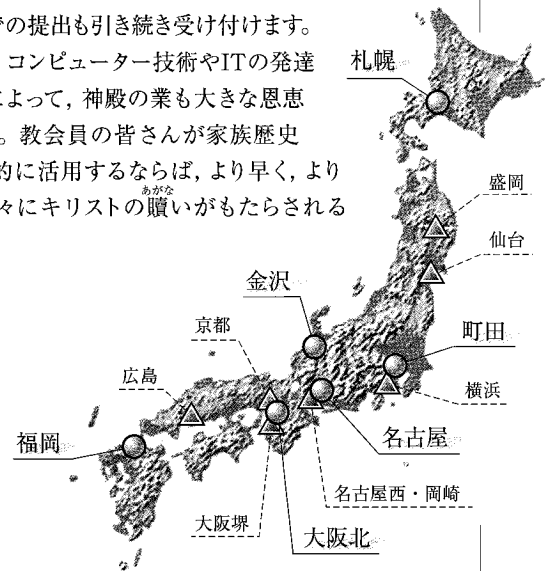
コンピューター技術やITの発達によって、神殿の業も大きな恩恵

を受けています。教会員の皆さんが家族歴史センターを積極的に活用するならば、より早く、より多くの霊界の方々にキリストの贖い^{あがな}がもたらされることでしょう。□

昨年、日本語版の系図作成ソフトウェア『個人の先祖ファイル (PAF)』が完成し、それに伴い、家族歴史センターが札幌・町田・金沢・名古屋・大阪北・福岡・宜野湾の各ステークに設立されました。そして2002年末までに、新たに仙台・横浜・名古屋西・岡崎・大阪堺・京都・広島・那覇の各ステークと盛岡地方部にも家族歴史センターが設置されることになりました。現在、多くの会員がPAFを使って家族歴史をまとめています。さらにこの2002年10月には、日本語版の『Windows版テンプレディー』（編注——Temple Readyとは、神殿の準備を完了するの意）が完成し、各家族歴史センターに導入されました。

この『Windows版テンプレディー』は、『個人の先祖ファイル』で作成した記録を神殿儀式のために提出する処理を行うソフトウェアです。『Windows版テンプレディー』は最寄りの家族歴史センターで利用できます。

この二つのソフトウェアが完成したことによって、『家族の記録』用紙を使わずに神殿儀式のための記録を神殿に提出でき



日本各地の家族歴史センター

○……稼働中 △……2002年末までに設置

2002年度チャーチ・ニュース索引

1月号

- 七十人、若い男性、日曜学校の異動 126頁
- 同時多発テロ事件後、教会は人々を慰め人道的支援を行った 127頁
- 新しいウェブサイトで福音を分かち合う 128頁

2月号

- ヒンクレー大管長の最近の活動 1頁
- 復元されたバルマイラの農場、奉獻される(ショーン・D・スティール) 4頁
- 開拓者の預言者は自らの信仰によって支えられた、とファウスト副管長は教える(サラ・ジェーン・ウィーバー) 3頁
- 開拓者墓地、修繕される(R・スコット・ロイド) 4頁
- 「彼らのひとみに希望が見えます」(スコット・P・トロッター) 5頁
- 天使モロナイ像、3つの神殿の尖塔に据えられる(サラ・ジェーン・ウィーバー) 5頁
- ブリガム・ヤング大学ハワイ校、「U.S.ニュース・アンド・ワールド・リポート」(U.S. News & World Report) 誌上で第4位に 6頁
- 「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年2月 7頁
- 第6回江藤俊哉バイオリン・コンクールで第1位を受賞(小形真奈美) 8頁
- 第8回を迎えたメサイアコンサート〜日本伝道100周年を記念して〜 8頁
- 第3回高校生のための英語スピーチコンテスト〜優勝は札幌地区代表の浜本直哉さん〜 [I Speak] ビンで世界との架け橋になる帰還宣教師たち 9頁
- 祈りを込めた菊作り〜福井ワドの教会員、たけふ菊花コンクールで総合優勝〜(渡邊貞男) 9頁
- 全国3つの大学祭で同時にソルトレークを紹介 10頁
- 〜東北大学・岐阜聖徳学院大学・広島大学の教会員たち〜 わが家の伝統 10頁
- 「わたしたちは皆隣人であり……」〜草の根の国際親善に取り組んで10年〜(武井家族) 11頁
- 日々の恵み 11頁
- 「死は彼らにとって甘いからである」(山下真澄) 14頁
- 専任宣教師——JMTC 265期生 7人、海外2人 16頁
- 役員の変動(2001年11月11日〜2002年1月9日) 16頁

3月号

- ヒンクレー大管長の最近の活動 1頁
- バンクス長老、ヤングアダルトに向けて語る 4頁
- ともに悼む仏領ポリネシア市民 5頁
- ニュージーランドにおける、福音を分かち合う新しい取り組み 5頁
- アフガン難民へ冬物衣料が送られる 6頁
- 多くの車いすが中央アメリカに寄付される 6頁
- 違いを生み出す会員 6頁
- 若い女性たち、260時間をささげる/マーシー・コー活動/4人の会員、仏領ポリネシア国会議員に選任される 7頁
- 「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年3月 7頁
- ソルトレーク・シティ・オリンピックで認知度が高まる教会 8頁
- 日本語で読める教会公式ホームページ 8頁

特集——神の賞を得る 青少年と安息日

- ブレ・ストーリー:ブリガム・ヤング大学フットボールチームの元スター選手、安息日について語る(カーティス・ガーサ イーライ・ハーリング) 9頁
- 福音から力を受けた「一番福」のランナー(吉田光一郎) 10頁
- 安息日とクラブ活動は両立できます〜より高いレベルを目指して〜(与那嶺真史) 12頁
- わが家の伝統—— 14頁
- 段位よりも大切なもの〜日々の積み重ねが家族にもたらした宝〜(谷口家族) 14頁
- 専任宣教師——JMTC 266期生 10人、海外2人 16頁
- 奉獻された教会堂—— 16頁
- 静岡ステーキ袋井支部 16頁
- 役員の変動(2002年1月10日〜2月13日) 16頁

4月号

- ヒンクレー大管長、ワシントン州コロンビアリバー神殿を奉獻 1頁
- 大管長会、年次クリスマスディナー・ショナールを開催する 2頁
- ヒンクレー大管長、デビッド・O・マッケイ大管長をたたえる 3頁
- 90歳の誕生日を祝うマジョリー・ベイ・ヒンクレー姉妹 3頁
- ネルソン長老、ガーナで神殿の献入れ 4頁
- 教会、チリ国勢調査に追加される 4頁
- フィジー首相、ステーキ大会に出席 4頁
- チェコ初の集会所が奉獻される 5頁
- 「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年4月 6頁
- 教会のウェブサイトで資料が入手可能に 6頁
- 特集——ソルトレーク・シティ・冬季オリンピック 6頁

- 子どもたちと架けた音楽の橋 7頁
- オリンピック公式記念CDに作品が収められる(福田真史) 7頁
- 『ユタ日報』の心を受け継いで オリンピックを機にボランティアで情報発信 8頁
- 『ユタ日報』を創刊(山本亮一) 8頁
- 35億人に種をまく〜メディアの報道を通して見るソルトレーク・シティ・冬季オリンピックと教会 9頁
- 〜地域広報ディレクター、M・トム・清水長老夫妻インタビュー 9頁
- 応援しました!(田中珠美) 9頁
- ボランティアしました!(岩永倫子) 11頁
- テンプルスクウェアの宣教師(鬼塚えり子) 12頁
- 答えを伝えました!(阿部真子) 13頁
- 出演しました!(フォード・加奈子) 14頁
- 専任宣教師——JMTC 267期生 11人、海外2人 16頁
- 奉獻された教会堂—— 16頁
- 長野地方部諏訪支部/長崎地方部長崎支部 16頁
- 役員の変動(2002年2月14日〜3月14日) 16頁

5月号

- 新しくモロナイ像が据えつけられたドイツ・フライベルク神殿 1頁
 - (ユージン・フリードマン長老、クレア・フリードマン姉妹) 1頁
 - 首相、ニュージーランド神殿のイルミネーションを点灯(マリリン・レオナルド) 2頁
 - 9月11日の犠牲者をたたえるオリンピック聖火(リー・デビッドソン) 3頁
 - モスクの完成記念式典に出席したオックス長老 3頁
 - 違いを生み出す教会員 3頁
 - 成功する末日聖徒の指揮者/衣料2,000着以上を寄付したステーキ/オーストラリアの末日聖徒が平和賞を受賞 4頁
 - 消火に当たるオーストラリアの会員(サラ・ジェーン・ウィーバー) / 「命の屋根」を作る青少年/家族歴史の大会を後援するステーキ/アリゾナ州最高裁長官に任命された教会員(ニコラス・R・グラブス) / 妊婦向けの小包を作り、寄付した姉妹たち 5頁
 - ロシアの孤児支援のために再び結束する友情(ショーン・D・スタール) 6頁
 - 「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年5月 7頁
 - 障害者のための国際会議に教会が協力〜仙台伝道部の宣教師たちもボランティアで参加〜 わが家の伝統—— 7頁
 - 家族を守る盾を築く〜インターネットの有害情報をカットするソフトウェアを開発〜(真鍋家族) 8頁
 - 目に見えない世界を形にして〜ガラス工芸で世界工芸コンペティション最優秀賞を受賞〜(楯原寛子) 11頁
 - 長い旅路の果てに(菊盛洋子) 13頁
 - ブックセンターだより 13頁
 - 「The Scriptures」CD-ROM(英語版) 13頁
 - 「若い女性メダルペンダント」金・銀 13頁
 - 価格改正のお知らせ 13頁
 - モルモン書(インスティテュート生徒用資料)/日の栄えの結婚(インスティテュート生徒用資料)/生ける預言者の教え(インスティテュート生徒用資料)/成長するわたし(2002年改訂版)/成長するわたし 日記 15頁
 - 専任宣教師——JMTC 268期生 18人、海外1人 16頁
 - 再組織された神殿長会 日本東京神殿 16頁
 - 役員の変動(2002年3月15日〜4月8日) 16頁
- ## 6月号
- 過去と現在をたたえるノーブー神殿の奉獻(リサ・アン・ジャクソン) 1頁
 - オリンピック開催期間中、友情のきずなをすべての国々へつないだ教会 3頁
 - (バーバラ・ジーン・ジョーンズとティファニー・E・ルイス) 3頁
 - ブックセンターだより 3頁
 - 「Light of the World」CD(英語・期間限定品) CD2枚組 112分 5頁
 - 今日の教え 5頁
 - オックス長老、主の時節を信頼するようにと語る 6頁
 - スコット長老、ヤングアダルトにチャレンジに立ち向かうよう教える 7頁
 - ティンギー長老、自国でシオンを強めるよう勧告する 7頁
 - 違いを生み出す教会員 7頁
 - 昔をしのぶ系図展示会に数百人が訪れる/自立を教える若い女性 8頁
 - 「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2002年6月 8頁
 - 地域社会のための教会を目指して〜金沢ステーキ「ステーキ・斉ボランティアデー」〜 9頁
 - 新たに召された地域幹部七十人(中野正之長老/新山靖雄長老/関恵基長老) 9頁
 - 地域家族歴史アドバイザー、召される(青柳弘一) 9頁
 - すべての人をキリストに招く 9頁
 - 手話を通して心を開き合う人々〜青森地方部八戸支部の教会員たち〜 10頁
 - 手話というもう一つの言語 11頁
 - 祝福を携えた聖職者の宣教師〜高崎ステーキ高崎第一ワード、青木義人兄弟〜 12頁
 - すべての言語を学ぶ宣教師たち 14頁
 - 点字の「リアホナ」を制作する 14頁

専任宣教師

2002年9月(273期生)23人, 海外3人 ●上から氏名, 任地(伝道地), 出身ユニット

役員の変動

2002年9月14日から2002年11月12日まで
に管理本部会員統計記録課に通知のあ
った役員の変動(敬称略)

- 神戸ステーキ神戸ワード
監督: 水野 祐司
- 神戸ステーキ明石ワード
監督: 河内山 公宏
- 神戸ステーキ三木支部
支部長: 渡部 弘二
- 大阪堺ステーキ泉南ワード
監督: 大谷 浩史
- 日本名古屋伝道部
第二副部長: 石井 哲志
- 東京北ステーキ浦和第一ワード
監督: 船井 哲夫
- 名古屋伝道部御坊地方部
地方部長: 柏山 歳夫
第一副部長: 濱田 耕一
第二副部長: Pope, Karl T
- 神戸ステーキ尼崎ワード
監督: 山下 俊男
- 大阪ステーキ羽曳野ワード
監督: 泉 富一
- 御坊地方部新宮支部
支部長: 本田 裕二
- 広島ステーキ徳山ワード
監督: 中川 裕之
- 札幌伝道部釧路地方部
第一副部長: 加賀谷 拓也
第二副部長: 大江 弘
- 日本名古屋ステーキ
ステーキ会長: 西原 雄二
第一副会長: 米田 光宏
第二副会長: 小山 典生
- 名古屋ステーキ名東第二ワード
監督: 柴田 勇人
- 東京ステーキひばりヶ丘ワード
監督: 高鳥 雅彰
- 宇都宮地方部那須支部
支部長: 田代 富夫



いしかわ みゆき
石川美由紀
東京北伝道部
那覇ステーキ
那覇東ワード



おおおくほ めいこ
大久保靖子
東京北伝道部
東京南ステーキ
洗足池ワード



おがな ありさ
小形愛里沙
福岡伝道部
町田ステーキ
藤沢ワード



お だ り りょうすけ
織田良輔
東京南伝道部
神戸ステーキ
神戸ワード



お ち かおり
越智 香
広島伝道部
松山地方部
今治支部



かさまつ ゆうこ
笠松優子
東京南伝道部
釧路地方部
北見支部



かみやま みこ
神谷美智子
仙台伝道部
岡崎ステーキ
岡崎第1ワード



こいけ ひさのり
小池学徳
仙台伝道部
岡山ステーキ
米子ワード



さかたもと ともあき
坂田智章
名古屋伝道部
岡崎ステーキ
豊橋ワード



さかもと じゅん
坂本 洵
札幌伝道部
宇都宮地方部
小山支部



すぎやう つぎお
杉浦継夫
福岡伝道部
名古屋ステーキ
高畑ワード



すぎもと あい
杉本 愛
東京北伝道部
大阪堺ステーキ
堺ワード



すずき じゅん
鈴木 潤
福岡伝道部
東京ステーキ
所沢ワード



せんば やすこ
仙波靖子
名古屋伝道部
熊本ステーキ
清水ワード



たかやま いくと
高山北斗
福岡伝道部
我孫子ステーキ
我孫子ワード



たかがわ たかし
蛸川貴之
仙台伝道部
大阪堺ステーキ
堺ワード



うへら みほ
内藤美穂
札幌伝道部
町田ステーキ
湘南ワード



はやし のぶすけ
林 信介
仙台伝道部
町田ステーキ
町田第1ワード



ひらかわ まさひろ
日坂 学
東京南伝道部
名古屋ステーキ
名東第2ワード



ひらやま たかひろ
広谷貴博
東京北伝道部
東京ステーキ
三鷹ワード



たにしま りえ
藤島里織
仙台伝道部
熊本ステーキ
延岡支部



みやのし はじめ
宮良 創
名古屋伝道部
那覇ステーキ
首里ワード



もりもと みずほ
森本瑞穂
東京南伝道部
岡山ステーキ
米子ワード



たけだ ゆきひろ
武内佑介
ハワイ・ホノルル伝道部
町田ステーキ
相模原ワード



つかがわ あき
塚田愛希
ドイツ・ベルリン伝道部
東京西ステーキ
八王子第1ワード



むらかみ りえ
村上 綾
ユタ州・トルドー・シティー
テンブルスクエア伝道部
東京北ステーキ
坂戸ワード

◎末日聖徒イエス・キリスト教会
「リアホナ」編集室
〒106-0047 東京都港区南麻布
5-10-30
TEL.03 (3440) 2666
FAX.03 (3440) 3275
電子メール Liahona-jp@lds
church.org
◎国際機関誌「リアホナ」のお
届け, その他商品に関するお問
い合せは—教会配送センター
TEL.03 (5668) 3391
FAX.03 (5668) 3392

お金では買えない贈り物

心のこもった贈り物は、お金で買えるどんな贈り物よりも価値があります。そのような贈り物にはより多くの労力、心配り、そして犠牲を伴うことが多く、贈る人にとっても受け取る人にとっても特別なものとなるのです。今年のクリスマスのために、お金では決して買うことのできない特別なプレゼントのアイデアをご紹介します。

＊ 家族や愛する人に自分自身をプレゼントしましょう。日を決めてその日一日両親やきょうだいに親切にします。朝御飯を作ったり、プレゼントのラッピングや配達を手伝ったり、夕食の後片付けをしたりするのです。

＊ 両親に骨休めの時間をプレゼントしましょう。クリスマス休暇中に、両親に代わって弟や妹の世話をする時間を取ります。

＊ 困っている人々のための食糧配給を行う地元の施設や保護施設で、ボランティアとして働きましょう。あるいはその他の有益な活動のために奉仕しましょう。

＊ 病気の人やお年寄りを訪問し、これまでのクリスマスの思い出話を聞かせてもらいましょう。

＊ 祈りの中で救い主に対する愛と感謝の思いを表しましょう。

＊ クリスマスは平和の時です。仲良くできない人との不和を解決するように努力しましょう。

＊ きょうだいとの言い争いをやめると、平和を作り出すことができます。できるかぎり家族に優しくしましょう。

＊ 両親に手紙を書き、これまでしてくれたことに対する感謝の気持ちを表しましょう。

＊ ワードや支部から伝道に出ている専任宣教師に励ましの手紙を書き、彼らのために欠かさず祈っていることを伝えましょう。

＊ だれにも分からないようにきょうだいのベッドを整えましょう。

＊ 両親がクリスマスコンサートに行ったり、神殿に参入したり、あるいは二人だけの時間を過ごせるように、無料でベビーシッターを引き受けましょう。

＊ 弟や妹にクリスマスの本を読み聞かせ、救い主について教えてあげましょう（ルカ2章参照）。

＊ お金を使わずにクリスマスプレゼントを準備して節約できたお金で、来月の断食献金を多めに納めることができます。□



母の愛に包まれて

ボニー・ダニエルソン

母は、わたしが3歳か4歳のころ、ワードの扶助協会会長を務めていました。その責任の一端として、母はいつも家でキルトを作っていたように思います。教会の姉妹たちがしょっちゅう我が家の地下室に出入りして、キルト作りのひとときを過ごしたようです。母は、よく針に糸を通してくれ、大人の姉妹たちと一緒に「キルト作り」をわたしにさせてくれました。(わたしの不器用な縫い目を、母はわたしがいないときに忍耐強くほどこいていました。)わたしは、姉妹たちと過ごすこの時間が楽しくて、幼いころからキルト作りと扶助協会が大好きになりました。

母は、わたしがまだ5歳のときに突然亡くなりました。母がわたしに大きな愛の贈り物を残してくれていたことに気づいたのは、それから多くの年月が流れた後のことでした。わたしは19歳のときのクリスマスを決して忘れないでしょう。というのは、そのとき初めて、14年前に亡くなった母からあの最も価値ある贈り物を受け取ったからです。

わたしは知らなかったのですが、母は亡くなる前にキルト用の特別な表布を2枚作り上げていたのです。1

そのとき突然ある考えが頭に浮かびました。キルトを持っている理由がはっきりと分かったのです。わたしはキルトを広げ、そのキルトで息子の小さな体を包みました。「このキルトがあるから、たとえ天国にいても、ブラウンおばあちゃんはあるあなたを抱っこできるのよ」とわたしは答えました。



枚は兄、もう1枚はわたしのためのものでした。わたしたちのドレスやシャツから切り取った小さな端切れが使われていました。しかし、母はそのキルトと裏布を縫い合わせ、ステッチを施して仕上げる前に亡くなってしまいました。

わたしが19歳になったときに、姉は兄とわたしのために問題のキルトを完成させる時が来たと感じ、ワードの扶助協会にキルトの作成を依頼しました。扶助協会の姉妹たちはキルトを完成させるために複雑なステッチを施しながら縫い合わせていきました。彼女たちは自分たちのしていることが結果的に母をどれほど喜ばせることになるか知りませんでした。

クリスマスの日、キルトを受け取ったわたしは、その贈り物がすっかり気に入りました。しかし、その贈り物が将来自分にとってどれほど大きな意味を持つことになるか理解していませんでした。

さらに年月が流れ、わたしは結婚し、自分の家族を持つようになりました。キルトが傷んだり、擦り切れたりしないように、ビニール袋に包んでいつも引き出しにしまっていました。ある日、そのキルトを取り出し、慈しむような思いで見入っていると、まだ年少の息子の一人が部屋に入って来て、そのキルトをどこで手に入れたのかと尋ねました。わたしはブラウンおばあちゃんが亡くなる前にお母さんのためにこのキルトを作ってくれたのよと説明しました。

「ブラウンおばあちゃんって、だあれ」と幼い息子は尋ねました。

自分にとって大切な存在である母のことを子どもたちがまったく知らないという事実にはやるせない気持ちになりました。母

がその手で孫たちを抱き、あの優しく穏やかな声で彼らへの愛を伝えられないのはほんとうにつらいことでした。わたしは息子に、わたしのお母さんであるブラウンおばあちゃんは天国に住んでいてあなたを愛している特別な人なのよと、さらに説明しました。

「お母さんはどうしてそのキルトを持っているの」と息子は尋ねました。

そのとき突然ある考えが頭に浮かびました。キルトを持っている理由がはっきりと分かったのです。わたしはキルトを広げ、そのキルトで息子の小さな体を包みました。「このキルトがあるから、たとえ天国にいても、ブラウンおばあちゃんはあなたを抱っこできるのよ」とわたしは答えました。

息子が満面に笑みを浮かべたとき、これがわたしにできる最良の答えだということが分かりました。

それ以来、このキルトは以前よりずっと頻繁に引き出しの中から取り出して使われるようになりました。家族のだれかが傷ついたり、寂しい思いをしたり、特別な愛を必要としているときに、このキルトは大きな慰めの源となりました。わたしはこのキルトに触れるのが大好きです。母の手もこのキルトに触れたことを知っているからです。

多くの年月が流れました。そして今、わたしはキルトをきちんと作ることができます。姉たちと一緒にキルト枠を囲んで何時間も母について話します。わたしがいちばん年下なので、姉たちはわたしが母についてもっとよく知ることができるように思い出話をしてくれます。ただ、たとえどれほどたくさん話を聞いたとしても、19歳になったときのクリスマスにもらったこのキルトほど、子どもたちとわたしの心を母に向けてくれるものはありません。

ボニー・ダニエルソンは、アリゾナ州

チャンドラー・アルマステーク、ランチヨ・デル・マー・パークワードの会員です。

クリスマスの真の精神

フリヤ・マリア・コルテス・デ・ベルソ

クリスマスの数日前、わたしは幾つかの用事があってブエノスアイレスの繁華街へ出かけました。だれもがそうするように、わたしも立ち止まってはあちこちに飾られたクリスマスの装飾品に目をやりました。「我が家にもクリスマス用のこんな装飾品があったらなあ」とわたしは思いました。

帰宅の途中で、乗っていたバスがある小さな広場に止まりました。ベンチにはきれいな洋服と靴を身に着けた身だしなみのいい若い男性が座っていました。この若い男性は、ほほえみを浮かべながら、髪を長く伸ばしひげを生やした年輩の男性と話をしていました。どちらかという聞き役に徹しているようでした。その老人の衣服は、汚れ、破れていました。また靴も履いていませんでした。ベンチを住まいとしているようでした。

わたしは、この二人の男性の間に、外見、年齢、そして生き方といった点で、はっきりした違いがあると思いました。そして、そのような二人の男性がともに話し合っている姿を見てほんとうに幸せな気持ちになりました。年輩の男性に積もる話があり、心から会話を楽しんでいる様子だったのでなおさらでした。その瞬間です、わたしはクリスマスがやって来たと感じました。キラキラと輝くライトも、装飾品も、リースも、クリスマスツリーもありません。しかし、自分の時間を贈り物として提供し、敬意をもって相手の話に耳を傾ける人の姿があったのです。さげすむ気持ちも、偏見も、利己

心も、差別も、尊大な態度もありません。

そのとき初めてわたしは1年を通してこのような愛の贈り物ができるといふことに気づきました。小さな希望のともじびを、それを必要としている人々のために照らすことができるのです。

わたしはクリスマスの準備にかまけてクリスマスの真の精神を忘れるなどということを決してしないようにしようと決心しました。

フリヤ・マリア・コルテス・デ・ペルソはアルゼンチン・ラプラタ・ピラエルピラステーク、ピラエルピラワードの会員です。

エクアドルの ホワイトクリスマス

カール・グロッセン

新米の専任宣教師だったわたしは、自分の任地であったエクアドルのグアヤキルで迎えるクリスマスがどのようなものになるか気になっていました。

故郷での慣れ親しんだ雪の降るホワイトクリスマスが望めないのは分かっていました。七面鳥料理、贈り物、ライト、キャロリングなどといったほかの考えが頭をよぎり、おなじみのクリスマスの伝統が恋しくなり始めました。

同僚とわたしは、クリスマスの季節をより意義深いものとするために、イエス・キリストの回復された福音を一刻も早く伝えなければならないと改めて痛感し、伝道に対する責任を今までよりもひしひしと感じていました。

12月のある日のこと、トレスさんのつましい家に立ち寄ったわたしたちは、温かいもてなしを受けました。彼

は真理を求めて8年間祈り、待ち続けたと話してくれました。この2か月間、同僚とわたしは彼の家の前を毎日のように通り過ぎていたのですが、立ち寄ることはありませんでした。トレスさんはこう言いました。「わたしはいつも二人を呼び止めて、あなたたちの教会について尋ねたいと思っていました。しかし、二人とも歩くのがとても速かったので、忙しすぎて、わたしの相手などしてられないだろうと思ったのです。」祈りはこたえられました。

トレス家族のバプテスマで、わたしのクリスマスは完全なものとなりました。同僚はわたしの方を向き、こうさざやきました。「結局のところ、ホワイトクリスマスみたいになったね。」

わたしたちは心からの喜びをもってトレスさんとその家族を教え始めました。

クリスマスが近づいたある日、4度目の訪問をすることになったわたしたちは、トレス家の人々に会うのを心待ちにしながらそっと家に近づきました。ドアをノックする前に、窓越しに目にした光景にわたしたちは深い感動を覚えました。

愛にあふれる目、ばら色の頬、薄明かりのともる部屋の中で輝く穏やかな顔。トレス家の人々からはまるで美し



さがにじみ出ているようです。部屋の隅のテーブルにはツリーが置かれ、そのツリーの周りには馬屋の小さな家族に起こったキリスト降誕の出来事を物語る小さな人形が飾られています。母親はわたしたちがプレゼントした本、『福音の原則』を読み、その母親の肩には二人の幼い少女がまわりついています。8歳になるいちばん年上の子どもビクトルは、木琴で「聖し、この夜」を演奏する父親の姿に見入っています。

ビクトルはわたしたちに気づき、走って来てあいさつをしました。わたしたちも一緒にスペイン語で「聖し、この夜」を歌いました。それが終わると、今度は英語で歌ってほしいと頼まれました。それから全員で一緒にもう一度スペイン語で歌いました。

トレス姉妹は、宣教師が福音を教えてくれるまでは、クリスマスを祝う気にならなかったと言いました。しかし、今では、過去3年間戸棚の中でほこりをかぶっていたキリストの絵、クリスマスの音楽、キリスト降誕場面の置き物を取り出され、日の目を見えています。わたしたちが福音のメッセージを伝えたとき、真のクリスマス精神がよみがえったのです。主の僕として、イエスの名によって証したことで、この家族のクリスマスにイエス・キリストを呼び戻す仲立ちとなることができたのです。

12月の第3週、トレス兄弟と姉妹、そしてビクトルの3人がそろって白い衣装を身にまとい、バプテスマの水をくぐり、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となったときに、わたしのクリスマスは完全なものとなりました。同僚はわたしの方を向き、こうささやきました。「結局のところ、ホワイトクリスマスみたいになったね。」あの

クリスマス以上に意義深いクリスマスは望みようがありませんでした。

カール・グロッセンはユタ州サンディ・クレセントパークステーク、クレセントパーク第3ワードの会員です。

父からもらった贈り物

ルース・M・アンダーソン

わたしはもうひ孫ができるほど年を取ってしまいましたが、幼かったころのクリスマスの経験を決して忘れません。

わたしは14人きょうだいで、家族は農業の町に住んでいました。自分では意識していませんでしたが、この世的な持ち物という点からすれば非常に貧しい家族でした。しかし、わたしたちよりもっと貧しい家族がいました。母親はすでに亡くなっていて、父親は家から遠く離れた所で働いていました。年長の子どもたちが年少の子どもたちの世話を任せられていました。

わたしたちがクリスマスの贈り物を開けると、父はわたしたちにこの母親のいない家族について、またこの家族の子どもたちが贈り物をもらえないことになるかもしれない事情について話してくれました。父はこの家族のために食べ物やお菓子と一緒にそれぞれ自分たちのもらった新しい贈り物の中から一つ選んで箱の中に入れるよう提案しました。

わたしはプレゼントを3つももらいました。人形とネックレスと洋服でした。わたしにとってそれはどれほど難しい選択だったことでしょうか。洋服は必需品でした。それにわたしは人形が絶対に欲しかったのです。ネックレスもキラキラしてほんとうにきれいでした。しばらくして、わたしはしぶしぶネックレスを箱の中に入れました。

クリスマスの夜、暗闇の中で父はわたしたちのコートのボタンを留め、馬の引くそりに全員を乗せました。わたしたちは、この家族の戸口の階段にだれからのプレゼントか分からないようにこっそりその箱を置いて立ち去りました。

次の日曜日、わたしは自分と同じ年ごろの女の子の首にあのネックレスがかかっているのを目にしました。その女の子は、クリスマスの夜、サンタさんが箱いっぱいの贈り物を置いていてくれたと興奮気味に話してくれました。もちろん、両親は前もってわたしたちに秘密を守るよう約束させていました。また、何かを差し出すときにいちばん肝心なこと、それは贈り主がだれか分からないようにすることだと、父はわたしたちに言っていました。しかし、正直言って、かつては自分の持ち物だったネックレスが別の人の首にかかっているのを見るのはあまり気持ちのいいものではありませんでした。

当時のわたしには理解しづらい教訓でしたが、現在では、この経験がわたしの人生に与えた大きな衝撃の意味を理解しています。父はわたしに贈り物の一つをあきらめるように求めているのだと子どものころには思っていました。しかし、実は、生涯で最も価値ある贈り物をわたしにプレゼントしようとしていたのだということを後になって理解しました。父はわたしをどれほど愛していたことでしょうか。だからこそ、人を愛することの方が、物を所有することよりもはるかに大切なのだと教えようとしたのです。父の愛の模範は、御自分の独り子というあらゆる贈り物のうち最もすばらしい贈り物を差し出された天の御父の愛を理解するうえで助けとなりました。

ルース・M・アンダーソンは、ユタ州

ノースローガン・グリーンキャニオンステーク、ノースローガン第3ワードの会員です。

光をもたらしてくれた姉妹

ムリエル・ロビンソン

何年も前のこと、夫のケンがブリガム・ヤング大学に通学できるようにと、ユタ州のプロボに引っ越しました。引っ越しの前に、ケンは何の下見をし、トレーラーハウスを購入し、引っ越ししたときに使えるよう水道やガス、電気の手配をしました。

プロボに到着したのは、12月の寒い夜のことでした。わたしたちの持ち物はすべて、レンタルトラックに詰め込んでありました。夫とわたしは長旅で疲れ、気持ちも張りつめていました。妊娠6か月だったわたしにとって、掃除や荷造りをした挙げ句の移動は体にこたえました。1歳3か月の娘シャーナも疲れて泣いていました。

トレーラーハウスのドアを開けると、中からヒューッと吹き出す冷たい風に迎えられました。電気と水道は使えるようになっていましたが、どういうわけかガスは使えませんでした。疲れ果てて何もする気になれず、ただ体を暖めるために床にマットを敷き、電気毛布のスイッチを入れただけでした。娘を真ん中にして川の字になって寝ようとしたのですが、ほとんど一晩中娘は泣き続けました。朝になってもわたしたちは床に就いたときとほとんど同じく

らい疲れていました。

トラックから荷物を降ろした後で、ケンはお出かけに行きました。トラックを返し、ガス会社にガスのことで問い合わせ、電話を取りつけてもらうためです。わたしはシャーナに防寒着を着せました。そして、おもちゃで遊べる

ドアの向こうに立っていた女性は、ひじまで石けんの泡をつけ、ぶるぶると寒さに震えていました。その女性は「支部の扶助協会会長をしています」と自己紹介し、御霊に導かれてやって来たと言いました。



よう小児用の食事いすに座らせ、わたしは箱から荷物を取り出す作業を始めました。

電気フライパンを箱から出したときに、わたしはそのフライパンを使って食器棚の汚れを洗い流すためのお湯を沸かすことにしました。台所の水道栓をひねると、蛇口が外れて、水が空中に噴き出しました。流しの下水道バルブを閉めようとしたのですが、バルブを回すことができません。わたしは一心不乱に、家に取りつけてあるはずの水道停止バルブを探しました。しかし、そのバルブを見つけたころには台所も居間も水浸しになっていました。

必死になって水の中から箱を運び出そうとしたときに、事態を察知したシャーナが大声で泣きだしました。片手でシャーナを抱きかかえながら、わたしは続けてもう一方の手で箱を持ち上げようとした。

その瞬間、わたしは予定よりも早い陣痛を感じ始めたのです。そうすると、わたしはほんとうにパニック状態に陥りました。引っ越したばかりで近所にはだれも知り合いがいませんでしたし、電話をかけて助けを求めようにも電話がありません。絶望的な状態の中で、わたしは祈りました。「天の父なる神様、どうかお助けください。」

何分かしてドアをノックする音がしたのをわたしは決して忘れないでしょう。ドアの向こうに立っていた女性は、ひじまで石けんの泡をつけ、ぶるぶると寒さに震えていました。その女性は「アマリア・バン・タッセルと申します。支部の扶助協会会長をしています」と自己紹介し、御霊に導かれてやって来たと言いました。

後で分かったことですが、アマリアは流しに立って皿を洗っていたときに、最近引っ越して来たばかりの家族

の様子を見るようにという御霊の導きを受けました。緊急を要すると感じた姉妹は、いちばん年上の娘にほかの子どもたちの世話を頼み、ぬれた手をぬぐいコートで羽織る暇も惜しんで、わたしの家まで走って来たのです。

アマリアはわたしを横にならせ、シャーナをあやし、できる限りの掃除をし、わたしたち家族を夕食に招待してくれました。アマリアは、12月のあの暗い日に光と平安と慰めをもたらしてくれたのです。体を休めたので予定より早く来た陣痛も治まりました。ケンが流しを修理し、ガス会社の男性がガスをつけ、携帯用の電気ヒーターがびしょびしょになったカーペットを乾かしてくれました。

あの日わたしの祈りにこたえてくださった天の御父に、また、即座に聖霊の導きに従って行動した、愛に満ちた扶助協会の会長にいつも感謝しています。

ムリエル・ロビンソンは、ユタ州オーレム、サンセットハイツステーキ、サンセットハイツ第3ワードの会員です。

クリスマスの 小さな奇跡

匿名

1996年のクリスマスときに、わたしはスペイン南部の伝道部で伝道していました。わたしの同僚だったノエル姉妹*はやる気に満ちあふれた人で、彼女にはすべての人を愛する賜物がありました。彼女の顔にイエス・キリストの愛の面影を感じることもよくありました。

ノエル姉妹とわたしは小さなアンダルシーアの町で精いっぱい伝道していました。この町の会員たちはわたしたちを愛し、宣教師と一緒にいるのが大

好きなようでした。特別な季節を迎え、町中でもワードの兄弟姉妹たちからもクリスマスの御霊を感じる事ができました。ノエル姉妹もわたしも、すでに家族や、友人、またホームワードから小さなクリスマスプレゼントをもらっていましたので、お菓子が山ほどありました。

わたしたちの知っているほとんどすべての人々が幸福そうに見えました。ただ、フェルナンデス家族は別でした。父親は失業中で、子どもたちにプレゼントを買ってあげるお金がありませんでした。この家族の状況を知った同僚は、わたしたち二人で何とかして彼らを助ける必要があると感じました。わたしたちはどうやって助けることができるか二人で話し始めました。

ワードのある会員にも助けをもらって、わたしたちは家族から送られたお菓子を集めました。また自分たちに送られたお金で、子どもたちにおもちゃを買いました。

フェルナンデス家族は驚くと同時に大喜びしました。しかし小さな奇跡はそこで終わりませんでした。この小さな奉仕の行いによって、同僚とわたしの心の中にすべての会員に対する愛の思いがふくらむという祝福まで与えられました。

同僚のおかげで、わたしは受けるよりも与える方が幸いであるということ学びました。何かを自分よりももっと必要としている家族にプレゼントすることで大きな喜びを感じる事ができました。わたしはノエル姉妹にこれからもずっと感謝し続けることでしよう。人々に救い主の愛を伝えるならば、毎日がクリスマスになるということ彼女から学んだからです。□

*名前は変更しています。

ささやかな 贈り物



ジョシュア・ドムー 絵/ティーン・マーシュ

家を離れて最初のクリスマスでした。ヒーマイヤー長老、ブライト長老、ケホー長老、シュルツ長老、ウェストオーバー長老とわたしは、クリスマスイブを祝うために一つのアパートに集まっていた。同じ地区で働く宣教師と一緒にその晩を過ごせば、家を離れている寂しさを紛らすことができるかもしれないと思ったからです。

午後5時半ごろでしたが、皆少し意気消沈していました。最近、求道者と約束を作ったり、教える人を見つけたりするのが困難な状況でした。みんな「クリスマスが終わったら来てください」と言うのです。

6人で少し話した後、シュルツ長老が、求道者や何人かの会員の家に行って、キャロリングをしようと提案しました。わたしたちは皆その提案に賛成し、短いプログラムを計画しました。まず賛美歌を2曲歌い、その後に霊的な話を入れることにしました。それから賛美歌をもう1曲歌い、祈りで終わります。プログラムは全体で20分くらいのものですが、皆その内容に満足していました。

アパートを出る前にひざまずいて祈りました。そして、アメリカのイリノイ州シカゴ南部の街に、寒い夜の中出

かけて行きました。

最初に訪問した家は、ある会員のアパートでした。その会員の娘さんと二人のお孫さんは、求道者として教会について学んでいたのです。モルモンタバナクル合唱団の足もとにも及びませんでした。長老6人にしてはそれなりにうまく歌えました。その家族はプログラムが終わると、今までで最高の「贈り物」だったと言ってくれました。

わたしたちは間もなく、また別の家族にプログラムを披露しました。一軒一軒訪問するごとに、わたしたちの意欲と喜びはふくらんでいきました。毎回同じことを言われました。「今までもらった中で最高の贈り物です。クリスマスの精神をととも感じました。」

その夜、わたしはクリスマスのほんとうの意味をよく理解することができました。人に分かち合い、奉仕することこそ、イエス・キリストの使命の真髄なのです。そして、人や救い主に仕えようと夢中になっていたとき、故郷はそれほど遠く離れていない気がしました。□

ジョシュア・ドムーは南ソルトレークステーク、ワンダミアワードの会員です。

神殿の祝福を享受する

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

イザヤ書第2章2節から3節——「終りの日に次のことが起る。主の家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立ち、もろもろの峰よりも高くそびえ、すべて国はこれに流れてき、多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登〔ろう。〕……彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道に歩もう』と。」

十二使徒定員会 デビッド・B・ヘイト——「ふさわしい状態で定期的に神殿に参入してください。そうすれば、この世を去った人々に祝福をもたらすだけでなく、約束された個人に与えられる啓示を余すところなく受けることができます。そしてその啓示は、力と知識、光、美、天よりの真理をもって皆さんの生涯を祝福し、皆さんと皆さんの子孫を永遠の命へと導いてくれるでしょう。カートランド神殿の奉獻の祈りに示された次の祝福を望まない人がいるでしょうか。預言者ジョセフ・スミスはこう祈りました。『聖なる御父よ、何とぞ、あなたの僕たちがこの宮からあなたの力を帯びて出て行けますように。あなたの御名が彼らのうえにあり、あなたの栄光が彼らの周りにあり、あなたの天使たちが彼らに対する務めを果たしますように。』（教義と

聖約109：22)

神殿から帰ったら、神殿で味わった気持ちを家庭にいる子どもたちや愛する人々に話してください。神聖な儀式の内容についてではなく、そこで味わった愛と力について話すのです。

……皆さんが神殿での経験について、繰り返し肯定的な話をしていくなれば、子どもたちの心と同じ祝福を受けたいという気持ちをはぐくむことができるでしょう。同時に、子どもたちは、神殿の祝福を受ける資格を失わせる誘惑を何としても避けようとするでしょう。』（主の家に来たれ『聖徒の道』1992年7月号、18参照）

大管長 ハワード・W・ハンター（1907-1995年）——「主はわたしたちに神殿に心を向ける民となるよう望んでおられます。前に述べたことを再度申し上げます。神殿が近くにないために、すぐにあるいは頻繁に参入できないとしても、すべての成人会員が有

効な神殿推薦状の発行を受けるふさわしさを身に付け、また推薦状を所持するならば、主はお喜びになるでしょう。神殿推薦状を受けるにふさわしくするためには、すべき事柄としてはいけない事柄がありますが、それらの条件は個人としての、また家族としての幸福に必ず結びつくでしょう。』（「神殿に心を向ける民」『聖徒の道』1995年5月号、6参照）

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー——「神殿に参入するすべての男女は、参入したときよりもさらに善い人となって、神殿の建物から出て来ます。それは、わたしたちすべてに起こる、驚くべきことです。……皆さんには、問題や気がかり、心配事がありますか。心に平安を求めていますか。主と親しく交わり、主の御心を静かに考える機会を必要としていませんか。だとしたら、主の宮に入り、そこで主の御霊を感じ、主と交わってください。そうすれば、ほかのどこでも見いだせないような平安が得られることでしょう。』（ステーキ大会、イギリス、ウォンズワース、1995年8月27日）

■神殿の儀式と聖約は、どのような形でわたしたちの生活に影響を与えてくれるでしょうか。

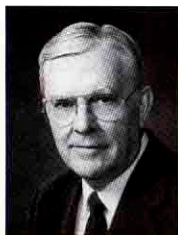
■どのようにすれば、家族やほかの人々に神殿について教え、彼らが神殿に参入するにふさわしく生活したいと望むようにできるでしょうか。

■クリスマスの祝い方は、神殿の祝福に関する知識によって、どのようにより有意義なものとなるでしょうか。□



義にかなった 女性たち

わたしたちはかつてないほど、信仰と徳とビジョンと慈愛を持ち、主の声を聞いてそれにこたえることのできる女性を必要としています。



十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード

これからお話しすることはわたしが非常に身近に感じているテーマです。バラード姉妹と結婚して50年になります。わたしの人生で最も大いなる日は、バーバラ・ポーエンと出会った日です。わたしが成し遂げた最大の功績は、彼女をわたしと結婚する気にさせたことです。ソルトレーク神殿で結婚したその日はわたしにとって最も大切な日となりました。わたしたちは2人の息子と5人の娘に恵まれました。たぶん、5人の娘の父親であり、現在22人の孫娘の祖父であることによって、わたしは女性というテーマについて深い理解を持つようになったのだと思います。

未来に待ち受けている日々を思いをはせてみると、このメッセージは男性にとっても女性にとっても大切なものであるとわたしは信じています。ですから、男性の皆さんに次の言葉を祈りの気持ちで深く考えていただきたいのです。「皆さんの人生は女性たち、つまり妻、娘、そして皆さんが教会でともに働き奉仕する機会に恵まれた姉妹たちから少なからず影響を受けています。」

まず、教会本部に寄せられた1通の手紙を引用したいと思います。ある女性が次のように書いてきました。

「わたしはすばらしい夫と子どもたちに恵まれており、

彼らを心から愛しています。わたしは言葉に言い表せないくらい主と主の教会を愛しています。わたしは教会が真実であることを知っています。自分自身に落胆してはならないことをわきまえてはいるのですが、自分の存在意義について葛藤を抱きながら人生の大半を過ごしてきました。この気持ちをあえて口に出したことはありません。自信に満ちた笑顔を作り、気持ちを隠して毎週教会に通ってきました。何年もの間、妻と母親の役割を果たす以上に自分に何らかの価値があるのだろうか悩んできました。『男性』が存在するのは喜びを得るためですが、女性が存在する目的は見見過ごしにされているのではないかと考えてきました（訳注：ここで手紙の送り主は明らかに2ニーファイ2：25の『人が存在するのは喜びを得るためである』という聖句を意識している。この聖句の『人』に当たる英語は“men”であり、“men”には、『男性』と『人』の意味の両方がある）。わたしは女性として、主にとって大切な存在であることを感じたいと心から願っています。」

この忠実な女性が抱いている不安の根本となっている疑問にお答えできたらと望んでいます。主は女性を尊重しておられるのでしょうか。主にとって女性は大切な存在なののでしょうか。そのとおり。まさしく大切な存在です。

女性の価値

十二使徒定員会のジェームズ・E・タルメージ長老（1862-1933年）は「女性と女性の地位を守る世界最大の擁護者は、イエス・キリストである」と語りました（『キリスト・イエス』463）。わたしもそう思います。御自分がキリストであることを主が最初に告げられた相手は、ヤコブの井戸にいたサマリヤの女でした。主は彼女

主は義にかなった女性
を特に愛しておられます。
神に従う女性らしく生活
し、奉仕する女性を愛して
おられるのです。



に生ける水について教え、そして簡潔に「わたしが、それである」と言われました(ヨハネ4:26)。また、マルタにこう宣言されました。「わたしはよみがえりであり、命である。……生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」(ヨハネ11:25-26)

その後、救い主は十字架につけられて、最大の苦しみを受けられました。そのただ中であって、主はある人に心を向けられました。御自分の母親です。その恐ろしく、しかし栄えある瞬間に、主は愛する弟子ヨハネに、自身の母親だと思って世話をしよう頼まれたのです(ヨハネ19:26-27参照)。

皆さんも確信していることでしょうか、主は義にかなった女性を特に愛しておられます。つまり忠実であるだけでなく信仰にあふれている女性。自分が何者であり、どこへ行こうとしているかを知っており、その知識ゆえに楽観的で元気な女性。神に従う者らしく生活し、奉仕する女性。主はそのような女性を愛しておられるのです。

男性は神権を与えられるので、主から特別に愛されているのだと言う人がいます。このように考えている人は偉大な幸福の計画を理解していません。前世と現世において男女がそれぞれに持つ特質は、神御自身によって定められました。神は子らの中のだれかについて、その役割と責任の範囲を狭めるような御方ではありません。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長(1876-1972年)が説明したように、「主は息子たちが得ることのできるすべての霊の賜物と祝福を娘たちにもお与えになります。」(Conference Report, 1970年4月, 59) わたしたちは皆、男性も女性も、聖霊の賜物を受け、個人の啓示を受ける権利を与えられています。わたしたちは皆、主の名を受け、キリストの息子、娘となり、神殿の儀式を受けて力を授けられ、完全な福音にあずかり、日の栄えの王国において昇栄を得ることができます。これらの霊的な祝福は、男性にも女性にも、その忠実さと努力に応じて授けられるのです。

地球はなぜ創造されたのでしょうか。基本的な教義から言えば、神の霊の子らが昇栄と永遠の命に至る道を進み続けられるようにするためです。神はモーセに言われました。

「神であるわたしは、自分の形に人を創造した。わたしの独り子の形に人を創造し、男と女に創造した。

神であるわたしは、彼らを祝福して言った。『生めよ、増えよ、地に満ちよ、地を従わせよ。』(モーセ2:27-28)



義にかなった
男女は皆、神の王国を
前進させるために
大切な役割を
持っています。

家族に関して教会が行った宣言は、神がこの戒めを取り消したり、変更したりしておられないことを確認しています。大管長会と十二使徒は、「男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子どもたちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言」しています(「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号, 24)。

女性はこの教義について次のような疑問を抱くことがあります。「女性の価値は専ら妻や母親としての役割だけに限定されるのだろうか」と。答えは簡単明瞭です。「そのようなことはありません。」確かに、女性の役割の中で、子どもたちを義にかなって歩むように育てること以上に、永遠の影響を持つ事柄はありません。しかし、母親であることや結婚して

いることが女性の価値を測る唯一の物差しではありません。一部の女性はこの世において結婚したり、子どもを育てたりする特権を受けません。しかし、ふさわしければ、これらの祝福は後に与えられます。子どもを育てる特権を手に行っている男女は、そのかけがえのない永遠の管理の職について責任を問われます。端的に言えば、社会、教会、そして御父の子らの永遠の行く末に最も意義深い貢献をするという点では、父親や母親の役割を果たすこと以上に優れた働きはありません。それでも、母親や父親であることだけが、主の前で義とされ受け入れられる基準ではありません。義にかなった男女は皆、神の王国を前進させるために大切な役割を持っています。

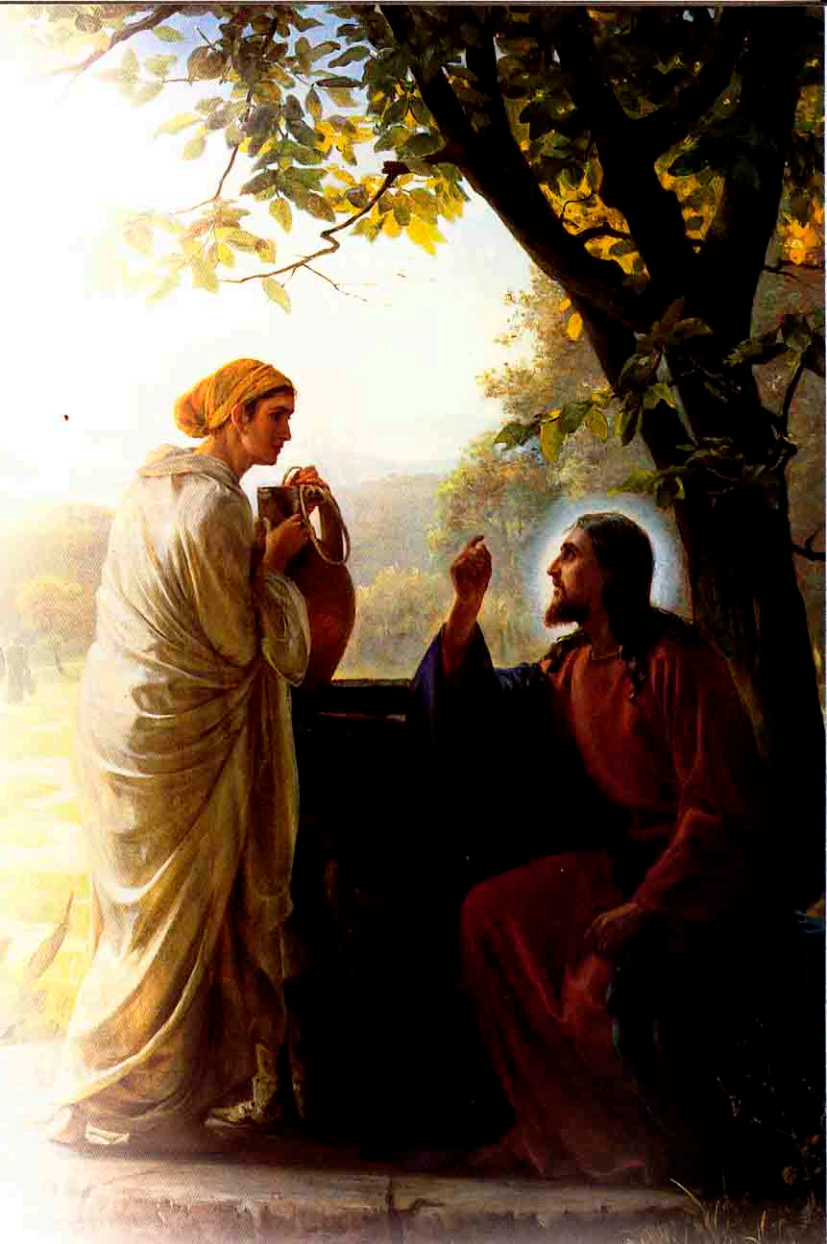
サタンによってゆがめられた考えに対する懸念

わたしは女性というものに対して、一つの思いを抱えています。それは深く、不変の思いです。女性はすべての重要な場面で、特に家族と教会において、きわめて大きな影響を与えていると感じているのです。教会の評議

会制度において女性が果たすべき役割について、わたしは大胆に語ってきました（『評議の力』『聖徒の道』1994年1月号、85-87参照）。女性の靈感あふれる洞察と支援なしに、教会はその使命を果たすことができません。

このような理由から、わたしは教会の一部の若い姉妹たちに見られる現象を憂慮しています。サタンは若い姉妹たちを誘惑し、若い兄弟たちと接するときに、服装、話、行いを不自然で破壊的なものにさせようとしています。悪魔は、性や男女の役割についての考え方、家族と個人の価値に対する姿勢をゆがめる企てを大いに成功させています。女性の価値、役割、貢献、また女性特有の資質について、この世を大いに混乱させている張本人は悪魔です。今日、映画からインターネットに至るあらゆる種類のメディアによって広まっている大衆文化は、セクシーで、大胆で、押しの強い女性を礼賛しています。これらのゆがめられた考えは教会の一部の女性の間に浸透しつつあります。

教会の管理評議会にいるわたしたちが教会の姉妹たちに対してどのような思いを抱き、天の御父が御自分の娘たちをどう考えて、何を期待しておられるかを、ここで明確にできるよう心から願っています。愛する姉妹の皆さん、わたしたちは皆さんを信頼しています。皆さんが、善良で強いこと、高潔さと勇敢さという性質を持っていること、思いやり、勇気、強さ、立ち直る力を併せ持っていることをよく知っていますし、そのような皆さんを頼みにしています。また、皆さんには神の娘として果たすべき使命があると信じています。わたしたちは皆さんが家族を一つにし、しばしばワードという家族を結束させる、精神的な（時には霊的な）接着剤であることを承知しています。皆さんの信仰と忠実さ、自分よりも他人の幸福を優先させる生来の気性、そして霊的な力と粘り強さがなければ、教会はなすべきことをとうてい果たし得ないことを承知しています。神の計画によれば、皆さんは女王となって、この世でも永遠にわたっても女性が受けることのできる最高の祝福を受けるはずです。これに対してサタンは、女性に関するこの世のきらびやかな偽りの魅力で、皆さんの心を奪い、皆さんが何を行うためにこの世に来たのか、どのような人物になるためにこの世に来たのかを見失わせようとたくらんでいます。忘れないでください。サタンはわたしたちが「自分のように惨めになることを」願っているのです（2ニーファイ2：27）。天の御父は皆さんに永遠の可能性を約束して



御自分がキリストであることを主が最初に告げられた相手は、ヤコブの井戸にいたサマリヤの女でした。主は彼女に生ける水について教え、そして簡潔に「わたしが、それである」と言われました。

くださいました。その約束を台なしにするようなことをして、皆さんの尊い存在意義を失うことのないようにしてください。

若い兄弟の皆さん、わたしが女性についてばかり話してきたからといって、あまりくつろいでいる場合にはありません。皆さんには、わたしが今まで話してきたすべてのことについて、大切な役割があるのです。若い姉妹たちがこの世における永遠の使命から目をそらす原因は、時々若い兄弟たちにあるのです。皆さんの周りにいる女性に知らせてください。皆さんが彼女たちに望んでいるのは、神に従う女性となることであって、この世の女性になることではないのだと。主は皆さんに、主の



姉妹たちは主の業において常に重要であり、その中樞を成してきました。子なるキリストを産んだ「尊い、選ばれた器」であるマリヤについて考えてください。

娘たちを守り、保護するよう望んでおられます。若い姉妹たちから徳と清さを奪うようなことがあれば、皆さんは大きな悲しみを味わうことでしょう。

主の業において大切な役割を果たす女性

姉妹たちが主の業において常に重要であり、その中樞を成してきたことを若い兄弟姉妹の皆さんが理解するよう、わたしは心から願い、祈っています。この世の基が据えられる以前から、忠実な女性たちは真理と義の大義のために雄々しく働いてきました。ジョセフ・F・スミス大管長（1838-1918年）は、死者の贖いに関する示現の中で、父祖アダムとそのほかの預言者たちだけでなく、「わたしたちの栄光ある母エバも、様々な時代に生きてまことの生ける神を礼拝した多くの忠実な娘たちとともにい〔る〕」のを目にしました（教義と聖約138：39）。

エバの果たした比類ない役割について考えてください。彼女の行動によって御父の大いなる計画が動き始めたのです。子なるキリストを産んだ「尊い、選ばれた器」であるマリヤはどうか（アルマ7：10）。これらの崇高な女性たちが果たした役割について、疑いを差し挟む人はいないでしょう。

わたしたちの神権時代にもヒロインはいます。あらゆる大陸において、あらゆる階層の数知れない女性たちがキリストの大義のために劇的な貢献をしてきました。殉教した預言者ジョセフとハイラムの母であり、ジョセフ・F・スミスの祖母であったルーシー・マック・スミスについて考えてください。彼女は、精神的にも霊的にもこの上なく過酷な状況をはねのけ、義を貫き通しました。預言者である息子たちが、彼女の姿から影響を受けたことは確実です。そのような母親の影響のおかげで、彼らは予任された定めを果たすべく、その道をしっかりと歩んだのです。

ここで皆さんはこう考えるかもしれません。「けれども、わたしはどうなのでしょう。そして、わたしの貢献はどうか。わたしはエバでもマリヤでもなく、ルーシー・マック・スミスほどの人間でもないのです。平凡なごく普通の人生を過ごしてきたにすぎません。わたしのような者が、主にとって意味のある貢献をしてきたというのでしょうか。主はほんとうにわたしを必要としておられるのでしょうか。」忘れないでください。義にかなってはいけるけれどもあまり目立たない人たちもまた、尊ばれるのです。モルモン書の預言者の言葉を借り

れば、彼らも「劣らず民のためによく働いた」のです（アルマ48：19）。

スペンサー・W・キンボール大管長（1895-1985年）は、この質問に対して次のように答えました。「義にかなった男女は、彼らの生活に触れるあらゆる人に祝福をもたらします。

……この地上に来る前のことを考えてみてください。忠実な男性が神権に関するある種の責任に予任されていたのと同じように、忠実な女性にも何らかの責任が課せられていました。それが何であるのか今すぐには思い出せなくても……皆さんには……前世で与えられた務めを果たす責任があるのです。」（*My Beloved Sisters* [1979年], 37）

主と聖約を交わした教会のすべての姉妹は、人々の救いの手助けをなし、世の女性を導き、シオンの家庭を強め、神の王国を築くようにとの神聖な命令を神から受けています。中央扶助協会の第2代会長を務めたエライザ・R・スノー姉妹（1804-1887年）はこのように語りました。「この教会の姉妹は皆、義の説教者でなければなりません。……なぜならばわたしたちには地上のだれよりも偉大で崇高な特権が与えられているからです。」（“Great Indignation Meeting,” *Deseret Evening News*, 1870年1月15日付, 2）

真理と義を擁護する姉妹は皆、悪の勢力を弱めています。家族を強め、守る姉妹は皆、神の業を行っています。神に従う女性として生活する姉妹は皆、人々が従うべき旗印となり、義の影響という種をまいているのです。そしてその種は、数十年後に刈り取られることでしょう。神聖な聖約を交わして守る姉妹は皆、神の手に使われる者となるのです。

救い主の模範

わたしはこれまで、父なる神とその長子である独り子との間で交わされた会話に関心を持ってきました。御子は、前世で交わした約束を守るという意味における究極の模範です。前世で神は、だれを地上に遣わして、すべての人類を救い、強め、祝福を与えるために道を備えさせようかと言われました。そのとき、「わたしがここに

います。わたしをお遣わしてください」と率直に語られた御方こそイエス・キリストです（アブラハム3：27）。

救い主が進み出て、御自分の神聖な責任を果たされたように、わたしたちにも果たすべきチャレンジと責任が

あります。もし皆さんが主に対して意義のあることができるだろうかと考えているのであれば、以下のような皆さんの決意がどのような影響を及ぼすか想像してみてください。

「お父様、もし義にかなって子どもたちを育てる女性が必要でしたら、わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。」

「下品なものから一切離れ、慎み深い衣服を身に着け、威厳をもって話し、戒めを守ることがどれほど喜ばしいことかを世に示す女性が必要でしたら、わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。」

「人の心を引こうとする世の誘惑を退けて、ひたすら永遠の事柄に目を向ける女性が必要でしたら、わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。」

「常に忠実な女性が必要でしたら、わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。」

今から主が再びおいでになる日まで、あらゆる家族、あらゆるワード、あらゆる社会、あらゆる国において、積極的に義を行い、言葉と行いによって「わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください」という姿勢を示す女性を主は必要としておられます。

そこでわたしはこう尋ねたいのです。「皆さんはこのような女性の一人になりたいと思っているのでしょうか。また神権者である男性の皆さんは、同じ呼びかけにこたえたいと思っているのでしょうか。」

皆さんのほとんどはそう願っていることをわたしは知っています。しかし、どのような方法で行えばよいのでしょうか。この世は女性と家族についての偽りのメッセージが満ちあふれています。主にとって女性と家族が、どれほど価値があるかについても、偽りのメッセージが飛び交っています。そのような世にあって、どうすればいつも「わたしがここにいます。わたしをお遣わ



**神に従う女性として
生活する姉妹は皆、
義の影響という種を
まいているのです。
そしてその種は、
数十年後に刈り取られる
ことでしょう。**

してください」と言うことができるでしょうか。

自分の本来あるべき姿にふさわしく生活することをほんとうに願っている人々、サタンの欺きを見破り、必要であればいかなる代価を支払ってでも悔い改めたいと願っている人々、そのような人々に二つの提案があります。第1は、預言者、聖見者、啓示者としてわたしたちが支持している人たちの言葉に耳を傾けて従うことです。第2は、御霊みたまの声、あるいは聖霊の力によって伝えられる主の声を聴くようになることです。

預言者と使徒たちに従う

預言者と使徒たちに耳を傾けて従うことの大切さは幾ら強調しても強調しすぎることはありません。一日中、テレビやラジオに登場する批評家は互いに相反する様々な意見を述べています。宣伝広告は皆さんのお金から賛成票に至るまであらゆるものを得ようと競い合っています。そのような今日の世の中で、皆さんが常に信頼できる、明確で、汚れなく、偏見のない声があります。それが生ける預言者と使徒たちの声です。彼らは、「あなたがたの永遠の幸い」以外のことは考えていません（2ニーファイ2：30）。

考えてみてください。常に信頼できる情報源を持っていることは、どんなに価値があるでしょう。彼らの心にいつもあるのは、皆さんの永遠の利益であって、彼らは靈感に基づいた真理を常に与えてくれるのです。これは驚くべき賜物たまものであり、導きです。

2000年11月にヒンクレー大管長は、全教会に向けたファイヤサイドにおいて若人に語りかけました（「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30-41参照）。ヤングアダルトである皆さんは大管長のメッセージをすでに研究したのでしょうか。そして、何を遠ざけ、どのような行動を変える必要があるか明確にしたのでしょうか。わたしの知っている17歳の少女は、預言者の話を聞く少し前に2組目のピアスをしようと耳に穴を開けたばかりでした。

彼女はファイヤサイドから帰って来ると、2組目のイヤリングを外して、両親に言いました。「ヒンクレー大管長がイヤリングを1組だけにしなさいっておっしゃっ

たから、そうするわ。」

2組のイヤリングをつけるということ自体が、この若い女性の永遠の行く末に重大な影響を及ぼすかどうかについては分かりません。けれども、彼女の、預言者に進んで従う気持ちは、重大な影響を及ぼすでしょう。そして、彼女が今、比較的単純な事柄について預言者に進んで従う気持ちがあるならば、将来もっと重大な問題に直面したときに、預言者の言葉に従うことが、どれほど易しく感じられるようになっていることでしょう。

わたしは皆さんに一つの約束をします。単純な約束ですが、真実です。生ける預言者と使徒たちに耳を傾け、その勧告に従うならば、道を踏み外すことはないでしょう。



神 聖な聖約を
交わして
それを守る姉妹は皆、
神の手に使われる者となるのです。

御霊の声を聴くようになる

もしサタンの策略を退けることを望み、あるいは目の前に突きつけられる複雑難解な選択に関して導きを受けることを望むなら、聖霊によって伝えられる主の声を聴く方法を学んでください。主の声を聞くことができるようになったら、もちろん、その声が告げることを行ってください。

ニーファイは、聖霊が、「神を熱心に求めるすべての人に神が与えられる賜物である」とことと、「熱心に求める人は見いだすであろう」ということをはっきりと教えました（1ニーファイ10：17、19）。愛する兄弟姉妹、驚くべきことに、主にどれだけ近づくかを決めているのは、自分自身なのです。聖霊のささやきをどれほどはっきりと聞き取れるか、どれほど容易に聞き取れるかを決めているのは自分自身なのです。これを決めるのは自分の行いであり、態度であり、選びであり、目にし、身に着け、耳を傾け、読むものであり、どれほど一貫して誠実に御霊を自分の生活に招いているかなのです。

この祝福の影響力についてしばらく考えてみましょう。皆さんは一つの賜物を与えられています。その賜物を働かせ、尊重するならば、人生で出遭うすべての難解な問題に対する答えを受けることができるのです。

若い姉妹たちが現在直面している問題について、わたしにはそのごく一部しか想像できないことでしょう。例えば、今デートしている若い兄弟と結婚すべきかどうか。

学位を取るまで大学を続けるべきかどうか。伝道に出るべきかどうか。どのような職業を選ぶべきだろうか。母親になること以外に心からしたいと思うことがないのに、なぜ仕事に就くためにこんなに努力する必要があるのだろうか。

人生の中で必ず出くわす試練に、どのように立ち向かえばよいのでしょうか。もし子どもに先立たれるという経験をしたら（わたしの二人の子どももそのような経験をしました）、平安と慰めをどこに求めたらよいか知りたいと願わないでしょうか。子どもが福音の道を離れそうになったりしたらどうでしょうか。財政的に苦しい状況に追い込まれたら、どうするべきか、どれほど知りたいと願うでしょうか。ワードヤステークを導く召しを受けるとしたら、どこに洞察と靈感を求めたいと思うで

エライザ・R・スノーは「この教会の姉妹は皆、義の説教者でなければなりません」と語りました。



しょうか。若い兄弟の皆さんもいずれ同じような問題に直面することでしょう。

・人生から切り離せない障害や機会に対して、安全に、また自信をもって立ち向かう方法はだれにとっても一つしかありません。まず、預言者と使徒たちに耳を傾けることです。わたしたちが教える原則を研究してください。次に、これらの原則を主の前に持って行き、それらを自分の生活の中で応用する方法について主に尋ねるのです。皆さんの思いに力を及ぼし、行動をコントロールし、歩みを導いてくださるようお願いしてください。「あなたのすべての行いについて主と相談しなさい。そうすれば、主はあなたのためになる指示を与えてくださる。」（アルマ37：37）聖霊の力と現れによって、主は御心みこころを示してくださるでしょう。

御霊のささやきに耳を傾ける

幾つかの事柄を行うと、御霊のささやきを理解する能力が大いに高められ、結果として神の声を聞く能力が高くなります。

第1は、断食と祈りです。モーサヤの息子たちが息子アルマと再び出会ったとき、彼らは再会を喜び合いました。そして、「[[自分たちが] しばしば祈り、また断食もした」ことによって預言の霊と啓示の霊を与えられ、「そして、教えるときには、神の力と権能をもって教えた」ことを認め合いました（アルマ17：3）。

第2は、聖文に没頭することです。キリストの言葉は「あなたがたがなすべきことをすべて告げる」のです（2ニーファイ32：3）。聖文は個人的な啓示を授かるための水路です。ヤングアダルトの皆さん、皆さんは、わたしの世代が皆さんの年齢だったころよりもはるかに聖文に精通しています。皆さんは聖文を読んで研究するように教えられてきました。わたしはその研究をいっそう熱心に行うよう強く勧めます。そうすれば、聖霊を通して神の声を聞く能力が増し、高められることを約束します。

第3は、主の宮に入るために備えることです。ふさわしい状態で神殿に参入すると、「力を帯びて」神殿を出て行くことができます（教義と聖約109：22）。また主の知識において「成長」するにつれて、「聖霊の全きを受け〔る〕」という約束を受けて神殿を後にすることができます

(教義と聖約109：15)。神殿は個人的な啓示を受ける場所です。もしすでにエンダウメントを受けているのであれば、定期的に神殿に参入してください。まだエンダウメントを受けていないのであれば、参入するために自分を備えてください。なぜならば、神殿の扉の内側には、皆さんを人生の浮き沈みに負けない者にする力があるからです。

第4は、両親や伴侶の助言に耳を傾けることです。彼らには知恵と経験があります。恐れや心配事を彼らに話してください。父親に祝福を求めてください。何らかの理由で父親にその資格がない、あるいはできない場合は、監督かステーク会長のもとを訪れてください。彼らは皆さんを愛しており、皆さんに祝福を授けることを特権であると感ずることでしょう。まだ受けていなければ、祝福師の祝福も受けてください。

第5は、従順と悔い改めです。聖霊にそばにいていただきたいと願う人にはとてもできない事柄が幾つかあります。わいせつな歌詞に耳を傾けること、性的な内容が含まれている映画を見ること、インターネットで（それに類するあらゆる所で）ポルノグラフィックをもてあそぶこと、主の名をみだりに口にすること、慎みのない衣服を身につけること、どのような形であれ純潔の律法を曲げること、真の男らしさ、女らしさを軽んじること。これらの行為のあるところに聖霊がとどまってくださることを期待するのは不可能です。これらを行っている人が、孤独感や落胆を覚え、自分の価値を見失うとしても不思議ではありません。主の御霊なしに生活することを選ばないようにしてください。主の御霊はわたしたちを導き、守り、促し、警告し、平安で満たしてください。もし必要であれば悔い改めて、御霊を伴侶とすることができるようにしてください。

主の声を聞き、その促しにこたえる男女は、主の手に使われる者として非常に貴重な存在となります。あるステーク大会の後に経験したことをわたしは忘れることはないでしょう。わたしは、癌に侵されていた若い姉妹の祝福に加わるよう求められました。その家族は皆、改宗者でした。彼らは御霊のささやきを受けて平安を見いだしていました。祝福を授ける前に、この愛する姉妹はこ

う言いました。「バラード長老、わたしは死を恐れていません。でも家族とここで暮らしたいのです。わたしは天のお父様の御心を受け入れる準備ができています。平安を見だし、お父様がともにおられることを知ることができるよう祝福してください。」御霊が彼女に与えた信仰、洞察、勇気は、何とすばらしいものだったことでしょう。数か月後に、天の御父は彼女を御自分のもとに呼ばれたと、この家族から聞きました。彼女は心安らかに世を去り、家族は平安のうちに暮らしました。彼らが御霊と親しく交わっていたからです。御霊が伝える最もすばらしいメッセージの一つは、主が皆さんにどのような思いを抱いておられるかというメッセージです。そのメッセージから得られる安堵感^{あんど}は、ほかではとうてい得られない方法で力を与えてくれます。

最後に、もう一度、愛する姉妹の皆さんにお話ししたいと思います。皆さんは生まれつき、良い羊飼いの声を聞くための深遠な霊の力を持っています。主の目にあって、あるいは教会の管理評議会の兄弟たちによって皆さんが価値ある存在であることを、二度と疑う必要はありません。わたしたちは皆さんを愛しています。慈しみ、尊敬しています。皆さんの影響力なしに、家族を維持することはできませんし、教会の発展を助け、教会に霊的な活力を与えることはできません。この教会が前世で定められた状態に到達することは、皆さんなしには不可能です。わたしたち男性は、どうしても皆さんのように養い育てることができません。男性のほとんどは、女性の皆さんが受け継いでいる永遠の特質である、感受性（霊的あるいはその他の感受性）を持ち合わせていません。家族と子どもたち、青少年および男性に与えている皆さんの影響は特別なものです。皆さんは生まれながらにして養い育てる力を持っています。これらの並外れた賜物と才能のゆえに、皆さんは、福音を全世界に携えて行き、預言者が勧告している方法で生活すれば喜びがあることを証明するうえで、きわめて大切な役割を担っているのです。

扶助協会の宣言でうたわれているように、わたしたちはかつてないほど、信仰と徳とビジョンと慈愛を持ち、主の声を聞いてそれにこたえることのできる女性を必要



神殿の扉の内側には、
皆さんを人生の
浮き沈みに
負けない者に
する力があるのです。

としています（メアリー・エレン・スムート「シオンの娘よ、喜び歌え」『リアホナ』2000年1月号、110参照）。わたしたちは、主の声を聞いてそれにこたえる女性、あらゆる代価を払っても家族を守り保護する女性を必要としています。男性のようになりたがっている女性、男性のように話し、男性のような衣服を身に着け、一部の男性ドライバーのように車を運転し、男性のように振る舞う女性を必要とはしていません。必要とされているのは、女性であることに喜びを感じ、自分の存在意義、自分の価値、そして自分の永遠の行く末について、御霊による確信を得

家族と子どもたち、青少年および男性に与えている皆さんの影響は特別なものです。皆さんは、生まれながらにして養育する力を持っています。

ている女性です。何にも増して、真理と義を守るために立ち上がり、あらゆる場所で悪を公然と非難し、そして飾らずに、「わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください」と申し出る女性を必要としています。

皆さんが貴重な存在であること、またこの教会は末日聖徒イエス・キリスト教会であることを証します。神の王国は全地に満ちるまで転がり進みます。皆さんは全世界の旗印となり、世の男女に示すのです。女性は、生まれながらにして、善を行い、御霊にかかわることを求める特質を持っているということ。

簡潔に申し上げます。神が教会の女性を祝福されますように。□

2001年3月13日、ブリガム・ヤング大学ディ
ボーションナルにおける講話から。



わたしが受けた証は 真実です

ルーシー・マック・スミス (1775-1856年)

ジョセフから教わる

最初の示現から約4年がたった後、天使モロナイは若いジョセフに数回現れ、金版に記された書物のことを伝え、これから話される業にジョセフを備えました。ルーシー・マック・スミスは、預言者である18歳の息子が、モルモン書と回復の業に関するすばらしい知らせを家族に伝えたときのことを語っています。

夕暮れまでに……わたしたちは皆、席に着きました。そしてジョセフは、神が明らかにしてくださった、すばらしく、栄光に満ちた事柄について話し始めました。……

ジョセフは続けて……自分が行うように任じられた事柄について話し、わたしたちはそれを喜んで受け入れました。……

このとき以来、ジョセフは主から教えを受け続けました。わたしたちは毎晩子どもたちを集めて、ジョセフが主から受けた啓示について話すのを聞きました。わたしたち家族は、地上に生を受けたどんな人よりも変わって見えたかもしれません。父、母、息子、娘たち全員が輪になって座り、今までに聖書を最後まで読み通したこともないような18歳の少年の話に全神経を傾けたのです。ジョセフはほかのどの子どもよりも本を読むことは少なかったのですが、物事を深く考え、よく研究するという点では群を抜いていました。

わたしたちは今では、神が何かを明らかにしようとしているのを確信することができました。それは、わたしたちの心を満たすことができるものであり、また、わたしたちに救いの計画と人類の贖いあがなに関する、さらなる完全な知識を与えてくれるものでした。わたしたちは大いに喜び、この上ないすばらしい一致と幸福感に家中が包まれました。そしてわたしたちの心は平安に満たされたのです。

夕べの話し合いで、ジョセフは時々想像を絶するような楽しい話を聞かせてくれました。この〔アメリカ〕大陸に大昔住んでいた人々、彼らの服装、旅行の方法、乗り物として使った動物、彼らの都市、建物について細部にわたる説明、戦争の方法、彼らの宗教的な礼拝の方法についてまで話してくれました。ジョセフはまるでこれまでの人生を彼らと一緒に過ごしてきたかのように、いとも簡単に話すのです。



ルーシー・マック・スミスは、
預言者ジョセフ・スミスの
母親という特別な見地から、
また回復の業の直接的な
証人という立場から
燃えるような証あかしを得ました。

母親の証

ルーシー・マック・スミスは殺害された二人の息子、ジョセフとハイラムをその目で見たときの衝撃的な経験をつづり、その中でジョセフの預言者としての使命に関する、燃えるような、力強い証あかしを述べています。

〔ジョセフとハイラムの遺体〕が洗われ、埋葬のための衣服が着けられてから、わたしたちは二人に会うことを

許されました。わたしは長い間、しっかりしなければと自分を励まし、あらゆる精力を奮い起こして神に力を与えてくださるよう願って求めています。しかし、あの部屋に入ったとき……わたしにはもう耐えられませんでした。その場にくずおれたわたしは、胸が張り裂ける思いで、主にこう叫びました。「神よ、神よ、なぜこの家族を見捨てられたのですか。」すると、次のように答える声が聞こえてきたのです。「わたしは、彼らが休息を得られるように、わたしのもとに迎え入れた。」……

安らかで、ほほえんでいるような表情を見ていると、二人はあたかもこう言っているようでした。「お母さん、わたしたちのことで涙を流さないでください。わたしたちは愛をもってこの世に勝ちました。人々の霊が救われるように、わたしたちは福音を携えました。わたしたち

の証のゆえに、人々はわたしたちを殺しました。こうしてわたしたちを、彼らの力の及ばない場所へと移したのです。人々の勝利はつかの間ですが、わたしたちは永遠の勝利を手にしたのです。」……

わたしが受けた証は真実です。わたしが語るのはこれだけです。それは永遠に変わることがありません。わたしの証は全能の神の日にも変わることがありません。その日、わたしはジョセフやハイラム、それにわたしが証を述べた人々に、天使たち、完全な者と

された正しい人の霊、天使長、セラピム、ケルビム、そして神々の前で会います。不義な人のつかの間の権威は、主の主、神の神である御方の前におじけづき、無へと帰するでしょう。そして義なる者の高潔な行いは、主のはかりの前で大いなるものとされます。神は人々の心を計られるからです。□

History of Joseph Smith, プレストン・ニブレー編 (1958年), 82-83, 324-328から



じゅうぶん 什分の一を納める

ジェニファー・M・セベリーノ

わたしは、什分の一を納める者に主は祝福を注がれると語った預言者マラキの言葉を信じました（マラキ3：10参照）。信じることに何も問題はありませんでした。しかし、実際に什分の一を納めるのは容易ではなかったのです。

給料日になると、わたしは什分の一を取り分けていました。しかし、給料日が週の半ばに来ることも多く、後でお金が必要になると、取り分けておいた什分の一から「借りて」いました。お金を戻して、日曜日には監督に什分の一を納めようと自分に言い聞かせていたのですが、たいていの場合、お金を戻すことはできませんでした。そこで、借りた分の什分の一を次の給料から納めるように計画しました。お金を戻そうと努力はしましたが、そうすると、給料はほとんど残りません。わたしが自分で収入を得るようになった最初の年はこのように過ぎていきました。

ある日、わたしは什分の一が持つほんとうの意味を知りました。セールスマンが家に来たときのことです。その人は分割払いで電化製品の支払いができると説明したのです。つまり、今品物を受け取り、後で支払うということです。セールスマンの話を聞きながら、「主は分割払いの方法で祝福を下さるだろうか」という問いが頭に浮かびました。

翌日のインスティテュートで、話し合いで用いた実に最初の聖句がその問いに答えてくれました。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」（教義と聖約82：10）

あらゆる戒めは祝福を与えます。しかも、常に完全な形で祝福を与えるのです。しかし、わたしたちは戒めを守らなければなりません。守る計画を立てるだけでは不十分なのです。その晩、わたし

今買って、支払いは後でもよいと説明したセールスマンに会った後で、わたしは主が分割払いの方法で御業を行われるだろうかと自問しました。

は什分の一をいいかげんに納めていたことに対して、主に赦しを祈り求めました。

忠実に什分の一を納めるようになって分かったことがあります。それは、主の祝福を受けて収入の90パーセントで生活する方が、祝福を受けずに収入を全部使っていたときよりも幸せだということです。□

ジェニファー・M・セベリーノ姉妹は、フィリピン・バコロドステーク、バコロド第1ワードの会員です。



御存じでしたか？

記念日

1905年12月23日は、預言者ジョセフ・スミスの生誕100周年に当たります。その日、教会はジョセフの誕生した地であるバーモント州シャロンで記念式典を行いました。スミス家族が住んだシャロンの小さな家は、1905年までにはほとんど跡形もなくなり、残っていたものといえば、暖炉の跡と、朽ちた家の土台だけでした。教会は、炉石が残っていた場所にスミス家族の家



「わたしたち一人一人は、イエスのために部屋があるかどうか決めなければならない宿の主人のようなものです！」——十二使徒定員会ニール・A・マックスウェル（『心に決めなさい』『聖徒の道』1993年1月号、73）

フェリス・ナビダッド

（訳注——スペイン語で「クリスマスおめでとう」）

メキシコ・チワワにあるファレスアカデミーに通うセミナーの生徒たちは、クリスマスの時期に宣教師が福音を広めるのを助ける計画を立てました。350人の生徒一人一人が、きれいにラッピングしたモルモン書を宣教師に渡しました。それはコロニアファレスとコロニアドゥブランの二つのステークに住む求道者へのプレゼントとなりました。



を復元しました。大きな記念碑も建設されました。記念碑を運んで来るのは一苦勞でした。

この記念碑は、バーモントの採石場から切り出したかこう岩で作ったものです。かこう岩から作った柱としては、当時のアメリカで最も背の高いものでした。この記念碑は現在でも高くそびえています。その高さ、38.5フィート（11メートル）は、預言者の生きた年月を象徴しています。つまり1フィートが預言者の人生の1年を表している



のです。

記念碑を奉獻するに当たって、当時の教会の大管長であり預言者ジョセフのおいでもあったジョセフ・F・スミス（1838-1918年）が、次のような祝福を残しました。「皆さんに平安がありますように、また、この地にも、この記念碑にも、また、尊敬の念を抱いて訪れるすべての人々にも、平安がありますように。尊敬の念を抱かずに訪れる人々は、この記念碑によって心が和らぎますように。彼らの目が開き、人間の生命という崇高な問題に、また預言者ジョセフ・スミスが明るみに出した贖い^{あがな}について、まじめに考え始めますように。」（ジョセフ・スミス記念碑除幕式の議事録〔家族・教会歴史部記録保管庫、末日聖徒イエス・キリスト教会〕26）



指導者へのヒント

定員会やクラスで証^{あかし}を述べるのは、聞く人々の生活に祝福をもたらしたり彼らの証を強めたりする良い方法です。同時に、自分の証も強まります。指導者であることは、組織したり委任したりする以上のことを意味します。忠実さと従順さの模範になることも意味しているのです。□

記念碑の写真／ウェルデン・C・アンダーセン。「宿屋に部屋はない」の一部。ロバート・T・バレット画。「最初の示現」テッド・ヘニング画



『リアホナ』 2002年12月号 の活用法

家庭の夕べのためのアイデア

■「神の御子についての証」2ページ——ゴードン・B・シンクレア大管長の救い主についての証を読み、自分の証を述べてください。それから、家族にも証をするように勧めてください。

■「わたしが受けた証は真実です」44ページ——ジョセフ・スミスは1805年12月23日に生まれました。ジョセフの生涯についてのレッスンをしてください。それからルーシー・マック・スミスが述べた、息子の預言者としての召しに関する証を読み、預言者ジョセフ・スミスに対する自分自身の証を述べてください。

■「什分の一を納める」46ページ——教会が什分の一をどのように使っているかを家族に書き出してもらいます。地球とそこにあるすべてのものが主のものであり、主は、なさろうとすれば、ほかの手段を使って教会の財政を賄うこともおできになることを説明してください。什分の一を納めるという主の戒めを守ることにより、わたしたちがどのような恩恵を受けることができるか尋ねてください。

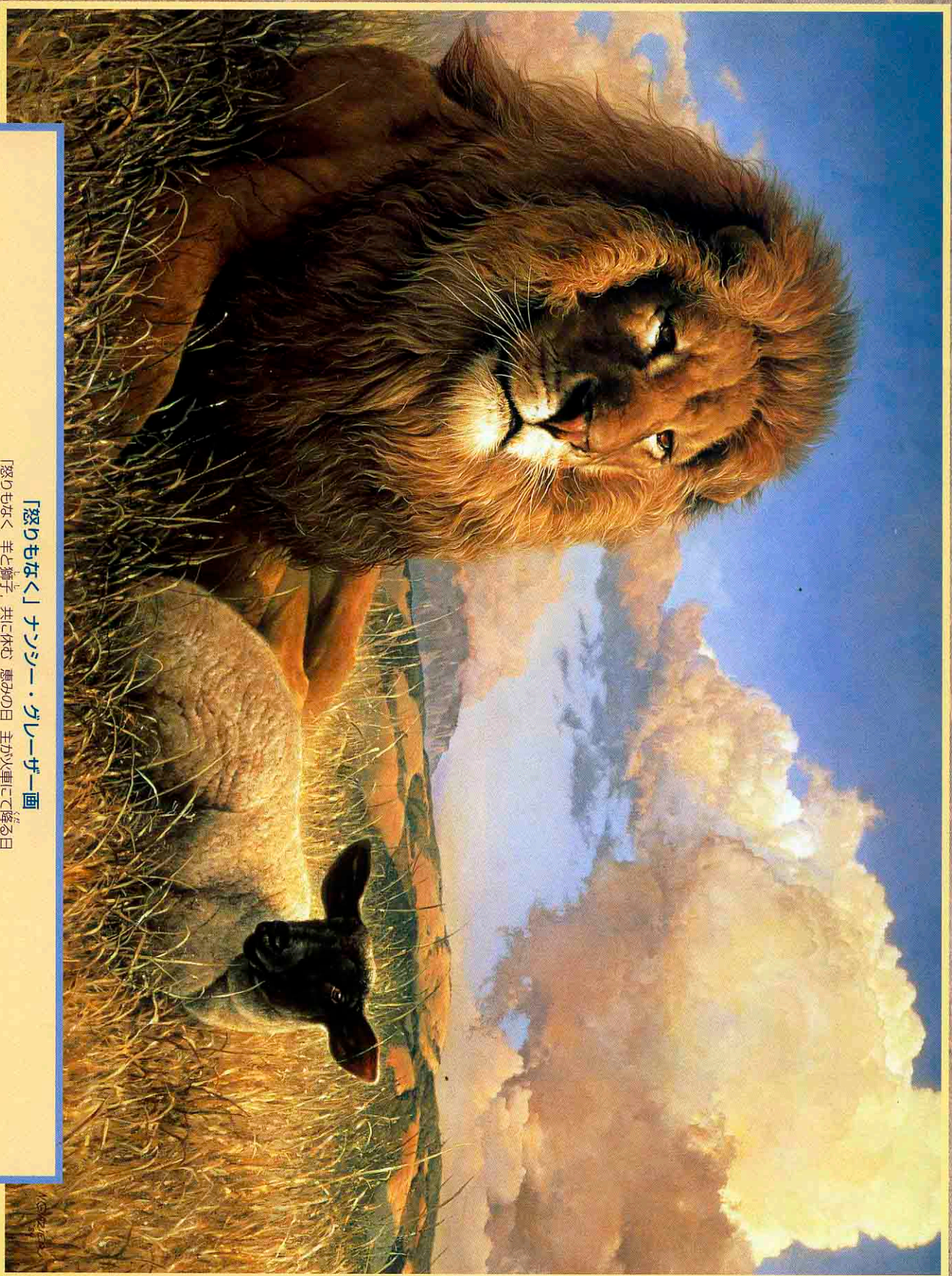
今月号に採り上げられているテーマ

「F」は『フレンド』の略	
芸術	10
贖い	2, 16
クリスマス	2, 25, 26, 32, F2, F4, F6, F16
教会歴史	44, 47, F6
改宗, 改心	26, F14
デート	22
死	16
信仰	2, 46
家庭の夕べ	48
贈り物	25, 32, F2
聖霊	26, 34
ホームティーチング	5
希望	16
イエス・キリスト	2, 6, 10, 16, F2, F4, F9, F12, F16
指導性	47, 48
愛	26, F2
伝道活動	26, 32
音楽	20, 32, F6
新約聖書ものがたり	F9
従順	22
初等協会	F12
預言者	6, 34
回復	44
復活	2
義	34
犠牲	F14
再臨	F9, F12
奉仕	25, 26, 32
スミス, ジョセフ	44, 47, F6
標準	22
教えること	48
神殿と神殿活動	20, 33, F12, F14
証	2, 6, 10, 44
什分の一	46
家庭訪問	33
女性	34

読者の体験談を募集しています

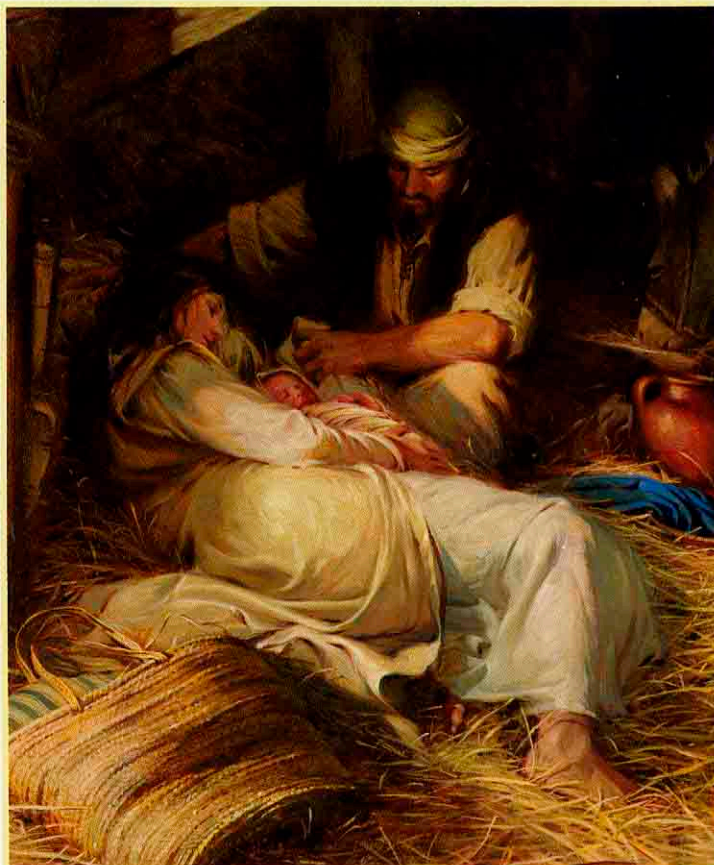
救い主の教えに従おうと努力する子どもについての体験談を募集しています。Trying to Be like Jesus, Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT84150-3223, USA, またはEメールで CUR-Liahona-Imag@ldschurch.org までお送りください。子どもの氏名, 年齢, 住所, ワード/支部名, ステーク/地方部名を明記してください。もしあれば, その子どもや記事に登場するほかの人々の写真も同封してください。





「怒りもなく」ナンシー・グラーザー画

「怒りもなく 羊と獅子、共に休む 恵みの日 主が火車にて降る日
シオンにてエフラインを患ふる」〔主のみたまの火のごと燃え〕【賛美歌】3番)



「^{けいけん}敬虔に愛をもって主イエス・キリストを思い起こすことは、
主の降誕を記念するこの時期にふさわしいことです。
わたしたちが自分自身で行えないことを、
主はわたしたちのために行ってくださいました。
主はわたしたちの死すべき存在^{たまご}を意義深いものにしてくださいました。
主は永遠の命という賜物を授けてくださいました。」

大管長ゴードン・B・ヒンクレー

「神の御子についての証」2ページ参照。

